

MISAWA

HEARTH

2017年度 ミサワホームCSRレポート



子どもたちの未来のために

HEARTH

Heart & Earth Design

親子のふれあいやご家族のつながりを深め、末永く安心して暮らせる、

Heartを大切にする住まいであること。

自然を感じながら心地よく暮らせて、地球環境に貢献できる、

Earthを大切にする住まいであること。

ミサワホームが目指しているのは、Heart(心、思いやり)と、Earth(地球)がひとつになった

“Heart&Earth=HEARTH(ハース)”の住まいづくりです。

子どもたちの未来を、より美しく、より豊かな世界にするため、

私たちは住まいに人と地球への思いやりをデザイン。

ミサワホームグループでは「HEARTH」をCSR推進活動のテーマとしています。



HEART

深く信頼されるミサワホームをめざして



EARTH

地球にやさしいミサワホームをめざして

HEARTH 住まいは“集まり”。鳥の巣がヒナを育てるためにあるように、住まいづくりは元来、子どものためにあるとミサワホームは考えています。社名の「HOME」には、単なる器としての「HOUSE」ではなく、家族のふれあいが感じられるような、暮らし方までトータルに考えられた住まい「HOME」を提供するという創業以来の理念が込められているのです。欧米には「HEARTH&HOME」という言い方があります。「HOME」に「HEARTH(暖炉)」があってもじめて暖かき我が家になる、という意味ですが、ミサワホームではこの「HEARTH」を、「HEART(心)」と「EARTH(地球)」が一体化した言葉に見立てました。

ミサワホームグループについて [WEB](#)

「住まいに関するすべての提案ができる企業」を目指して、事業分野ごとに特色を持つグループ会社が連携し、戸建住宅事業をはじめリフォーム事業、不動産事業、資産活用事業、介護・福祉事業、エクステリア事業など幅広い事業展開で、多様なニーズに対応しています。今後も市場の変化やお客さまのニーズにお応えできるよう、グループ経営力の強化を図ってまいります。

戸建住宅事業



木質注文住宅

「木質パネル接着工法」によるすぐれた総合性能をいかし、子どもや孫たちの代まで考えた住まいづくりをご提案します。

[WEB](#)

本社

木質系ディーラー

独自の「木質パネル接着工法」を採用した、
永く愛着にこたえる安心・快適な住まい。



鉄骨注文住宅

「鉄骨ユニット工法」によるハイレベルの住宅性能で、安全かつ快適な住環境を実現する住まいづくりをご提案します。

[WEB](#)

本社

鉄骨系ディーラー

強靱な鉄骨構造とニューセラミック外壁で、
“強さ”と“美しさ”を両立した住まい。



木造(軸組・2×4)注文住宅

日本の気候・風土に根ざした伝統の工法と先進の技術が融合した、日本の新しい木の家をご提案します。

[WEB](#)

 ミサワ
MJ ホーム

各ディーラー

先人の知恵と先進の技術を融合した、
高性能・高品質な耐震木造住宅「MJ Wood」。



戸建分譲住宅

環境価値、資産価値の高い優良な社会資産となるような住まいづくり、まちづくりを推進しています。

本社

各ディーラー

人と住まいと自然が調和した、
資産価値の高いまちづくり。

リフォーム事業



リフォーム・リノベーション

単にインテリアを新しくしたり、間取りを変更したりするのではなく、プラスαのアメニティをご提案し、資産価値を高めます。

[WEB](#)

 ホームイング
ディーラー

住まいの資産価値や性能・機能・
デザインを高めるベストなプランをご提案。

不動産事業



不動産流通

「スムストック」や「買取再生販売制度(ホームエバー)」により、住まいの売却をサポートします。

[WEB](#)

 ミサワホーム
不動産

各ディーラー

次の世代、その次の世代へと
住み継ぐ安心をサポート。

その他の国内関連会社

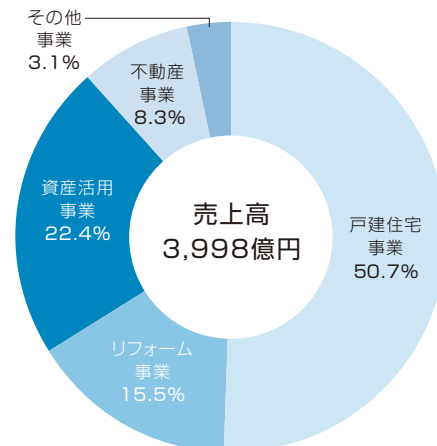
- 株式会社ミサワホーム総合研究所(研究・開発・調査) [WEB](#)
- テクノエフアンドシー株式会社(住宅部材の調達・製造・販売) [WEB](#)
- CSロジスティクス株式会社(住宅部材の運送) [WEB](#)

- ミサワホーム建設株式会社(建設) [WEB](#)
- メディアエムジー株式会社(広告・宣伝・マーケティング) [WEB](#)
- ミサワフィナンシャルサービス株式会社(フラット35・融資) [WEB](#)

[会社概要]

■ 社 名	ミサワホーム株式会社 (MISAWA HOMES CO.LTD)
■ 設立年月日	平成15年8月1日 (旧ミサワホームとしては昭和42年10月1日)
■ 主要事業所	本 社 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル 本 館 東京都杉並区高井戸東二丁目4番5号 販 売 会 社 木質系ディーラー22社 セラミック系ディーラー16社 ホームイングディーラー15社 関 連 会 社 国内14社 海外3社(中国・フィンランド・オーストラリア)
■ 資 本 金	11,892,755,813円(平成29年3月31日現在)
■ 発行済株式総数	43,070,163株(平成29年3月31日現在)
■ 従 業 員	ミサワホーム 2,582名 グループ 8,917名(連結) (平成29年3月31日現在)

[売上高(連結)]



※その他事業には建材販売、物流なども含まれます。

資産活用事業



賃貸住宅

戸建住宅で培ったデザイン力と技術をいかして高い資産価値を維持し、オーナーさまの長期安定経営をお手伝いします。

[本社](#)
[各ディーラー](#)

戸建住宅で培ったデザイン力と技術力で、
多様なニーズにこたえる賃貸住宅をご提案。



RC・SRC・S造

マンション・オフィス・店舗ビルなど、さまざまな工法の利点をいかし、オーナーさまのベストな土地活用をご提案します。

[本社](#)
[各ディーラー](#)

ワンランク上のデザイン実績で、
マーケットにこたえる土地活用をご提案。

その他事業



介護・福祉

長年の実績に基づいた、行き届いたケアサービスやドクターによる健康管理などで、シニアの暮らしと健康をサポートします。

[WEB](#)
[マザアス](#)
[WEB](#)
[トリニティ・ケア](#)

直営実績22年のノウハウで、
成功する介護・福祉事業をお手伝い。



エクステリア

人にやさしく快適な公共環境・住環境づくりを重要なテーマとして、豊かな暮らしをお届けします。

[WEB](#)
[ウィズガーデン](#)

住まいと自然が調和した、
よりあたたかな住環境をデザイン。

海外関連会社

- アルゴスペースデザイン株式会社(ビルの企画・設計・施工) [WEB](#)
- 株式会社プレステージケア東海(介護・福祉) [WEB](#)
- セントスタッフ株式会社(人材派遣) [WEB](#)

- ミサワホーム・フィンランド株式会社(住宅部材の製造) [WEB](#)
- 臨沂三澤木業有限公司(住宅部材の製造) [WEB](#)
- MISAWA AUSTRALIA PTY.LTD.(マーケティング・事業検討)

トップコミットメント



「事業の多角化」を
これまで以上に推進し、
次の50年に向けてスタートします。

ミサワホーム株式会社
代表取締役社長執行役員

竹中 宣雄

着実に「事業の多角化」を推進しています。

2016年度のがわの国の経済は、企業収益の改善に足踏み傾向がみられたものの、雇用・所得環境の改善が続き、個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。住宅業界においては、低水準の住宅ローン金利や政府による住宅取得支援策の効果により、住宅の取得に対する関心が高かったこと、また都市部を中心に賃貸住宅の建設需要が堅調に推移したことから、新設住宅着工戸数は前期比5.8%増の97万4千戸となりました。こうした中、当社グループは事業領域を「戸建住宅中心」から「住生活全般」へと拡充する中期経営計画（テーマ：「MISAWA do all」）の最終年度を迎え、着実に諸施策を実施してまいりました。当期は、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）の推進や、重量鉄骨造5階建「URBAN CENTURY」の発売など、主力事業である戸建・賃貸住宅の商品力強化に努めました。

また、事業多角化を推進するため、介護・医療・保育と商業施設、住居を組み合わせたコンパクトシティ型不動産開発として、千葉県浦安市や長野県長野市などで病院建て替え事業に着手。さらにM&Aや業務提携を積極的に行い、当社グループが未着手であった不動産投資やオフィスビルなどのリニューアル事業分野への取り組みも開始いたしました。同時に構造改革をさらに推し進め、前期の首都圏販売子会社に続き東海圏の販売子会社も直販化し、中部エリアの体制を強化。また、本社機能についてはシェアードサービスを本格稼働させるとともに、営業部門や新規事業への人員再配置を図りました。その結果、戸建住宅の売上の減少はあったものの、賃貸住宅やマンション分譲などの売上拡大により、当期は増収・増益を確保することができました（詳細はP7参照）。前中期経営計画の3ヶ年での成果としては、「事業の多角化」を推進し、マンション分譲の売上が増加したことなどにより、2013年度に戸建住宅事業の売上高が58%であったものが、2016年度では51%となり、当初計画していたストック関連事業との比率50:50をほぼ達成することができました。



「URBAN CENTURY」錦糸町出展モデル



浦安中央病院（千葉県浦安市）

新中期経営計画を策定し、次の50年に向けて新たな1歩を踏み出します。

今後のわが国の経済は、海外経済の不確実性などにより景気の先行きは予断を許さない状況が続くものと予想されます。また、住宅業界においては回復基調にあるものの、世帯数・人口減少に伴う国内住宅市場の縮小や、新築重視から既存住宅の有効活用を図るストック重視への転換など、国や社会の変化への対応が急務となっております。こうした中、当社は2017年10月に創立50周年を迎えます。これらを背景とし、2017年度を初年度とする新たな3カ年の中期経営計画を策定いたしました。本計画は事業の多角化をこれまで以上に推進することで、「次の50年に向けて継続的に成長し、企業価値をさらに高めるための第1歩を踏み出す3ヶ年（First Step For NEXT50）」と位置付けています。基本方針としては、「戸建住宅事業」の規模を維持しつつ、賃貸住宅を中心とした「資産活用事業」や「リフォーム事業」の既存事業を拡大していきます。さらに、新たな「まちづくり事業」や「海外事業」において積極的投資を行うことにより、2019年度の連結売上高4,450億円を目指しています。（詳細はP8参照）

具体的な事業戦略として、「戸建住宅事業」では注文住宅に

において「ZEH」「IoT」「MISAWA-LCP」などの提案を盛り込んだ付加価値の高い住宅を開発し、建て替え・多世帯住宅を軸とした商品ラインアップの充実により、中・高価格帯商品を強化。
ミサワ エルシービー
 また、分譲住宅において耐震木造住宅「MJ Wood」や分譲商品エムジェイウッドの企画化を図り、商品力を高めて積極的に展開します。「資産活用事業」では成長市場である都市部の建て替え層をメインターゲットとした中層耐火住宅の販売強化、ラインアップの拡充などで、賃貸住宅のシェアアップを目指します。また、既存リソースである木質パネル接着工法や鉄骨ユニット工法を活用した非住宅分野・大規模建築についても受注拡大に努めます。「リフォーム事業」の住宅向けリフォームについては、中・大型リフォームを強化。非住宅においては、建物自体の耐震性や耐用年数を大幅に向上させる建築再生手法「リファイニング※」への取り組みを強化することで、2019年度の売上高は2016年度比13%増の700億円を目指します。また、今中期経営計画より新たなセグメントとして加えた「まちづくり事業」では、オフィスビルやマンションなどの開発に積極的投資を行うほか、医療・介護・子育て支援を中心とした複合開発やコンパクトシティ型不動産開発も積極的に展開。さらに、既存住宅団地再生やモビリティ連携など、新しいニーズに対応した「未来志向のまちづくり」を目指します。同じく新規のセグメントである「海外事業」では現地企業との資本提携(M&A)により事業基盤を築き、オーストラリアを中心に海外展開を本格化することで、2019年度の売上高100億円を目指します。また、「その他事業」では、社会貢献活動の側面を持った介護福祉施設の運営や、学童保育・放課後等デイサービスなどの子育て支援事業にも取り組みます。

※太平洋セメント株式会社、株式会社青木茂建築工場の登録商標



ミサワホームが参画した駅前再開発プロジェクト「グランクロスタワー広島」

トヨタホームとの資本業務提携によりシナジーの最大化を目指します。

トヨタホームをはじめとするトヨタグループとは、2005年に産業再生機構の枠組みの中で第三者割当増資による資本提携契約を結んで以来、資材の共同調達や戸建住宅の共同分譲、役員を含む人材交流など、主にバックヤードでの連携強化を

図ってきました。しかし、厳しい戸建住宅市場環境の中で新たな中期経営計画を推進していくには、さらなる連携強化が必要との考えに両社が至り、2017年1月にトヨタホームを割当先とする新株式の発行と、トヨタホームが実施する公開買付けにより、トヨタホームが保有している当社の株式約28%を51%まで拡大。これにより、当社のグループ各社はトヨタホームの連結子会社となりました。新中期経営計画の経営戦略においても「トヨタホームとのシナジーの最大化を目指す」ことを掲げ、「技術・商品開発」「設計・建設」「調達」「生産・物流」「販売」「システム」の6つのテーマにおいて、両社のシナジー効果を最大化するための取り組みを進めます。

ミサワホームのDNAを継承しブランド力の維持・向上を図ります。

トヨタホームの連結子会社となりましたが、ミサワホームというブランドは維持し、上場も継続いたします。当社のコーポレートスローガンである「住まいを通じて生涯のおつきあい」の精神や、創立以来50年にわたり培ってきた「No.1を目指す」「デザインにこだわる」「顧客志向・CS重視」といったミサワホームのDNAを再評価し、企業ブランド力の維持・向上を図ってまいります。また、当社グループはすべてのステークホルダーの満足度を高めるためにCSR経営を推進し、社会的責任を果たせる企業となることを目指しています。株主に対しては継続的かつ安定的な利益還元を経営上の重要課題のひとつと考え、自己資本、財務体質の改善の充実度を勘案した上で、業績を加味しながら配当を行なうことを基本としております。これに基づき2017年3月期の配当予想につきましては、前中期経営計画の最終年度において、親会社株主に帰属する当期純利益の期初計画を達成することができたことを勘案し、また10月には創立50周年を迎えることも踏まえて、従来公表しておりました普通配当20円に特別配当5円を加えた計25円とさせていただきます。

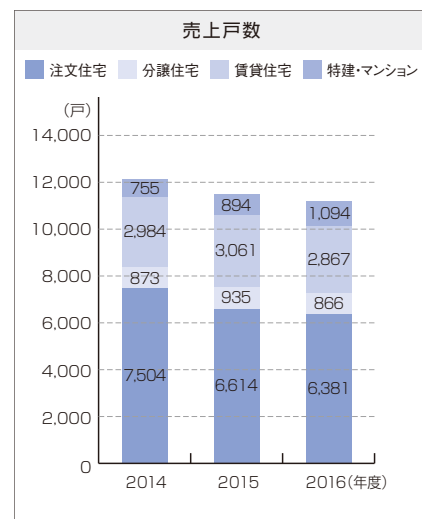
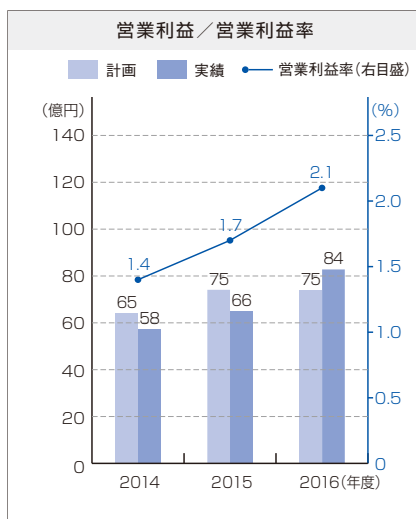
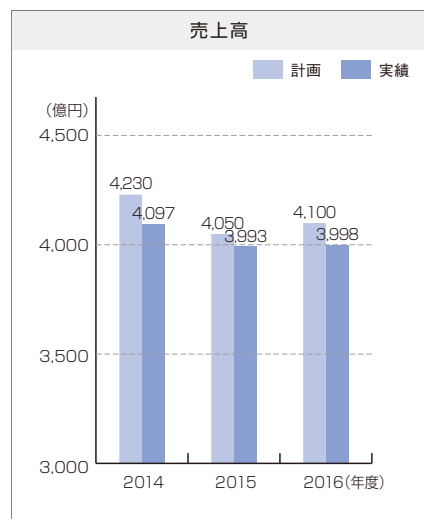
従業員の満足度向上への取り組みとしましては、昨今重視されている「働き方改革」の推進として社内に「働き方改革プロジェクト」を立ち上げ、スライド勤務やインターバル制度など、当社に合った新制度の導入を検討しています。あわせて従来より推進しているダイバーシティについても、若者や女性の活躍を中心としたキャリア形成から、障害者や高齢者などをターゲットとした施策も充実させることで「働きやすい会社」となり、従業員満足度(ES)の向上、社員のやる気・やりがいの最大化により、優秀な人材の確保と社員定着率の向上を目指してまいります。

ミサワホームグループのCSR活動はまだまだ不十分な点が多々ございますが、このレポートを最後までご一読いただき、忌たんのないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

中期経営計画(2014～2016)の総括 WEB

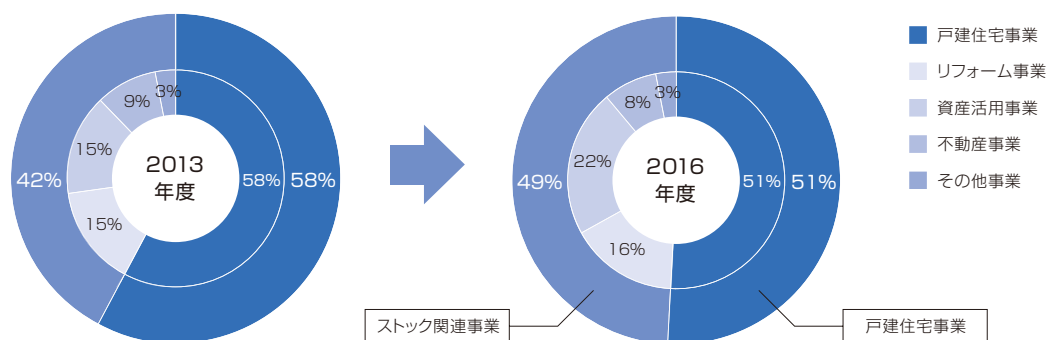
【計数計画・実績】

当社グループは2014年度から2016年度までの3ヶ年を期間とする中期経営計画(テーマ:「MISAWA do all」)に基づき、事業領域を「住生活全般」に拡大し、「事業多角化の推進」により住まいに関するすべての提案ができる企業を目指してまいりました。その結果、最終年度である2016年度では増収・増益を果たしましたが、売上棟数の減少により売上高は2014年度を上回ることができませんでした。しかし、この3ヶ年で実施してきた構造改革による販売管理費の圧縮などが最終年度に大きく成果を出し、営業利益は2期連続の増益となり、2016年度は計画を上回ることができました。また、これにより営業利益率も1.4%から2.1%へと回復しています。



【事業の多角化】

「事業の多角化」の面では、この3ヶ年で戸建住宅事業の売上高構成比は58%から51%となり、当初計画していたストック関連事業との比率50:50をほぼ達成しました。特に、賃貸住宅やマンションを中心とする資産活用事業が15%から22%へ伸張しました。



【その他の主な実績】

- ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)の推進
- 重量鉄骨造5階建「URBANCENTURY」発売
- コンパクトシティ型不動産開発事業への着手(病院建て替えなど)
- 構造改革の推進
 - シェアードサービス
 - 販売会社の直販化(首都圏4社、東海地区1社など)
 - 生産体制最適化(松本工場生産停止、岩手工場売却)
 - ミサワホーム建設株式会社の設立
 - ミサワホーム不動産株式会社の設立
 - 部材発注システムの簡略化
 - 本社体制の圧縮による余剰人員の営業要員シフト
- ミサワフィナンシャルサービス株式会社の設立
- オーナーリレーション強化(住まいるりんぐDesk、ミサワでんき)
- 27年連続グッドデザイン賞受賞
- 10年連続キッズデザイン賞受賞
- オーストラリアでのテストマーケティングの実施
- トヨタホームとの資本業務提携

新中期経営計画(2017～2019) WEB

【新中期経営計画の位置づけ】

次の50年に向けて継続的に成長し、企業価値をさらに高めるための第1歩を踏み出す3ヵ年とする。
「First Step For NEXT50」

【新中期経営計画の基本方針】

「戸建住宅事業」の規模を維持しつつ、賃貸住宅を中心とした「資産活用事業」や「リフォーム事業」の既存事業を拡大するとともに、新たな「まちづくり事業」や「海外事業」においても積極的投資を行い、2019年度の連結売上高4,450億円を目指す。

【新中期経営計画の経営戦略】

① トヨタホームとのシナジー効果の最大化を目指す。

「技術・商品開発」「設計・建設」「調達」「生産・物流」「販売」「システム」の各テーマにおいて、両社のシナジー効果を最大化するための取り組みを進めます。

② ミサワホームのDNAを継承し、ブランド力の維持・向上を図る。

コーポレートスローガンである「住まいを通じて生涯のおつきあい」の精神や、創立以来50年にわたり培ってきたミサワホームのDNAを再評価し、企業ブランド力の維持・向上を図ります。

③ コストダウンの推進などにより、財務基盤の強化を図る。

VEや工業化を推進し、3年間で75億円のコストダウンを目指します。さらに利益の積み上げにより、3年後の自己資本比率を現在の20.2%から24%へと向上させ、財務基盤の強化を図ります。

④ 適切な「人事戦略」と「働き方改革」の推進により、従業員満足度(ES)向上を図る。

市場環境や事業戦略に基づいた適切な人事戦略および人員配置に加え、社内に働き方改革プロジェクトを立ち上げて社員がより働きやすい制度・環境づくりに取り組みます。

事業別損益計画

事業セグメント	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
	実績	計画			2016年度比
戸建住宅事業	2,322	2,345	2,340	2,270	▲2%
資産活用事業	507	530	526	531	5%
リフォーム事業	620	630	660	700	13%
まちづくり事業	373	325	486	638	71%
海外事業	0	0	31	100	—
その他事業	174	170	207	211	21%
売上高	3,998	4,000	4,250	4,450	11%
営業利益	84	70	95	120	43%
経常利益	81	65	90	115	42%

戸建住宅事業：注文住宅、分譲住宅(土地売上含む)

資産活用事業：賃貸住宅、特建

リフォーム事業：戸建住宅リフォーム、建築物のリノベーション 他

まちづくり事業：コンパクトシティ型不動産開発、マンション、賃貸管理、既存住宅仲介、買取再生販売 他

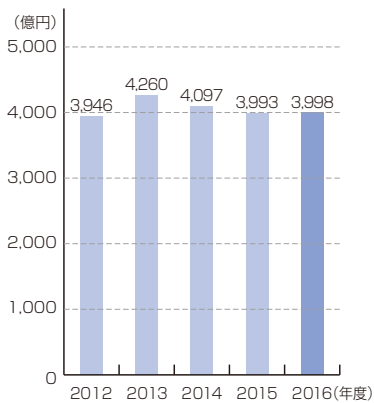
海外事業：海外における売上

その他事業：介護施設運営、建材販売、物流 他

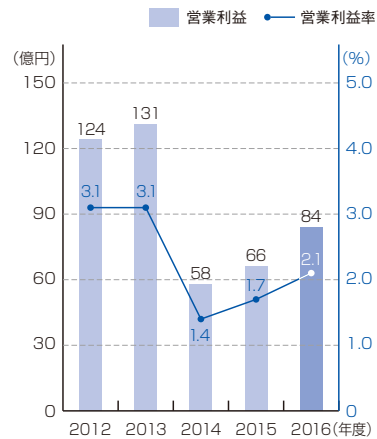
財務・非財務パフォーマンス

【財務情報】 WEB

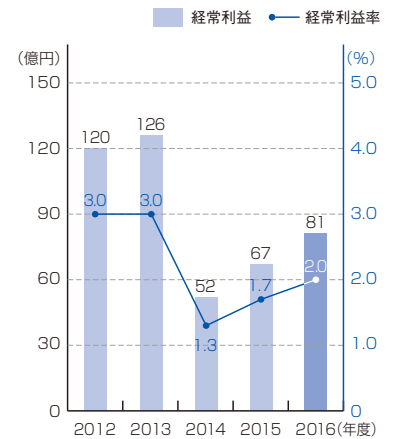
売上高



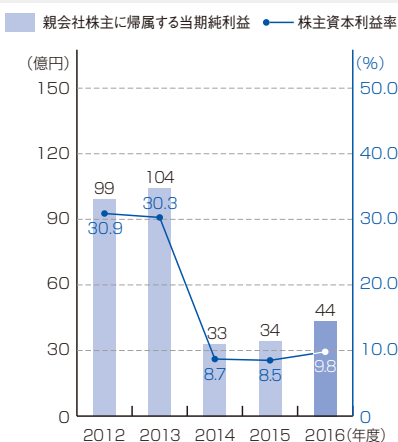
営業利益／営業利益率



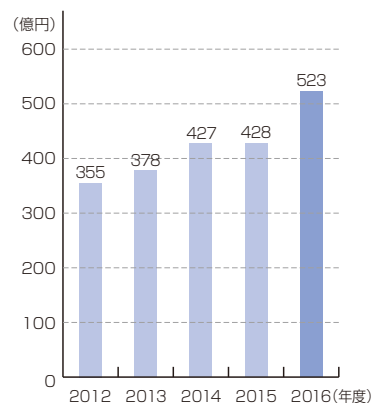
経常利益／経常利益率



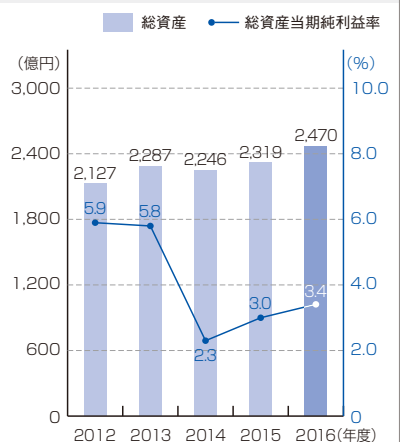
親会社株主に帰属する当期純利益／株主資本利益率



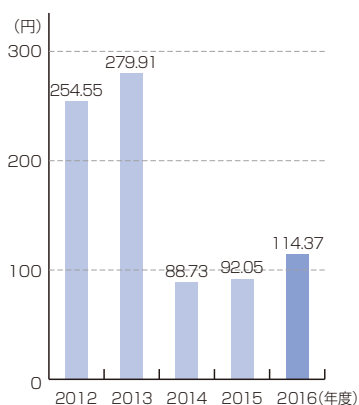
純資産



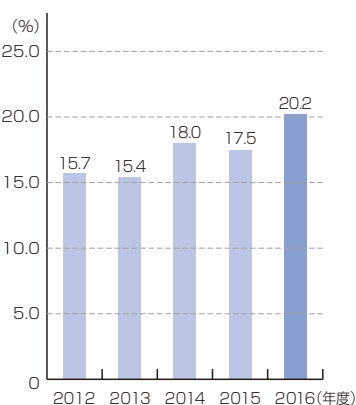
総資産／総資産当期純利益率



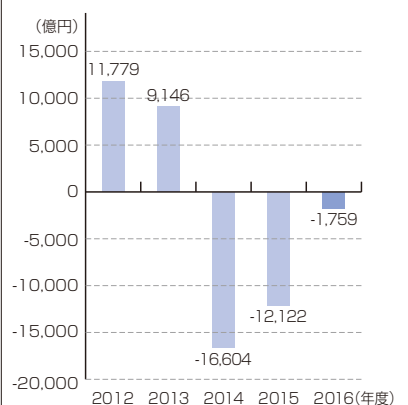
1株当たり当期純利益



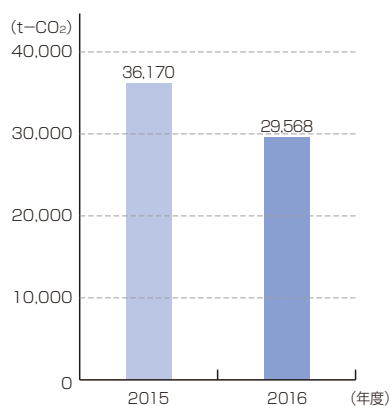
自己資本比率



フリー・キャッシュ・フロー

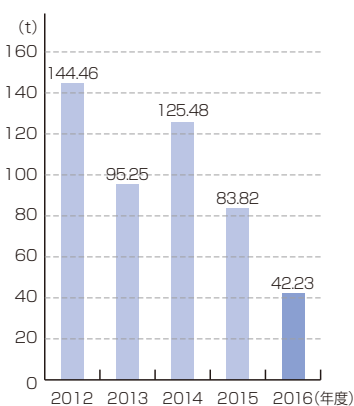


【非財務情報】

年間居住段階CO₂排出量*

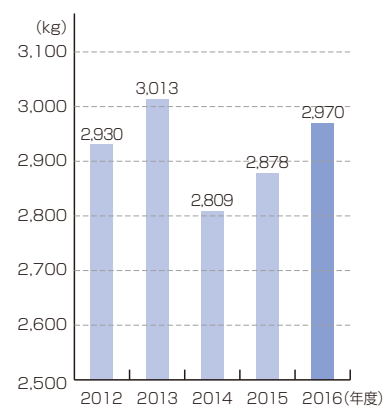
※年間CO₂排出量は、自社計算による。算出方法変更のため、2015年度より掲載。

化学物質取扱量*



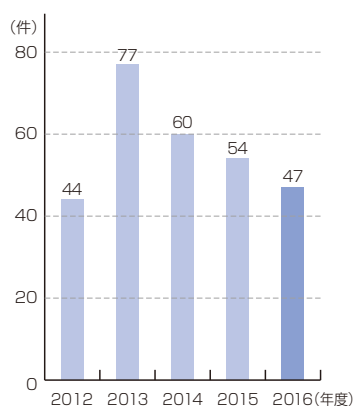
※化管法第一種指定化学物質および日本化学工業協会指定化学物質を対象として、大気、水域、土壌への排出量および事業所内埋立量を集計。化管法・特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律。

新築現場における棟当たり廃棄物発生量*



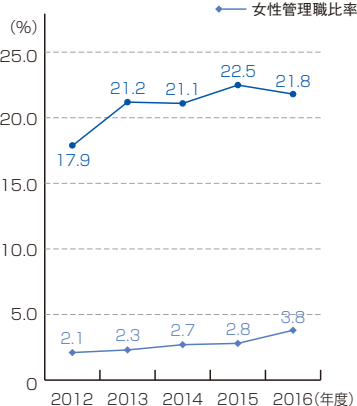
※木質・鉄骨住宅(2015年度より木造含む)における戸建集合住宅の棟当たり廃棄物発生量の平均値。

労働災害発件数*



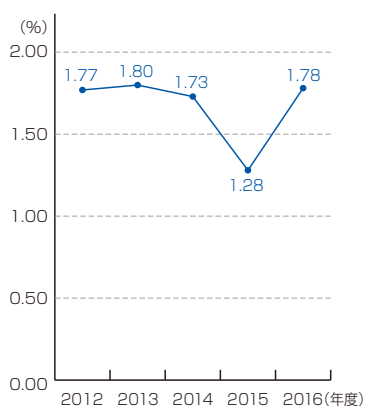
※工場、建設現場における休業4日以上の労災事故発件数。

女性社員・管理職比率*



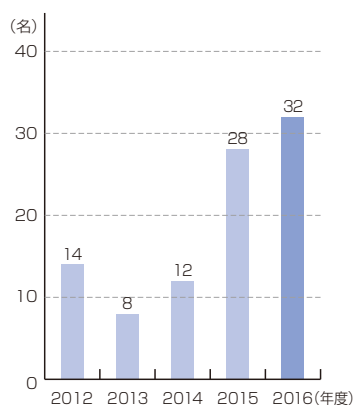
※グループ会社を含む。

障害者雇用率*



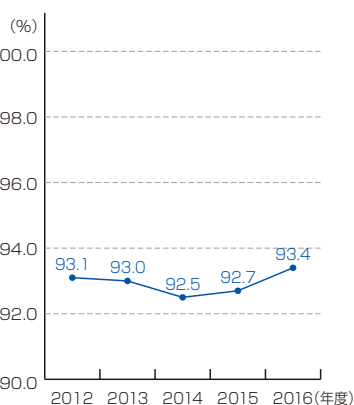
※ミサワホーム単体。2015年度以降は首都圏販売会社4社直販化。

育児休業取得者数*



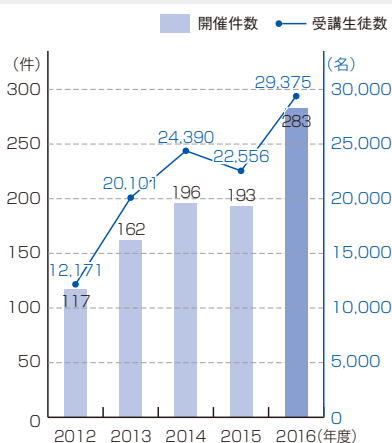
※ミサワホーム単体。2015年度以降は首都圏販売会社4社直販化。

お客さま満足度(総合)*



※オーナーさまお伺い書で5段階評価のうち、「満足」と「まあ満足」が全体に占める比率。

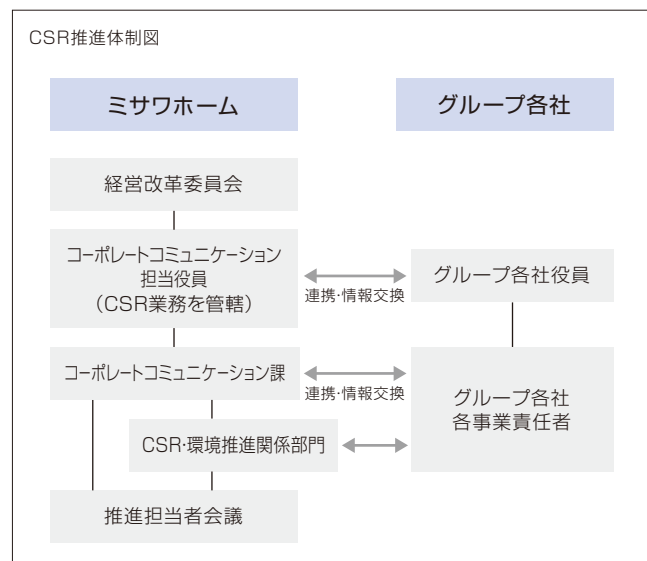
「南極クラス」開催件数・受講生徒数



CSRマネジメント

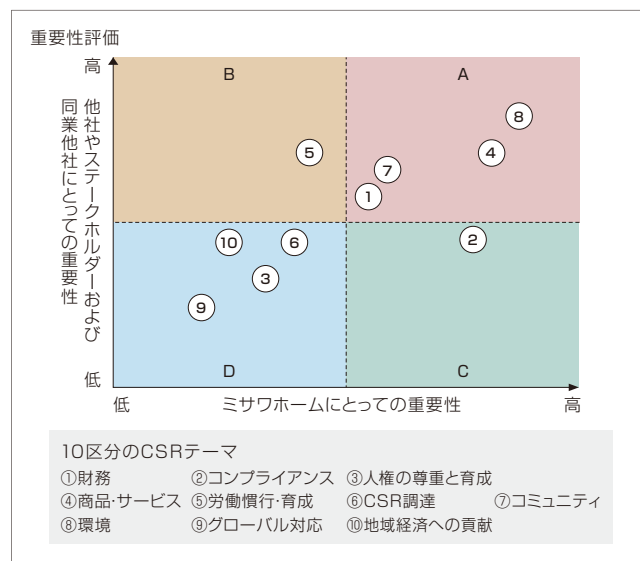
【CSRマネジメント体制】

ミサワホームは経営企画部に「コーポレートコミュニケーション課」を設置し、CSRに関する方針の立案やグループ全体のCSR実施状況の調査、確認、報告などを行っています。方針変更などの重要事項はその都度、実施状況については年2回（原則として6月、12月）、執行役員などで構成される常設の「経営改革委員会」に報告・審議されます。CSRや環境推進活動に関連する部門には推進担当者を置き、定期的に推進担当者会議を開催して、必要な情報連絡と進捗状況の確認を行っています。また、グループ各社にはCSR推進部署は設置していませんが、CSR業務も管轄するコーポレートコミュニケーション担当役員が、年2回開催されるグループ会社を集めた合同会議などにて、グループ各社の役員とCSRや環境推進活動について情報交換や連携を図っています。さらにコーポレートコミュニケーション課と関連部門は、グループ各社の各事業責任者とも情報交換、連携を密にとり、グループ全体としてのCSR活動のレベルアップを図るように努めています。



【ミサワホームのCSR重要テーマ】

ミサワホームは、2013年にステークホルダーへのアンケートと同業他社のCSR取り組み分析を実施しました。事業活動に関わるさまざまなCSRテーマの中から、ステークホルダーや同業他社の関心が高い「10区分のCSRテーマ」を抽出。自社の重要性和マッピングすることで、ミサワホームが持続的成長を目指すために重点的に取り組むべきCSR重要テーマを特定しました。特定された6つのCSR重要テーマ「①財務」、「②コンプライアンス」、「④商品・サービス」、「⑤労働慣行・育成」、「⑦コミュニティ」、「⑧環境」についてはCSRの重要指標を定め、中期経営計画と連動した2016年度の目標値を設定し、取り組みを行ってきました。2017年度以降も各ステークホルダーの関心度についてアンケートで確認し、重要性の再評価と重点指標の見直しを行い、社会課題の解決に向けたCSR活動を推進していきます。なお、重点指標以外のCSR指標については目標値を設定しませんが、毎年実績を集計し、経年の進捗状況を把握。さらなる推進を図るために、CSR活動の「見える化」を実施しています。



CSR重要テーマと2016年度目標値の達成状況

事象	CSR重要テーマ	ISO26000中核主題	CSR重点指標	実績値 (2015年度)	実績値 (2016年度)	目標値 (2016年度)
A ミサワホームも ステークホルダーも 重要と考える課題	⑧環境	環境	環境行動計画SUSTAINABLE	P48に記載		
	④商品・サービス	消費者課題	お客さま満足度(総合)*1	92.7%	93.4%	100%
			お客さま満足度(建物)*1	95.6%	96.1%	100%
			長期優良住宅認定取得率	36%	48%	80%
B 他社やステークホルダーが 重要と考える課題	⑦コミュニティ	コミュニティへの 参画及び コミュニティの発展	環境共生住宅棟数	271棟	120棟	500棟
	①財務	組織統治	中期経営計画損益	売上高 3,993億円 営業利益 66億円	3,998億円 84億円	4,100億円 75億円
C ミサワホームとして重要な課題	⑤労働慣行・育成	労働慣行	女性管理職比率(MG)	2.8%	3.8%	5%
			労災事故発生件数(休業4日以上)	54件	47件	0件
D ミサワホームとして重要な課題	②コンプライアンス	消費者課題	個人情報漏洩事故発生件数	15件	10件	0件

*1 お客さま満足度調査において5段階評価のうち、「満足」と「まあ満足」が全体に占める比率。

【ステークホルダーエンゲージメント】

ミサワホームグループでは、ステークホルダーとのエンゲージメントに継続して取り組んでいます。2016年度もミサワホームが重点的に取り組むべきCSR重要テーマに対して、ステークホルダーとのさまざまなコミュニケーションを通じてCSR重点指標の向上に取り組みました。また、毎年すべてのステークホルダーを対象にCSRアンケートを実施し、CSRテーマに対するミサワホームの取り組み状況についての評価を確認しています。2016年度はオーナーさま250名、消費者308名、従業員1,272名、取引先258名、役員9名、マスコミ・機関投資家29名の合計2,126名より回答を頂きました。



●業界団体に積極的に参加し、住宅産業における「環境活動」を推進

ミサワホームは、(一社)住宅生産団体連合会の副会長を務め、環境委員会をはじめ環境行動分科会などにも参加。(一社)住宅生産振興財団では理事長を務め、住環境の質の向上のための企画、運営、普及啓発、調査研究を行っています。また、(一社)環境共生住宅推進協議会では、会長や運営委員長を務めるほか、広報部会、推進部会、調査研究会へ参加。自然・風土・文化などの周辺環境や地球資源と調和する暮らしを目指す「環境共生住宅」の普及に努めています。2016年度は「早わかり設計ガイド(戸建住宅編)」などの策定に協力。さらに、大手住宅メーカーが会員となっている(一社)プレハブ建築協会住宅部会に設置された環境分科会に参加し、持続可能な社会の実現を目指した環境行動計画「エコアクション2020」を推進しています。また、毎年秋口に環境計画シンポジウムを開催し、計画目標に対する経営実績や会員会社の先進事例などを発表しています。ミサワホームはこのような活動を通じて、住宅産業における「環境活動」の底上げに貢献しています。

CSR重要テーマに対するステークホルダーコミュニケーション

CSR重要テーマ (主なステークホルダー)	CSRテーマ	コミュニケーション
環境 (行政・業界団体・NGO/NPO)	有害化学物質、大気、水質および土壌汚染の防止 地球温暖化防止 廃棄物の削減と資源の有効活用 生物多様性保全	(一社)住宅生産団体連合会 環境委員会・環境行動分科会
		(一社)環境共生住宅推進協議会
		(一社)プレハブ建築協会住宅部会環境分科会
		環境省
		公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)
		NPO法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン
商品サービス (オーナーさま・消費者)	卓越したデザインや技術による良質な住宅やサービスの提供 技術革新や商品開発による新しい価値の創造	住まいのりんぐDesk
		GOOD!住まいフェア
		住宅展示場、ホームページ、SNS
		ミサワオーナーズクラブ
		ご入居後のお伺い書(3ヶ月、1年、2年、5年、10年、15年)
		引き渡し後2年間で3回の定期巡回サービス(無償) 引き渡し後5年毎の定期点検サービス(20年目まで無償、以降は有償)
コミュニティ (地域・社会)	地域社会との良好な関係とその発展への寄与	工場見学会
		学校生協を通じた小中学校での「南極クラス」(283回開催)
	芸術、文化、教育、福祉活動などの社会貢献活動	講演、教育現場への講師派遣
		パウハウスコレクション展
財務 (株主・投資家)	長期安定的な成長による収益確保 株主への適切な配当 財務報告を含む経営情報の適時開示	株主総会(6/29:119名)
		株主向け施設見学会(3/20:19組27名)
		機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会(5/18:63名)、(11/9:78名)
		株主通信
		適時開示
		環境省「環境情報開示基盤整備事業」への参加
労働慣行・育成 (従業員)	健康的で働きがいのある職場づくり 工場、施工現場の労働条件の改善	従業員意識調査
		安全衛生委員会
		ストレスチェック
	安定的な雇用と人材育成	健康・医療・育児・介護に関する相談窓口
		階層別研修(15回:573名)
		女性社員研修(3回:171名) 技能訓練センター研修(52回:974名)
コンプライアンス (従業員・取引先)	法令を遵守し、倫理を重んじた誠実な事業活動 取引先との公正な関係と協働	内部(外部)通報制度 調達方針会議
共通	ミサワホームで選定した19の課題	CSRアンケート

HEART & EARTH Design

家を建てたいと思うのはきっと、お子さまのためではないでしょうか。1,000年以上も前の歴史書「古事記」を読むと、住まいの意味で「集まい」と記されています。住まいはもともと、ヒナを育てる集まいと同じだったのです。よりよい子育てのために、子どもの夢を大きく育むために、親子のふれあいを豊かにするために、住まいをつくる。この「集まい」づくりの原点こそが、ミサワホームの理念です。ミサワホームは、子どもたちの未来のために、環境保全から日本の心の継承まで広い視野で住まいづくりを考えた「4つの育む」をお約束します。

【ミサワホーム「4つの育む」】 [WEB](#)

●環境を育む

ミサワホームは、ミサワホームを建てるのが環境保全につながるよう、一步先のECO住宅をお約束します。太陽光+太陽熱を活用する「カスケードソーラーシステム」や、雨水・風力・地熱など「新しい自然エネルギー」の活用、ゼロ・エネルギー住宅を超える「ライフサイクルCO₂マイナス住宅」の開発、季節や天候、時間によって自動的に快適空間を生み出す「ECOマネジメントシステム」の開発など、ミサワホームはECO住宅の未来をもっと明るくします。



●暮らしを育む

ミサワホームは、永く住み継がれる、価値の高い住まいづくりをお約束します。子どもや孫たちの代まで考えて、何十年に一度の大地震にも耐える住まいを設計。建物の揺れを抑制する制震装置「MGEO」^{エムジオ}も開発しました。また、「住まい」と「まち」に歴史的価値を与えるために、歳月とともに価値が高まる美しい建物をデザイン。価値の高い住まいは、将来の住み替えにも有利です。これからも資産としての住まいづくりをますます充実させていきます。



ミサワホーム 「4つの育む」

●家族を育む

ミサワホームは、安心・快適な暮らしを楽しめる住まいづくりをお約束します。先進のセキュリティシステムや家庭内事故を防ぐ設計、子どもの成長を促し子育てをサポートする「キッズデザイン」の普及を推進。暮らし全般を対象とした「ライフサポートサービス」も充実させ、「休養・こころの健康づくり」ができる住まいの開発をすすめています。また、豊富な介護事業の経験をいかして、高齢者対応の末永い安心の住まいづくりを推進しています。



●日本人の心を育む

ミサワホームは、日本人のアイデンティティを大切にする新しい暮らしをお約束します。モノを大切にする心を育て、ご家族の大切な品を継承する大収納空間「蔵」や、四季の移ろいを実感できる「ECO・微気候デザイン」の普及を推進しています。日本の住まいづくりの伝統をいかすとともに、地域特有の文化を再定義して、それぞれの気候・風土・文化などに対応した住宅や暮らしを研究。日本の各地に根ざした住まいの開発体制を整備しています。



【グッドデザイン】

●27年連続でグッドデザイン賞受賞

WEB

ミサワホームは、2016年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)にて、木質系戸建住宅「Granlink HIRAYA」や被災度判定計「GAINET」など、計7点でグッドデザイン賞を受賞しました。これにより、1990年の初受賞以降、住宅業界唯一の27年連続受賞となりました。2016年度の受賞一覧は下記の通りです。また、ミサワホームは、日本経済新聞社が主催する「日経メッセ 街づくり・店づくり総合展」の特別企画である「GOOD DESIGN Biz EXPO 2017」WEBにおいて「受賞企業プロモーションエリア」にも出展しました。

1990
|
2016

51の住まいをはじめ、
計140点の受賞は、
住宅業界で随一の実績です。



●GOOD DESIGN HISTORY

WEB

グッドデザイン賞は、1957年の創設以来約60年にわたって実施されている日本で唯一の総合的なデザイン推奨制度です。受賞作品は、単に美しいデザインであるというだけでなく、高い機能性や品質、安全性、社会や環境への貢献といったさまざまな視点から評価・選出。住宅について、永く健康的に暮らせる住まいづくりを推進しています。ミサワホームは、住まい手の家族構成や趣向が変わっても豊かに暮らし続けられる住まいには、すぐれたデザイン性と機能性を両立させたシンプルなデザインが必要という考えから、これまで「シンプル・イズ・ベスト」というデザインポリシーのもとで商品やサービスの開発に取り組んできました。ミサワホームでは、四半世紀を超えるグッドデザイン賞の受賞実績に裏付けられた「デザインのミサワホーム」をこれからも積極的に訴求するとともに、今後も「『住まいを通じて生涯のおつきあい』という精神のもと、良質の『住まい』を提供し、豊かな社会づくりに貢献します」というコーポレートスローガンに基づき、事業を推進していく考えです。

2016年度グッドデザイン賞 受賞一覧

スマートスタイル エイチ 木質系戸建住宅「SMART STYLE HJ」



外観



リビングダイニング

グランリンク ヒラヤ 木質系戸建住宅「Granlink HIRAYA」



深い軒の出が印象的な外観



テラスとのつながりを考えたリビング

ガイネット 被災度判定計「GAINET」※1



表示部



スマートフォンでの操作イメージ

分譲地「オナーズガーデン昭島」

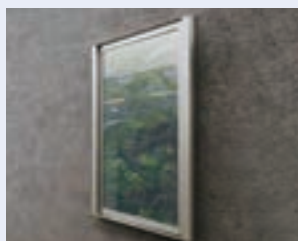


まちの様子



共有スペース

アルミ樹脂複合サッシ「AZサッシ」※2



縦すべり出しサッシ



引違いサッシ

マンションリノベーション「ROOM907」※3 個人邸「都会の数寄屋」



空間を最大限確保したリビング



モダンな印象を与える外観

※1 株式会社ミサワホーム総合研究所およびKDDI株式会社との共同受賞。 ※2 株式会社LIXILとの共同受賞。 ※3 西澤徹夫建築事務所との共同受賞。

ミサワホームグループの環境への取り組み

ミサワホームでは、環境への取り組みとして1997年に「新・環境宣言」を公表しました。以降、その宣言に基づいて、さまざまな環境活動を展開。2016年度には、2020年度までの5ヶ年で達成すべき環境目標を定めた環境行動計画「SUSTAINABLE 2020」の4本柱を軸とし、その1つとしてZEHロードマップを策定しています。この計画に沿って活動してきた結果を踏まえて、これからもグループ一丸となり、積極的な環境活動を展開していきます。

【環境行動計画「SUSTAINABLE 2020」】

●環境宣言

【理念】

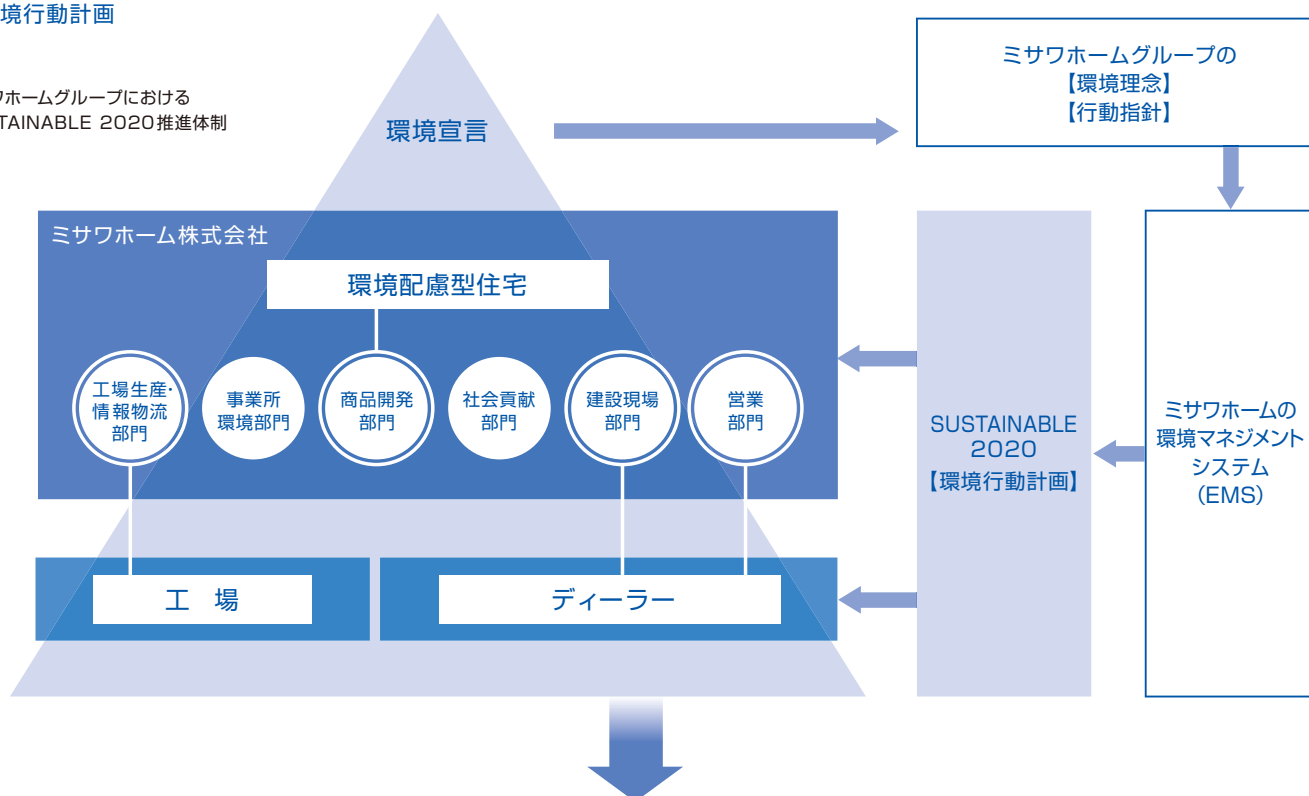
私たちミサワホームグループは、社会生活の基本単位である住まいを提供する企業として、地球環境保全を視野に入れた「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の構築を目指した取り組みを積極的に推進し、安全・快適な住まいと良好な住環境の形成による持続可能な社会の実現に努めてまいります。

【行動指針】

- 1 ミサワホームグループの一人ひとりが地球環境問題の重要性を認識し、環境保全における自らの役割を考えながら行動します。
- 2 住宅のライフサイクルの各段階において、CO₂削減、資源有効活用、生物多様性保全に貢献します。
- 3 環境関連法規を遵守し、周辺環境、地域環境に配慮した環境を育む企業活動を行います。
- 4 身近な環境保全活動を通して、広く社会とコミュニケーションを図ります。
- 5 環境研修を徹底し、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成します。

●環境行動計画

ミサワホームグループにおける
SUSTAINABLE 2020推進体制



SUSTAINABLE 2020 (2016年度～2020年度)の4本柱

1 CO₂削減

低炭素社会の構築に向けたCO₂排出量の削減

2 資源有効活用

循環型社会の構築に向けた廃棄物削減と資源の有効活用

3 生物多様性

自然共生社会の構築に向けた生物多様性への配慮

4 良好な住環境

安全・快適・健康に配慮した住環境の整備

【ZEH ロードマップを策定】 WEB



ミサワホームは、2014年4月に閣議決定されたエネルギー基本計画における「2020年までに標準的な新築住宅でZEHの実現を目指す」という目標に向けて、2020年度までのZEH普及目標を年度別に定めたロードマップを策定。2016年度からの環境行動計画「SUSTAINABLE 2020」にも取り入れています。今後もさまざまなZEH普及策を検討し、目標達成に向けて取り組むことで、低炭素社会の実現に寄与する考えです。

ミサワホームのZEH普及目標※1

年 度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
目標値	15% (実績値)	20%※2	30%※2	40%※2	60%※2

※1 当社グループが新築するすべての戸建住宅(注文住宅および建売住宅)棟数におけるZEH(Nearly ZEHを含む)の占める割合。 ※2 2017年度以降の目標値を見直し。

安全・安心な住まいづくり



ミサワホームグループは、ご家族の安全・安心を考えた住まいづくりにこだわっています。近い将来の発生が予想される大地震への備えは、その重要な要素のひとつです。防災・減災を住宅設計に組み込むとともに、お客さまが被災された場合にサポートできる体制も整備しています。また、防水、防湿、防蟻、防蟻などへの対策による建物の耐久性の確保や長期の保証により、大きな安心をお届けしています。

【防災・減災住宅】WEB

防災・減災ソリューション「MISAWA-LCP」で3段階の災害対策を取り入れた住まいづくりを推進。

防災・減災ソリューション「MISAWA-LCP」では、ミサワホームが提案してきたさまざまな自然災害対策を、トータルなソリューションとして整理。日常の「備え」、災害時の「守り」、復旧までの「支え」という3つの「SAFETY SOLUTIONS」により、平常時、災害時、災害後のいずれにも安全・安心な住まいづくりを推進します。

MISAWA-LCP設計基準



躯体性能基準

- 震度7でも構造躯体が倒壊しない建物にする
- 最大瞬間風速60m/s相当でも倒壊しない建物にする
- 行政基準の1.2倍の雪の荷重に耐える建物にする
- 家のどこにいても火災に早く気付けるようにする



プランニング基準

- 飲料・日用品7～14日分の備蓄スペースを確保する
- 安全な複数経路、水平・垂直の避難経路を設ける
- 避難生活の健康被害を軽減する冬季最低室温を確保する
- 日常から家族・近隣とコミュニケーションしやすい設計にする
- ゲリラ豪雨、床下・床上浸水に耐える



仕様基準

- 熱源を確保する
- 食料を確保する(家族数×14日分)
- 備蓄品以外での上水・中水を確保する

生活インフラやライフライン停止・停滞時の7日間+αに及び自宅避難生活を想定した備え(停電・ガス遮断・断水・下水遮断・物流停滞)

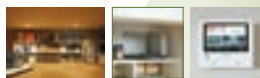
※内閣府/中央防災会議「首都直下地震の被害想定と対策について」を参考に、ミサワホームが考える「ひとつ上の安心基準」を策定。

3段階のSAFETY SOLUTIONS

1st SAFETY SOLUTIONS

《備えるデザイン》

ふだんの暮らしのなかで、“もしも”にしっかり備える家へ。



2nd SAFETY SOLUTIONS

《守るデザイン》

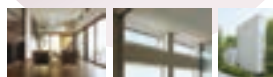
さまざまな自然災害から、ご家族と財産を守る家へ。



3rd SAFETY SOLUTIONS

《支えるデザイン》

災害発生後も、自立した快適な暮らしを復旧まで支える家へ。



ミサワホームの戸建住宅向け

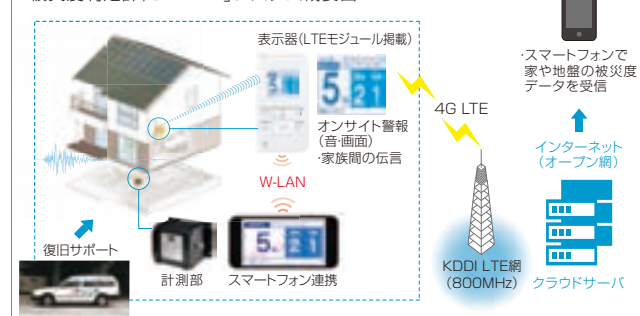
被災度判定計「GAINET」の運用を拡大。

WEB

「GAINET」は、日本国内で初めて戸建住宅専用に量産化されたミサワホームオーナーさま向けの被災度判定計で、ミサワホームグループとKDDI株式会社が共同開発しました。住宅の基礎部に設置した地震・加速度センサーで地震の初期微動を検知し、設置した住宅のリアルタイム震度・被災度を判定・表示することで、オーナーさまに注意喚起を行います。測定データは高速・低遅延モバイル通信技術「4G LTE」によって、瞬時にクラウドサーバに集約するという「家のIoT」を実現。各建物の被災度を短期間に把握できることから、その緊急度に応じた迅速なサポートが可能です。設置対象は新築の木質系戸建住宅に限っていましたが、新築の鉄骨系戸建住宅およびミサワホームの既存の木質系・鉄骨系戸建住宅にも設置できるよう運用範囲を拡大。さらに今回、自宅被災度の閲覧機能も強化しました。また、これまでは自宅内に設置したモニターへの表示のみでしたが、「GAINET」のクラウドサーバと、ミサワホームオーナーさま向けサイト「ミサワオーナーズクラブ」専用アプリのサーバとの間をネットワーク連携させることで、スマートフォンや外部のパソコンなどでもデータが閲覧できるようになりました。これにより、外出先や遠隔地から自宅の被災度確認が可能になります。ミサワホームは、今後もオーナーさまの安全・安心に寄与するサービスを拡充し、長期的なオーナーサポート体制を強化していきます。

MISAWA SAFETY NETWORK
GAINET
被災度判定計「ガイネット」

被災度判定計「GAINET」システム概要図



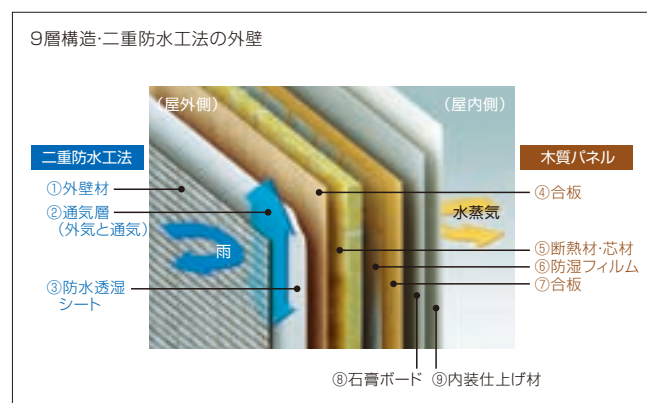
※画面の表示内容は変更となる場合があります。

【耐久性】

9層構造・二重防水工法による 万全の「防水・防湿対策」。

WEB

ミサワホームの壁パネルは、工場で合板を屋内側と屋外側に接着した「両面接着パネル」。内部が格子状に仕切られており、空気が流れ込みにくい構造です。室内の湿気は、内装仕上げ材や断熱材表面の防湿フィルムで壁内部への浸入をブロックします。木質パネルの外側には防水透湿シートを張り、乾燥をうながす通気層を設けた上で外装材を取り付ける「二重防水工法」。雨水などはパネル躯体に近づけず、また、パネル内部の湿度が上昇した場合は、防水透湿シートを透って湿気を通気層へと排出します。木質パネルを中心とした「9層構造」で水分や湿気の浸入を防ぎ、さらに定期的なメンテナンスを実施することで、高い耐久性が得られます。

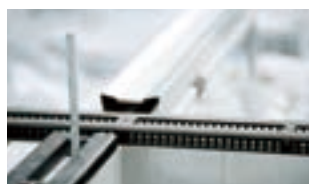


基礎、壁、小屋裏の「通風・換気対策」で 高い耐久性を実現。

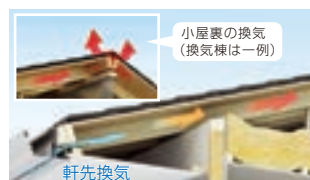
床下は基礎内部の土盛りをグランドレベルよりも高く設定したうえ、床下全面に防湿シートを敷設し地面からの湿気上昇を防止。高さ24mmの換気台輪を建物全方位に設置し、通気性を十分に確保しています。外壁・小屋裏の対策も、建物の高い耐久性及断熱性を確保するのに重要です。湿気を含んだり暖められた空気は、通気層を通して軒裏や基礎水切部で外気に開放・排出され、新鮮な空気と入れ替わります。また、小屋裏には換気棟を採用。壁からの通気や軒先まわりから外気を入れ、スムーズに自然排出します。



床下全面に防湿シート



基礎上部に全方位、換気台輪を設置



小屋裏の通気



換気棟

人と環境にやさしい「無公害防蟻工法」で 10年保証を実現。

WEB

住まいの大敵となるシロアリ。その対策として一般的なのが殺虫剤の土壌散布ですが、土壌汚染だけでなく薬剤を現場で使用するにより、空中に飛散・蒸散した殺虫成分が窓やすき間から室内に侵入し、人体へ悪影響を与える可能性も指摘されています。国土交通省の認可団体(公社)日本しろあり対策協会では、シロアリ防除剤の保証期間を「薬剤の持続効力の範囲内で5年を目処」としています。ミサワホームでは、シロア리를「殺す」のではなく「寄せ付けない」(忌避)対策を基本とし、安全性の高いネオニコチノイド系薬剤や植物から抽出するフィトンチッド抽出物などを主成分とする防蟻シートを1階床パネル裏面に張る独自の「無公害防蟻工法」を開発。一般的な防蟻処理とは違い、薬剤の土壌散布は行わず、処理もあらかじめ工場で行うため、現場での薬剤使用はほとんどありません。土壌汚染や室内空気環境への不安もなく、高い安全性を確保しています。また、防蟻効果が長く持続するミサワホームの「無公害防蟻工法」では、10年保証を実現しています。これは防蟻シートが土壌の水分や微生物などの劣化要因が影響しにくい床パネル裏面に設置されているからです。殺虫ではなく忌避を目的としているため、薬剤の使用量も必要最小限にとどめることができ、土壌散布の場合と比較すると数十分の一です。さらに、点検・有償リフォーム防蟻工事による保証延長で、長期保証が可能となりました。

油剤低圧噴射塗布による

「特殊インサイジング加工」で入念な腐朽対策を実施。

ミサワホームでは、浴室まわりなどの土台部材としてヒバを使用しています。ヒバ材はフェノール成分のヒノキチオールを多く含んでおり、腐朽に強く防腐処理の必要がない「特定耐久性樹種」ですが、ミサワホームはさらに工場で防腐処理を加え、腐朽対策を入念に施しています。この当社独自の防腐処理技術「油剤低圧噴射塗布処理」は、特殊インサイジング加工で木材に微細な刻み目を入れ、油性の薬剤を噴射塗布することで、含水率を上げずに木材の奥深くまで薬剤を均質に染み込ませることが可能です。



土台・半土台は独自のインサイジング加工で防腐処理を実施

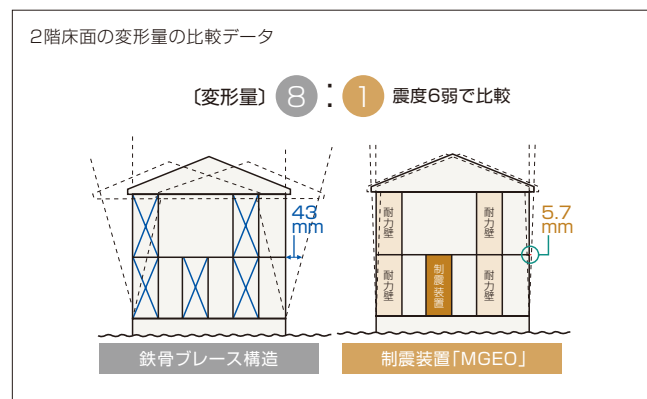
【耐震性】

地震エネルギーを最大約50%軽減する
独自の制震装置「MGEO」。

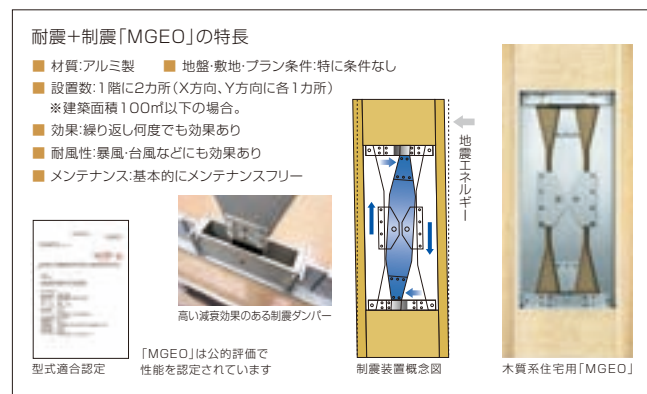
WEB

●4日間で13回の巨大地震でも、仕上げ材に目立った被害なし
2004年7月、制震装置「MGEO」の効果を実証するため、戸建住宅の実大震動実験を行いました。阪神・淡路大震災の2倍レベル^{※1}となる1,873ガルの揺れなど、13回の連続する巨大地震をはじめ、合計39回もの加振を行った結果、構造体の損傷ゼロはもちろん、内装仕上げ材にも目立った被害はありませんでした。

●建物の変形量は鉄骨ブレース構造の約1/8に抑制可能
実験の結果、「MGEO」の2つの大きな効果が実証されました。1つは、地震エネルギーを最大で約50%軽減でき、クロスなどの仕上げ材の損傷を低減できること。「鉄骨ブレース構造」と比較して、震度6弱の場合で、変形量を約1/8に抑えられる計算です^{※2}。もう1つは連続する加振に対し、「MGEO」が最後まで有効に機能したこと。連続余震の不安をも解消する大きな成果です。



●高い効果を発揮する制震装置「MGEO」の「制震ダンパー」
制震装置「MGEO」は、壁の内部に複合テコ原理を応用した独自の変位拡大機構と、高減衰ゴムをセットした制震ダンパーを組み合わせた構造。一般的な2階建住宅^{※3}では、1階の東西・南北方向に各1基ずつ、計2基設置するだけで十分な効果を発揮します。なお、制震装置はすべてのミサワホームの住まいに設置可能^{※4}です。



※1 阪神・淡路大震災の2倍の最大加速度は1,636ガルですが、実際にはそれを上回る1,873ガルの地震波で実験しています。
※2 他公表データより算出し比較。「MGEO」は耐力壁4枚・制震装置2カ所の建物による実験データです。
※3 建築面積が100㎡以下の場合。それを超える場合などはプランごとに対応いたします。
※4 新築時に限ります。プランなどにより設置が困難な場合があります。

【新構法「センチュリーモノコック」】 WEB

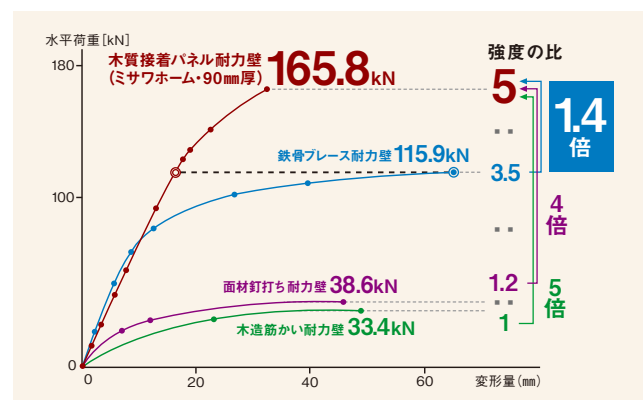
■ SAFETY

すぐれた強度の耐力壁となる
ミサワホームの「木質パネル」。

ミサワホームは、独自開発の「木質パネル」からなる壁式構造の住まい。構造体を構成する「木質パネル」は、高品質の構造用合板と格子状の芯材を接着剤で接着し、高いストレスキン効果^{*}によって、釘のみの接合と比べてより強固な剛性となった壁体です。繰り返す大余震を想定した「動的水平加振実験」により他工法の耐力壁との強度比較を行った結果、在来軸組工法に用いる「木造筋かい耐力壁」の約5倍、強度が高いとされる鉄骨軸組工法の「鉄骨ブレース耐力壁」との比較でも約1.4倍の強度なうえ、変形量も約1/4程度。すぐれた剛性を持つ強固な耐力壁であることを実証しています。

^{*}骨組みと面材を一体化させることにより、全体の強度を高めようとする効果。両者をより強固に結合するほど、高い効果が働きます。

90mm厚耐力壁の動的水平加振実験(4M)比較グラフ(当社比)



実験場所:明治大学構造物試験棟 加振方法:2.5Hz×10回
寸法:幅3640mm×高さ2578mm (「面材釘打ち耐力壁」は高さ2464mm)

120mm厚木質パネルを新たに採用し
最高耐震等級を実現する「センチュリーモノコック」。

新構法「センチュリーモノコック」では、いままでの厚さ90mmの木質パネルに加えて、120mm厚の木質パネルをラインアップに追加しました。高耐力仕様が標準となり、従来の構法と比べて耐力壁のせん断耐力は約1.3倍にもなります。より強固な耐力壁で、全棟耐震等級3を目指します。また、梁部分には、高耐力のLVL(構造用単板積層材)も採用。120mm厚パネルと組み合わせ、高い耐震等級を維持したまま、幅約5.4mの大開口、大空間、約3mの高天井が実現可能。室内の心地よさもより高まります。



90mmに加え、新たに120mm厚木質パネルをラインアップ



大空間・大開口を実現する高耐力の「LVL梁」

■ AMENITY

120mm厚木質パネル×高性能サッシで「ZEH基準※の2倍の開口比率」を実現。

「センチュリーモノコック」の住まいは、高性能な断熱材を工場ですべてに充填した「120mm厚木質パネル」と、ミサワホームオリジナルの高断熱サッシ「AZサッシ」を組み合わせることで、これまで以上に高い断熱性能を確保しました。一般的には、住宅の断熱性を高めるために、熱の逃げやすい窓などの開口部が少なく、小さくなってしまふ場合が多いものです。一方、新構法の住まいなら、ZEH基準を満たしたミサワホームの従来の建物に対して2倍の開口比率とした場合でも、ZEHの断熱基準を満たすことが可能。開放感抜群のワンランク上の心地よさを実現できます。

※ 当社従来のZEH住宅における開口比率との比較。



「センチュリーモノコック」採用の「CENTURY Primore」



高性能な断熱材（グラスウール）を採用



アルミ樹脂複合サッシ「AZサッシ」 WEB

高性能グラスウールで、断熱性と壁厚を最適なバランスに設計

より厚くなった壁厚



他社のZEH仕様の居室面積

壁厚120mm



ミサワホームの居室面積

ミサワホームの木質パネルには、一般のものよりも断熱性にすぐれた「高性能グラスウール断熱材」を採用しています。壁厚を厚くして断熱材を増やせば、一定レベルまでは断熱性が向上しますが、そのぶん居室が狭くなってしまいます。ミサワホームは断熱性と壁厚のバランスをとり、快適な住空間をデザインします。

■ QUALITY

業界最長レベルの初期保証をはじめ「3本柱の保証制度」で永い安心をお約束。

ミサワホームでは、サポート体制の充実に力を注ぎ、住宅業界に先がけて3つの長期にわたる保証制度を確立しています。1つめの「新築住宅保証制度」は、住まいの初期保証について定めた制度です。新築住宅の構造体、防水、白蟻および設備、仕上げ・付属部品に対する保証を行い、このうち構造体の初期保証は、すぐれた耐久性をベースに業界最長レベルの30年間としています※1。2つめの「維持管理保証制度」は、「新築住宅保証制度」の保証期間における点検をすべて受け、各保証項目の保証期間満了時に耐久診断（有償）と必要な耐久工事（有償）を実施することを条件に、構造体、防水および白蟻の保証期間を延長する制度です※2。そして3つめの「既存住宅保証制度」は、既に保証が満了している建物※3に対して、住宅の売買時など必要に応じて、耐久診断（有償）と必要な耐久工事（有償）の実施を条件に再保証を行う制度です。再保証期間は耐久工事完了後より構造体10年間、防水10年間、白蟻10年間となります。各保証の満了後に、耐久診断（有償）および耐久工事（有償）を継続して実施いただくことで、さらに保証の延長が可能です。

※1 2010年7月以降にご契約いただいたミサワホーム木質・ハイブリッド住宅のうち建物用途が専用住宅および長屋・共同住宅であるオーナーさま向けの内容です。
 ※2 2000年4月以降にご契約いただいたミサワホーム木質・ハイブリッド住宅のうち建物用途が専用住宅、または2001年10月以降にご契約いただいたミサワホーム木質・ハイブリッド住宅のうち建物用途が長屋・共同住宅の各オーナーさま向けの内容です。
 ※3 「既存住宅保証制度」が適用されるのは、専用住宅のみです。建物用途につきましては、保証書をご確認ください。

オーナーさまの末永い安心を支える充実の「アフターメンテナンス体制」。

ミサワホームでは、お引き渡し後2年間で3回の「定期巡回サービス」（無償）を、その後はお引き渡し後5年ごとの「定期点検サービス」（20年目までは無償、以降は有償）を実施する体制を整備しています。お住まいを丈夫で長持ちさせ、資産価値を高めるために、専任担当者がしっかりと点検することで、適切な住まい方やメンテナンスのご提案をいたします。

「保証制度」と「点検制度」

築年数	0・1年	2年	5年	10年	15年	20年	25年	30年	35年	40年	45年	50年	55年	60年～
保証制度	初期 30年								延長可	延長可	延長可	延長可	延長可	延長可
	初期 15年 ※1								延長可	延長可	延長可	延長可	延長可	延長可
	初期 10年 ※2								延長可	延長可	延長可	延長可	延長可	延長可
	設備													
	仕上げ・付属部品													
定期点検		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
耐久診断（保証延長時）				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

※1 15年目の定期点検（無償）または耐久診断（有償）により必要とされた耐久工事（有償）を行うことで、30年目まで保証延長。
 ※2 10年目の定期点検（無償）または耐久診断（有償）により必要とされた耐久工事（有償）を行うことで、20年目まで保証延長。さらに20年目も同様の点検・診断工事を行うことで、30年目まで保証延長。
 ※3 15年目に防水保証を延長した建物に対しては25年目定期点検（無償）を実施。 ※30年目以降は10年毎の耐久診断（有償）により必要とされた耐久工事（有償）を行うことで、防水・白蟻に加えて構造体の保証延長が可能です。
 ●上記保証制度は、木質・ハイブリッド専用住宅、長屋・共同住宅、併用住宅（非住宅部分1/2以下）に適用されます。

低炭素で循環型の住まいづくり・まちづくり



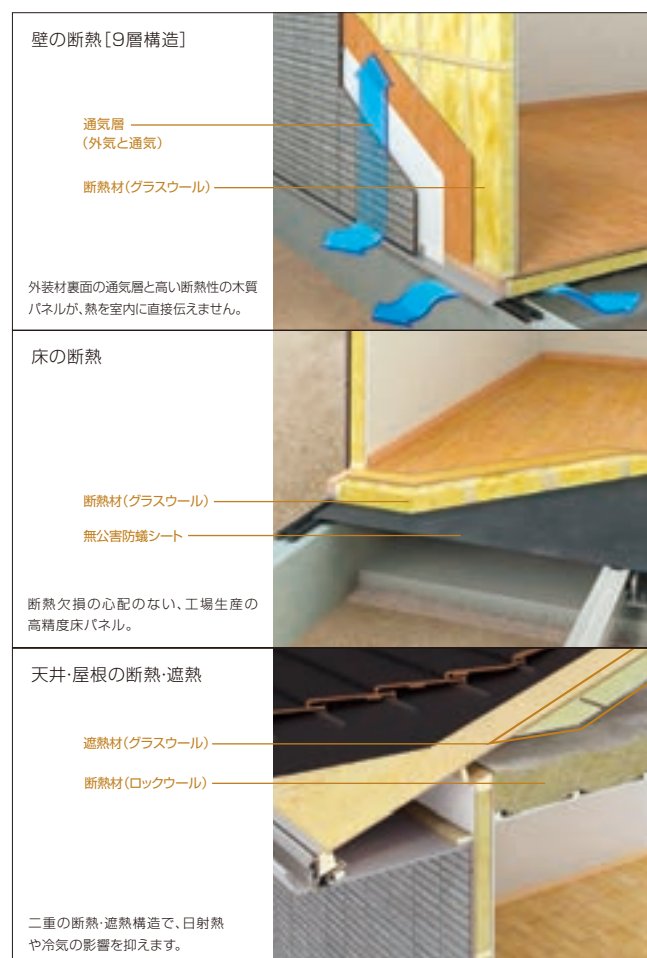
「住まいや、その集積であるまちが変わることによって、より低炭素で循環型の社会を実現していくことができる」とミサワホームグループは考えています。自然の力を有効に利用しながら、先進的な技術も開発・活用し、より少ないエネルギーで快適さをもたらすとともに、社会や地域が必要とするエネルギーを適時に供給できる住まいづくり、貴重な天然資源を有効に活用できる住まいづくりに取り組んでいます。

【省エネ・創エネ】

適材適所の施工で快適な室内空間をつくる「木質系住宅の断熱構造」。

WEB

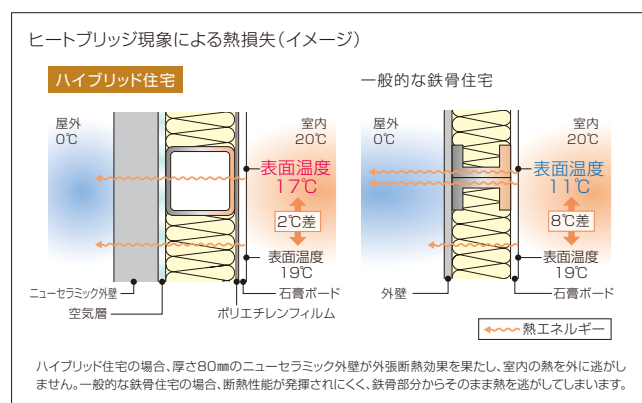
品質管理が行き届いた工場で高精度に生産される木質パネルの断熱材には、軽量で裁断しても崩れない不燃性グラスウールを使用。工場生産の段階でムラなく充填され、断熱欠損(断熱材の設置ムラなど)や気密欠損(すき間)にも入念に対策しています。天井断熱には「発がん性がない(IARC)」ロックウールを使用し、屋根パネルには遮熱層を設けた「遮熱屋根パネル」をご用意。断熱・遮熱の二重構造で、日射熱や冷気の影響を抑えます。



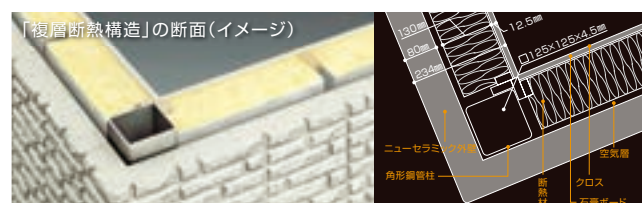
ハイブリッド住宅は厚さ234mmの「複層断熱構造」。

WEB

●外装材の中でも断熱性の高い「ニューセラミック外壁」を採用鉄骨造や鉄筋コンクリート造など、熱を伝えやすい構造躯体の場合、「外張断熱」の方がより効果的に断熱性を高め、建物を傷める内部結露も防げます。ミサワホームは、独自の技術で開発した「ニューセラミック外壁」を採用。内部に無数の気泡をもっており、熱伝導率は $0.17\text{W/m}\cdot\text{k}$ 。普通のコンクリートと比べ、約9倍もの断熱性です。高い外張断熱効果により「ヒートブリッジ現象」を抑えられます。



●「外張断熱+充填断熱」により、平成28年省エネルギー基準に対応断熱性能にすぐれた「ニューセラミック外壁」に、グラスウール、空気層、石膏ボードを設けた「厚さ234mmの複層断熱構造」。充填断熱の効果も加味できる複合断熱です。さらに、ニューセラミックの大型パネル化により、高気密設計を実現。建物の断熱性能を示す指標「外皮平均熱貫流率(U_A 値)」の算出結果を見ると、5地域以南の場合、標準仕様で平成28年省エネルギー基準に対応可能です。



先進の高断熱・高気密設計に 先人の知恵をとり入れた「微気候デザイン」。

WEB

●屋内外を一体考えた「微気候デザイン」

家の外と中の微気候を一体考えるのが、夏を涼しく暮らす知恵。家のまわりに涼しい微気候をつくることで、快適な生活空間を広げられます。「樹木」や「深い庇」で陽射しをカットし、「保水性床材」や「クールルーバー」に打ち水して涼しい微気候を形成します。

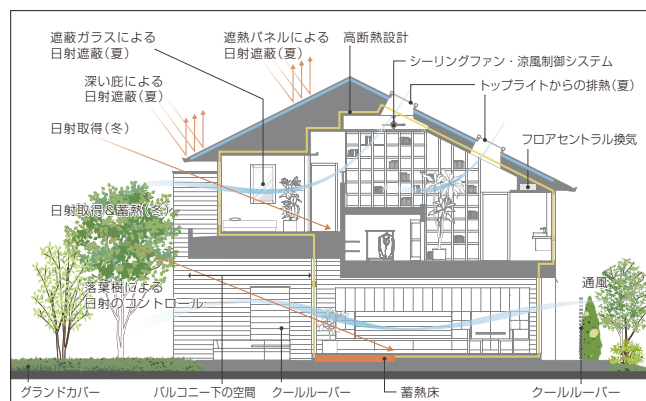


●涼しくエコロジーに暮らす、夏の「微気候デザイン」

打ち水による涼風を屋内に取り入れやすいよう、「2方向開口」や「欄間付き建具」、「高窓」や「シーリングファン」など、高さの異なる窓を組み合わせた「風洞設計」をご提案しています。さらに、住宅内外の温度センサーとHEMSを組み合わせた「涼風制御システム」により、窓の開閉・シーリングファンの回転・エアコンの稼働を自動制御。室内の熱気を効率的に排出し、冷房時間を削減できます。

●暖かくエコロジーに暮らす、冬の「微気候デザイン」

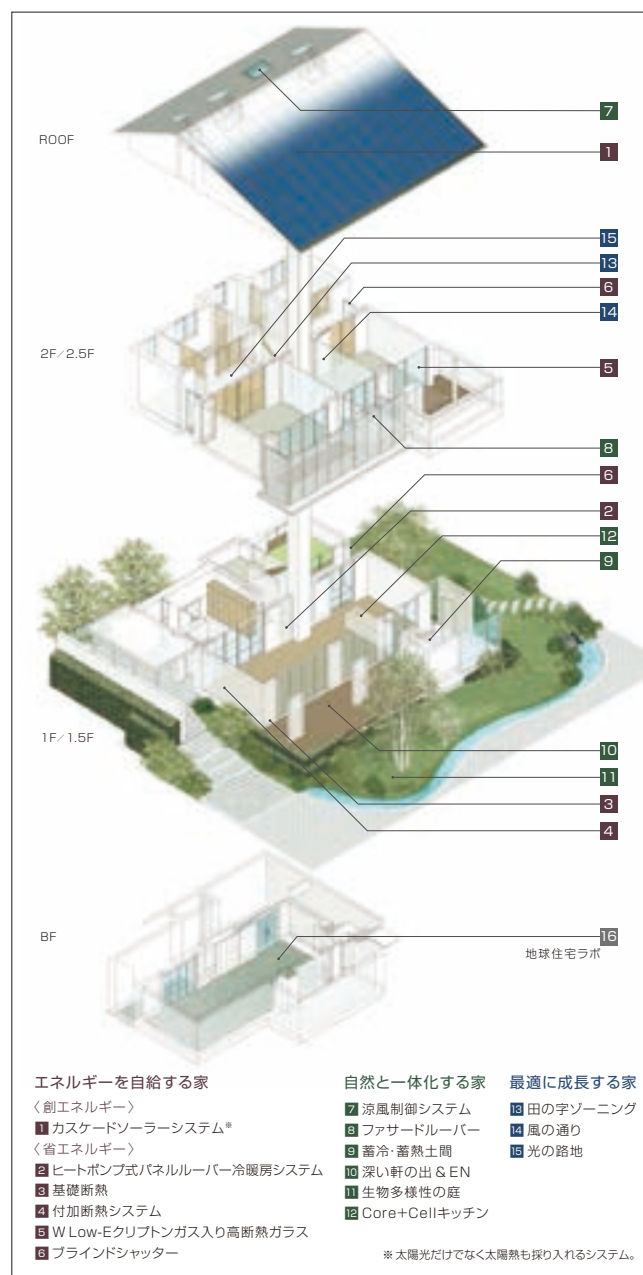
陽射しを取り入れ、室内の暖められた空気を逃さないのが、冬を快適に暮らす知恵。「高断熱・高遮熱ペアガラス」を方位ごとに使い分け、陽射しを効果的に利用します。換気扇やトップライトは気密化し、シーリングファンは夏と逆方向に回転させることで上昇した暖気を下へ戻します。また、太陽熱や暖房による熱を蓄え、夜間に放熱して室温低下を抑える「蓄熱土間」「蓄熱床」なども効果を発揮。吸放湿性のある内装材・建材もご用意しています。



ライフサイクルCO₂マイナスを実現した エコ・フラッグシップ・モデル コンセプト住宅「ECO Flagship Model」。

WEB

ミサワホームはこれからの住まいのあり方について、住まいが個人の資産という位置付けから、エネルギー供給やセーフティネットとしての社会のインフラとなるべきであり、また、CO₂を削減して環境負荷を低減するというレベルから、住まいの周辺や地球全体の環境にも貢献する「生態系の一部」のような存在になるべきだと考えています。ミサワホームは「木を植えるがごとく家をつくる」というコンセプトのもと、太陽光発電などによる創エネで「エネルギーを自給」し「自然と一体化」し「最適に成長」という3つのテーマを軸に「ECO Flagship Model」を開発。木のように地球の一器官として機能し、建てること自体が環境貢献となる、ライフサイクルCO₂マイナスの家を実現しました。



【省資源】

貴重な森林資源をかしこくムダなく使い、高性能な インテリア向け素材「M-Wood」を開発。WEB

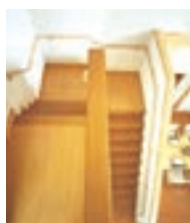
いまや森林資源の保全は、人類共通のテーマといえるでしょう。ミサワホームでは、省資源、木の代替材の開発、そしてリサイクルという3つのテーマのもと、工場で生産できる新しい素材「M-Wood」を開発しました。木を製材するときに出る端材などを再利用してつくられ、色合いも肌ざわりも木そのものという画期的な素材です。そのうえ耐久性、耐水性など、天然木の苦手部分を克服し、高品質と高性能を実現しました。加工性にすぐれ、屋内のドア枠やサッシ枠、化粧巾木以外にも、階段手すりやトイレのL字パー連続仕上げなど、木では難しい曲線的なデザインも可能。ほかにも、JR寝台特急列車「サンライズエクスプレス」の車両内装に採用されるなど、さまざまな分野で活用されています。すぐれた性能はもちろん、美しい住まいを実現することができます。



JR寝台特急の「M-Wood」



サッシ枠にも「M-Wood」を利用



連続階段手すり

●20%のロスも無駄にしないリサイクル化技術

木材をきめ細かく粉砕する微粉化技術は、従来では木粉の粒子が大きく、長繊維状で羽毛立ちが大きいいため、樹脂との混合がうまくいきませんでした。また、異なる種類の木材を混合すると不均一になり、色ムラが生じやすいという難点もありました。そこでミサワホームは、使用する端材を計画伐採による針葉樹に限定。粉砕技術を改良し、用途に応じた最適なウッドパウダーの供給システムを開発。さらに、ウッドパウダーと樹脂を配合する特許技術により、樹脂との混合を安定させながら成型時の変色を防ぐ方法を確認しました。木材のムダを防ぎ、まるごと有効活用できるようにする、まったく新しい素材「M-Wood」。金属材料などに比べてリサイクル化が難しかった分野で、その技術を実現しました。

M-Woodの生産プロセス



天然木の風合いを再現した、安全・安心の 100%リサイクル素材「M-Wood2」。WEB

住まいの分野においても「サステナビリティ(=持続可能性)」という視点が求められています。ミサワホームでは、「M-Wood」の技術を応用し、100%リサイクル素材でできた「M-Wood2」を開発しました。原料は木とプラスチックですが、木は建築廃材や工場(加工)廃材などをパウダー状に加工したもの、プラスチックは工場廃棄物などの廃プラスチックを使用しています。そのため、新たな廃棄物を発生させず、「M-Wood2」そのものも再びリサイクル処理を繰り返すことが可能。環境負荷の低減に寄与できる素材として評価され、(一財)建材試験センターより木材・プラスチック再生複合材として業界初の新JISマークの認証を受けました。耐久性や耐水性、加工性にすぐれ、デッキ、フェンス、パーゴラなどに幅広く活用されています。

M-Wood2の生産プロセス



「M-Wood2」製のデッキ



商業施設屋上デッキにも採用

自然界に豊富にある原料をいかし開発した 環境配慮素材「ニューセラミック外壁」。WEB

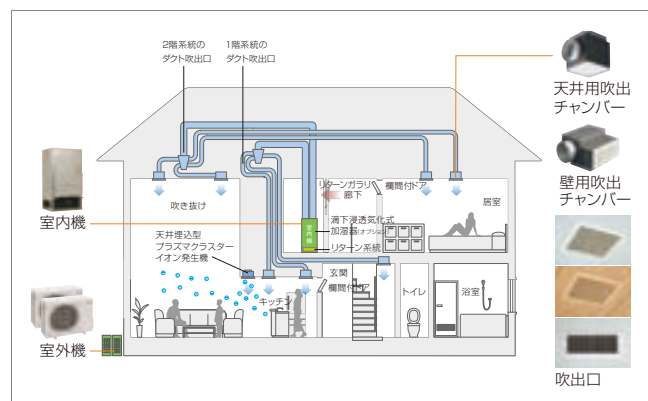
「無から有を生み出した」といえる新素材「ニューセラミック外壁」は、国内に豊富にある珪石と石灰石が主原料。古くからある国産資源が、技術の力で価値ある素材に生まれ変わりました。木、コンクリートに続く第3の建材で、1つの素材で断熱性、耐火性、耐久性など多くの機能をもつ多機能素材です。環境負荷を抑えつつ安定供給を可能にしたエコマテリアルでもあります。トータルな住宅性能が評価され、日本各地で実績を築いています。



【室內空氣環境】 WEB

家全体をまるで1つの部屋のように
一定の温度に保つ「全館空調システム(エアテリア)」。

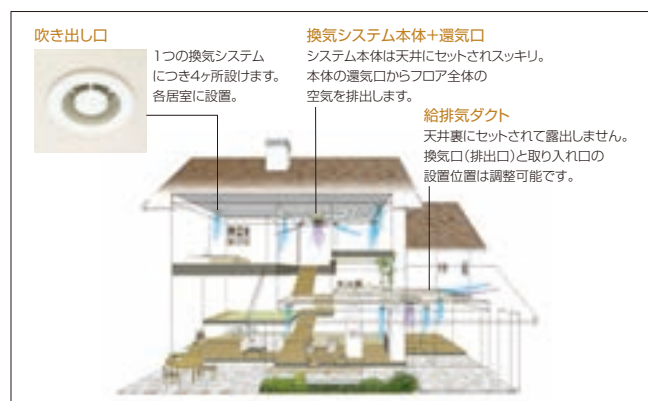
吹き抜けやリビング階段などタテにつながる空間設計は、ご家族のふれあいを深めますが、ルームエアコンは居室以外には設置しないことが一般的なため、温度差によるヒートショックや体調不良が心配です。ミサワホームでは、家全体をトータルに空調し、居室と廊下間の温度差・上下階の温度差をともに解消する全館空調システムをご用意。また、居室ごとにエアコンを設置すると、室内機が存在が気になりますが、全館空調システムなら室内機がすっきりと納まり、屋内に見えるのは吹出口とガラリのみです。室外機の数も少なくできるため、建物の外観も損ないません。



全館空調システムのエアフローイメージ

エネルギーロスを抑えながら換気する
「熱交換型換気システム」を標準装備。

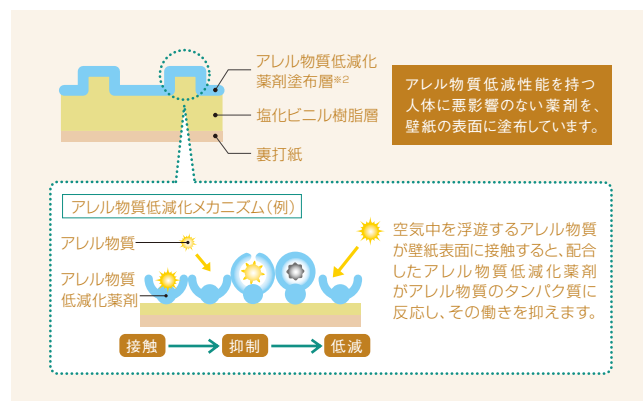
標準装備の「熱交換型24時間フロアセントラル換気システム」は、高気密設計をいかして住まい全体を効率的に換気。屋内の汚れた空気を排出し、屋外の新鮮な空気を採り入れます。その際、給気と排気の間で熱交換を行い、屋外の空気を室温に近づけて給気することにより、換気による冷暖房エネルギーロスを最小限に抑えます。また、本体には外気に含まれる物質の侵入を抑える「外気フィルター」を搭載。花粉などの比較的大きな物質を捕集対象とした「標準外気フィルター」に加え、PM2.5などの小さな物質を対象とした「高捕集外気フィルター」もご用意しています。



フロアセントラル換気システムの概念図

スギ花粉やダニの死がいなどの
アレル物質を抑制する「抗アレル内装材」。

床やカーペットのアレル物質は人の動きで舞い上がり、多くは床上1mまでの空間を浮遊します。そのため、壁面に抗アレル仕上げ材を使用すると効果的。表面に塗布された薬剤がアレル物質に反応し、その動きを不活化する壁紙をご用意しています。また、空気中の花粉やダニの死がい、ペットのフケなどは床に落ちてきます。床は手や足で直接触れるうえ、寝転ぶこともあるだけに、いつも清潔にしておきたいものです。ミサワホームでは、アレル物質を抑制する塗装仕上げの床材もご用意。床材にアレル物質が一定時間触れると、抑制された形に変化させる効果があります※1

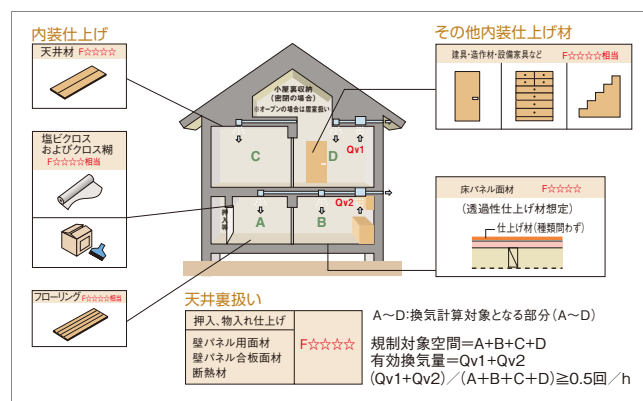


抗アレルギー壁紙の構成図

※1 アレルギー症状を緩和したり、治療するものではありません。
※2 抗アレルギー物質壁紙の表面へのコーティングなどにより、アレルギー低減化薬剤の効果がなくなる場合があります。

室内空気の質と安全に配慮した
業界最高レベルの「シックハウス対策」を実施。

ミサワホームでは業界に先がけて、いち早くシックハウス対策に取り組んできました。床・壁・天井の仕上げ材には、JIS・JAS規格のホルムアルデヒド発散量基準でもっとも安全性が高い等級のF☆☆☆☆（フォースター）相当の建材を使用。要求レベルがF☆☆☆☆である天井裏についても、最高等級のF☆☆☆☆の建材を使用しています。また、接着剤には「厚生労働省指針物質」であるトルエン、キシレンなどの化学物質を材料として含まないものを使用し、接着強度と安全性を両立。また、独自開発の内装仕上げ材「M-Wood」もノンホルムアルデヒドです。



ホルムアルデヒド対策(木質系住宅)

【まちづくり】

「微気候デザイン」を取り入れた住環境設計で 持続可能なまちづくりをサポート。

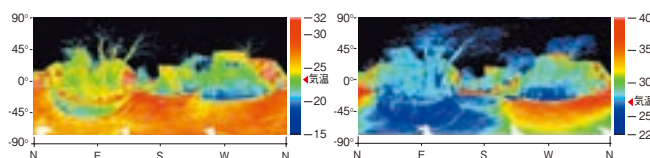
WEB

ミサワホームでは、自然の力を有効利用し、住環境全体を快適に設計する手法を「微気候デザイン」と名づけています。微気候とは、住まいとその周辺の局地的な気候のことを指します。たとえば、庭の植栽で風を導いたり、直射日光を遮るのも「微気候デザイン」のひとつです。先人の知恵と先進技術を融合させて住まいを設計することで、夏は涼しく、冬は暖かい住環境を実現します。ミサワホームは、地域の自然環境や気候風土を把握したうえで、この「微気候デザイン」手法を導入したまちづくりに全国各地で取り組んでいます。世代を超えて永く住み継がれるように、「微気候デザイン」は長期にわたり、持続可能なまちづくりをサポートします。



マリナイースト21 碧浜

春(左)と夏(右)の落葉樹による微気候効果



左: 葉を落とした春の落葉樹による「日向ぼっこ効果」。地表面温度は気温より5度ほど高く、春のうららかなさを体感できます。

右: 葉を茂らせた夏の落葉樹による「緑陰効果」。樹木の日射遮蔽効果が明瞭で、日向との表面温度の差は約15度にもなります。

環境共生住宅による分譲地の開発をはじめ 自然環境を大切に「まちづくりの実績」。

WEB

ミサワホームでは、自然の地形や環境を極力変えずにまちを開発するなど、自然環境を大切にしながら土地を有効活用する手法である「ランドプランニング」をカナダやアメリカから導入。日本の風土や慣習に適合するよう改善を重ねています。歴史や気候風土に培われた、住む人が四季折々の自然と親しめる環境を提供しながら、資産価値の高い美しいまちなみづくりを実現することで、地域に評価されるまちでありたいと願っています。また、分譲住宅の環境共生住宅認定取得にも積極的に取り組んでいます。



マリナイースト21 碧浜

ミサワホームが展開している 未来へつなぐまちづくり「スマートシティ」。

WEB

スマートシティとは、人間の知恵と技術・ノウハウを使いこなし、環境にやさしく、自然の理にかなった心地よい暮らしを楽しめるまちづくりの考え方です。ミサワホームのスマートシティは、地域それぞれの魅力をいかしながら、省エネルギーや健康管理に配慮し、防災・防犯までトータルに考えた「賢い」コミュニティづくりのために、「エネルギー」「まち」「家」「人」の調和を目指しています。「エネルギー」の自給自足を図り、使う量を抑え、調節し、長く愛着のある「まち」とするために、建物の形態、色彩、外構計画、緑被率などのルールを策定すること。いまの暮らしを十分にエンジョイでき、将来も違う楽しみを満喫しながら安心して暮らせる「家」をつくること。人びとが自然に集まるようなコミュニティ空間をつくり、「人と人」とのコミュニケーションを大切にすることなどが、ミサワホームが展開するスマートシティの大きな特徴です。

スマートシティの実例

WEB



新潟リンクタウン西野中野山(240戸)

エムスマートヒルズ真美ヶ丘(14戸)

ヒルズガーデン桂坂御陵の里(16戸)

ジ・アイリス(新浦安)(20戸)

横浜スマートシティプロジェクト(4戸)



エムスマートシティ熊谷(73戸)



オナズヒル白庭みなみ丘(50戸)



エムスマートシティ花咲台(68戸)

●「エネルギー」の有効活用

省エネ、創エネ、調エネ、蓄エネで涼を呼ぶまちづくりをご提案。

●快適な「まち」のルール

四季のリズムを感じられる、健康的な暮らしをご提案。

●安心して暮らせる「家」

熟成価値を持ち続ける住まいをご提案。

●「人」が集まる仕掛け

まちの資産価値を高め、ご近所づきあいや地域内外のつながりをご提案。

事業活動の環境負荷低減



ミサワホームグループは、事業活動のすべての段階において環境負荷を削減するよう取り組んでいます。工場での生産から、輸送、建設、廃棄物処理に至るまで、省エネ、CO₂排出削減、省資源、廃棄物削減、化学物質管理などの環境推進活動を日常業務の中で展開しています。また、一人ひとりの従業員に、環境問題の重要性を認識し、環境保全における自らの役割を考えながら行動するよう促しています。

【生産段階】

全国の工場でも
さまざまな「省エネルギー施策」を推進。

WEB

ミサワホームは全国の工場で生産効率の向上を図ると同時に、省エネルギーにつながるさまざまな施策を積極的に行っています。7工場において、住宅の生産過程で大量に発生する木粉や木屑を自動回収し、サーマルリサイクルすることで木材廃棄物をいっさい排出しない「バイオマス廃棄物熱利用システム」を導入。さらに、各工場にバイオマス発電や太陽光発電などを設置し、生産段階で必要となる電力を発電・自家消費しています。また、生産拠点の見直しなど、多様な活動の結果、CO₂総排出量は前年度から219 t-CO₂/年削減（前年度比2.0ポイント削減）、エネルギー使用量削減効果は、前年度から原油換算で205kℓ/年削減（前年度比3.0ポイント削減）となりました。今後も工場に電力を供給している電力会社と協力し、さまざまな省エネルギー活動を推進していきます。



ミサワホーム福岡工場

全国生産工場の環境パフォーマンス(2016年度)

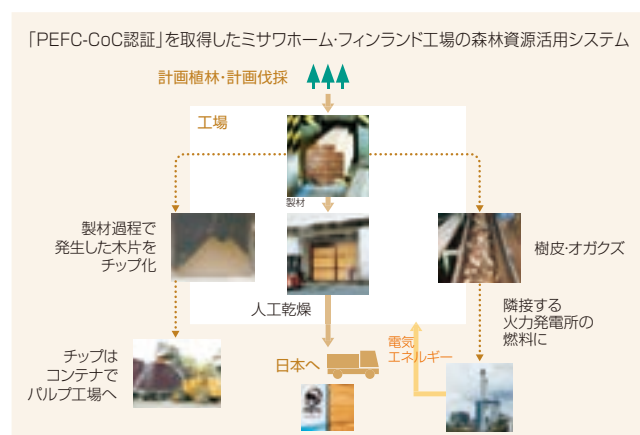
WEB

工場名	省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル
	原油換算(kℓ)(水除く)	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)(水含む)	再資源化量(t)
沼田工場	1,103	1,682	533
岡山工場	967	1,450	587
福岡工場	397	598	133
札幌工場	314	564	643
岩手工場	248	375	84
山梨工場	368	573	79
磯原工場	202	309	62
梓川工場※1	792	1,200	135
富山工場※1	202	336	428
名古屋工場※2	2,048	3,544	1,656

※1 木質部品工場 ※2 セラミック工場

「環境先進国フィンランド」の木を使用し
やさしい木材利用を推進。

フィンランドは、森林の減少を防ぐため年間の伐採量を成長量以下に制限している環境先進国です。「ミサワホーム・フィンランド工場」では、伐採した木をまるごと活用するシステムを構築。1本の丸太から製材し、製材過程で発生する樹皮などは火力発電所の燃料に、木片はパルプの原料にするなど100%使用しています。



環境負荷の少ない「積層合板」を
中国のミサワホーム工場生産。

中国のミサワホーム工場は、木質部材であるLVL(単板積層材)の生産拠点として、中国で初めてJAS認定を取得。すべて従来の強度性能を確保し、ホルムアルデヒド放散量が最高等級F☆☆☆☆と認定されたこととなります。また、材料には計画植林されたポプラを使用。工場内の木材乾燥工程などの熱源には廃材を再利用し、排煙も浄化処理してから排出するなど、環境にも配慮しています。



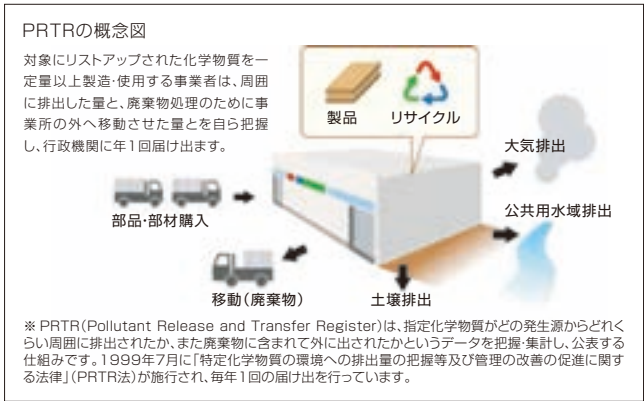
中国・臨沂（リンイ）のミサワホーム工場



製造工程

環境基準の遵守と環境負荷の把握を徹底し「有害化学物質削減」を推進。

環境省と経済産業省により、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(PRTR法[※])が、1999年に施行されました。化学物質の排出量などの届出(PRTR法)およびSDS(安全性データシート)交付の義務付けなどが規定されています。ミサワホームでは、製品安全データをもとに独自のデータベース化をPRTR法の施行に合わせて構築し、システムの集計精度を高める取り組みを続けています。



全国生産工場の環境パフォーマンス(2016年度:PRTR届出量)

工場名	PRTR(t)					
	総取引量	大気	水質	土壌	移動(廃棄物)	消費
沼田工場	4.65	0.02	0.04	0.00	0.00	4.59
岡山工場	2.18	0.07	0.00	0.00	0.04	2.07
福岡工場	0.30	0.02	0.00	0.00	0.00	0.28
札幌工場	3.14	1.24	1.32	0.00	0.04	0.54
岩手工場	0.03	0.01	0.00	0.00	0.00	0.02
山梨工場	0.68	0.00	0.18	0.00	0.00	0.50
磯原工場	0.23	0.22	0.00	0.00	0.00	0.01
梓川工場 ^{※1}	5.23	4.11	0.00	0.00	0.05	1.06
富山工場 ^{※1}	0.11	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00
名古屋工場 ^{※2}	25.47	12.89	0.00	0.00	1.25	11.33

※1 木質部品工場 ※2 セラミック工場

PRTR調査結果(2016年度:全工場合計)

化学物質	種別ランク	用途	総取引量(t)	排出量・移動量(t)				消費(t)	リサイクル(t)
				合計/大気	合計/水質	合計/土壌	合計/移動(廃棄物)		
塩化第二鉄	1種	排水処理薬剤	10.54	0.00	0.00	0.00	0.51	10.02	0.00
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	1種	塗料	7.85	0.00	0.00	0.00	0.58	7.27	0.00
ジクロロメタン	1種	ラッピング用接着剤	4.58	3.22	1.32	0.00	0.05	0.00	0.00
キシレン	1種	塗料 他	4.50	4.45	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00
1,2,4-トリメチルベンゼン	1種	塗料 他	3.83	3.79	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00
エチルベンゼン	1種	塗料 他	3.82	3.78	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00
グリオキサール	1種	接着剤原材料	2.36	0.03	0.00	0.00	0.02	2.30	0.00
ノルマル-ヘキサン	1種	設備保護塗離剤	1.47	1.15	0.00	0.00	0.04	0.28	0.00
トルエン	1種	塗料 他	1.33	1.31	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00
1,3,5-トリメチルベンゼン	1種	接着剤原材料	0.92	0.91	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00
ヒドラジン	1種	ボイラー清缶剤	0.18	0.00	0.18	0.00	0.00	0.00	0.00
ポリ(オキシエチレン)=ドデシルエーテル硫酸エステルナトリウム	1種	塗料界面活性剤	0.18	0.00	0.00	0.00	0.02	0.16	0.00
ドデシル硫酸ナトリウム	1種	塗料界面活性剤	0.14	0.00	0.00	0.00	0.01	0.13	0.00
合計			41.70	18.63	1.49	0.00	1.38	20.16	0.00

※ 小数点以下の四捨五入のため、合計額が合わないことがあります。

環境に影響を与える化学物質の削減を目指し「化学物質ガイドライン」を策定。

ミサワホームは、化学物質のリスクに対処するとともに法規制に対応するため、化学物質を使用禁止物質群、使用量削減物質群、管理物質群の3段階に分けた自主管理基準の適正な管理を実施。また、事業活動に使用している化学物質の使用・排出・移動量を集計して、使用量の削減にも役立てています。また、ミサワホームで使用している化学物質の中で環境影響度が高い物質に配慮するなど、業界の動向も考慮して、化学物質の削減に取り組んでいます。

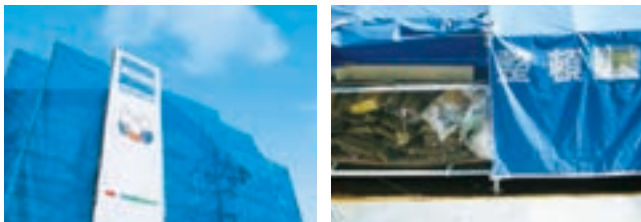
化学物質ガイドライン概要

レベル		対象物質数	対象法規
クラスA	使用禁止物質群	52物質	①化審法第一特定化学物質 ②毒劇法特定毒物物質 ③労安法使用禁止物質 ④大気・水質・土壌汚染防止法で検出されてはけない物質
クラスB-1	使用量削減物質群(優先対応管理物質)	38物質	クラスA以外で関連法規(化審法、毒劇法、労安法、大気・水質・土壌汚染防止法、オゾン層保護法、RoHS指定物質、PRTR法、厚労省指針)に多く抵触している物質
クラスB-2	使用量削減物質群	122物質	
クラスC	管理物質群	約1,500物質	関連法規記載物質で、クラスA、クラスBに該当しない物質

【施工段階】

「施工段階で発生する廃棄物」の現場における管理体制を強化。

ミサワホームでは、工場から施工現場への資材搬入を効率化することで搬入回数を減らし、CO₂削減を実現。さらに、新築住宅の全施工現場におけるゼロ・エミッション化を実施しています。また、現場の廃棄物における不適正処理防止や排出事業者への社員教育として、ディーラーおよびホームイングディーラーの各拠点の産業廃棄物担当者や建設責任者を対象に勉強会を実施。建設系産業廃棄物に関わる法令の基礎知識の習得や、実務内容の確認を目的として、2007年より隔年で行っており、グループ社員のさらなる知識の向上に積極的に取り組んでいます。



新築施工現場におけるゼロ・エミッション化の実施 廃棄物回収専用ボックス(事例)

「関東資源循環センター」の拠点化により
廃棄物処理の効率を向上。

ミサワホームは、関東エリアの1都7県を対象とした「広域認定制度」の認定を2009年に取得し、千葉県に産業廃棄物の中間処理施設「関東資源循環センター」を設立しました。2011年には、トヨタホームと共同で広域認定を再取得し、共同利用を開始。2013年には、現場分別数を10分別から15分別へ拡大し、

独自に作成したガイドラインに基づき
施工現場における「廃棄物の適正処理」を実行。

ミサワホームでは、業界団体のガイドラインなどを参考に独自のガイドを作成しました。新築現場で発生する廃棄物処理に関する「建設廃棄物適正処理ガイド」「工場廃棄物適正処理ガイド」「産業廃棄物処理適正ガイド(ホームイング版)」の最新情報を全国のディーラーや工場に発信。各現場で適正な作業を行っています。

生産段階から環境に配慮し
全工場で「ゼロ・エミッション化」を達成。

2007年度には、全国の生産工場にて生産工程から排出される廃棄物の埋め立ておよび単純焼却を行わず、リサイクル率100%としたゼロ・エミッション化を達成。これを維持するために、定期的に更新審査を行っています。また、生産工場における廃棄物量の削減やリサイクル内容の向上にも積極的に取り組んでいます。



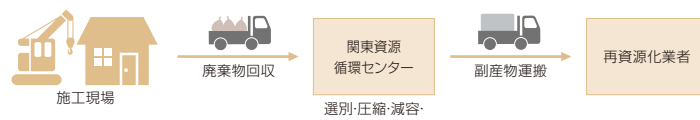
岡山工場



岡山工場

内容分析することで削減に取り組みました。中間処理拠点も2015年には、野田の1拠点から神奈川県相模原市の2拠点とし、2016年には埼玉県戸田市に新たな拠点を設け、3拠点体制を構築。廃棄物の現場からの運搬や再資源化施設までの運搬の効率向上を図ることで、CO₂削減に取り組んでいます。

「広域認定制度」を利用した廃棄物処理ルート



「関東資源循環センター」の概要

・関東資源循環センター所在地/千葉県野田市はやま1-5 面積/約2,900㎡(878坪) 廃棄物処理能力/年間12,000t
・関東資源循環センター相模原分室所在地/神奈川県相模原市南区大野台1-1105-1 面積/約680㎡(206坪) 廃棄物処理能力/年間5,400t
・関東資源循環センター戸田分室所在地/埼玉県戸田市美女木6-2-4 面積/約330㎡(100坪) 廃棄物処理能力/年間1,140t
・廃棄物処理内容:新築施工現場で15品目に分別された廃棄物をもとに選別、圧縮、減容、破碎
・分別品目数:ダンボール、プラスチック類、石膏ボードなど約40品目

【輸送段階】

環境にやさしい「モーダルシフト」などにより 輸送活動におけるエネルギーも削減。

WEB

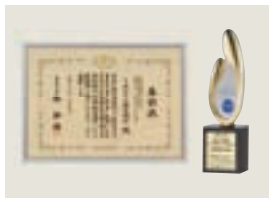
「エコレールマーク」制度とは、トラック輸送から環境にやさしい鉄道貨物輸送に切り替える「モーダルシフト」により、CO₂排出量の削減など環境負荷低減に向けて地球環境問題に積極的に取り組んでいる企業やその商品を認定するもので、2005年4月から認定しています。ミサワホームでは、企業の社会的責任として早くから地球環境問題に取り組んでおり、1998年の「地球環境大賞」など、数々の環境関連の賞を受賞。2001年に策定した環境行動計画から継続して、グループでの生産活動だけでなく、輸送におけるCO₂排出量の削減にも取り組んでいます。具体的な実施策として、住宅部材・材料の工場への調達輸送を、トラック輸送から鉄道貨物輸送に切り替えました。鉄道貨物輸送の比率は2016年度18.7%（数量×距離の比率／500km以上の陸上貨物輸送）となり、「エコレール」の企業認定基準である鉄道貨物輸送率15%を満たしました。今後ミサワホームでは、継続して「エコレールマーク」をカタログ、環境レポート、ホームページなどに表示することで、企業として環境活動に積極的に取り組んでいきます。



鉄道輸送されるミサワホームのコンテナ

独自のノウハウとネットワークをいかした 物流システムにより「運送効率」を大きく改善。

ミサワホームおよびCSロジスティクスは、平成27年度省エネ大賞の省エネ事例部門において、「建材調達物流の省エネ化（環境に優しい『建材宅配便』とその汎用性）」で、最上位である「経済産業大臣賞」（業務・物流分野）を受賞しました。ミサワホームでは早くから物流専門子会社を設立し、全国の中継基地を中心とする物流ネットワークを展開。各資材メーカーを回るルート便を定期的に運行し、建材を効率的に調達しています。一旦パレットに荷物を積み込み、パレットのまま運送することで、荷物の破損や不具合などのリスクも減少し、これらの取り組みにより調達物流にかかるCO₂排出量の削減に貢献しています。また、長尺品や段積みが困難な荷物を中心に扱う物流システムを紹介する専用Webサイト「ながもの.com」*を開設し、長物輸送における課題解決に貢献しています。

* URL : <https://www.nagamono.com>

省エネ大賞「経済産業大臣賞」受賞 WEB

【事務所段階】

企業活動によるCO₂削減を目指し 事務所内における「省エネルギー活動」を実施。

ミサワホームでは、事務所内における電気・ガス・水道使用量削減の取り組みを継続的に行っています。環境省が推奨する、低炭素社会の実現に向けた気候変動キャンペーン「Fun to Share」にも参加。省エネ機器の積極的な導入に加え、クールビズの実施（2016年度5月から10月まで）、空調温度の遵守、エリアを常時使用と非常時使用に区分した節電や昼休み時間中の一斉消灯、会議資料のOA化によるペーパーレスの徹底など、エネルギー削減のために全社で取り組んでいます。また、ガバナンス強化の一環として、経理や人事・給与業務を一元管理するシェアードサービスに取り組み、同時に間接業務の効率化によるグループ全体でのCO₂排出量削減にも貢献しています。今後もグループ全体で環境活動や業務効率の向上に取り組み、地球温暖化防止に努めていきます。



配付資料は必要最低限に抑制

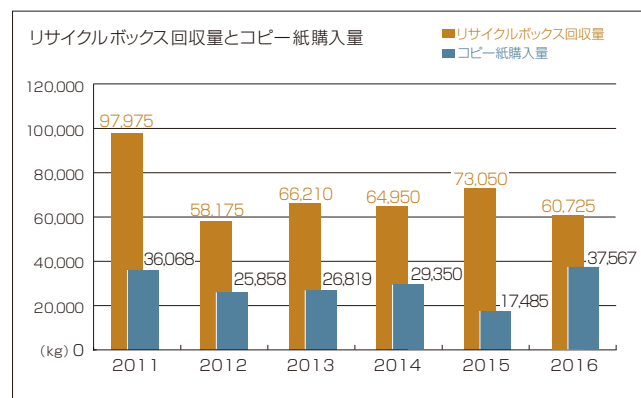


社内でクールビズを推進

20年間、継続的に努めてきた 事務所における「省資源化」の取り組み。

ミサワホームは、1997年からペーパーレス化と同時に、紙の再利用に努めてきました。2016年度のリサイクルボックス回収量は60,725kgで、これは直径14cm、高さ8mの原木1,215本を保全した計算です。今までの20年間に事務所活動で再資源化した使用済み用紙の総量は、累計で約1,600t。森林面積に換算すると320,387㎡で東京ドーム約6.8個分相当となります。また、事務用品を購入する際、環境配慮型製品を選択する「グリーン購入」を推進。2016年度の実績は32%でした。今後もグリーン購入を図るため、社員一人ひとりの意識向上に努めていきます。

※リサイクルボックス回収量とコピー紙購入量は、本社、本館のみ対象。



【調達段階】

森林の計画的な管理を政策として進めている 「環境先進国フィンランド」からの木材調達。

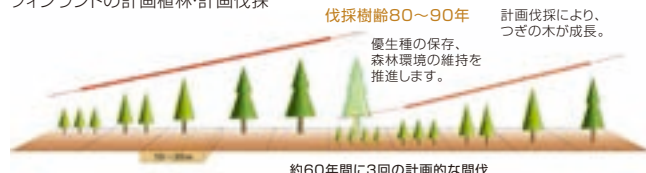
WEB

ミサワホームの住宅部材の海外生産拠点であるミサワホーム・フィンランド工場は、世界最大の森林認証制度であるPEFC森林認証プログラムを取得しています。PEFC(Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes)とは、「持続可能な森林管理の基準・指標」に従って、国別・地域別などのさまざまなレベルで設立された森林認証制度を相互に承認し、共通のラベルとしてPEFCロゴの普及を図りながら、環境保全とこれに関わる産業の繁栄を目指す国際統括組織です。森林管理と加工・流通の2種類の認証があり、ミサワホーム・フィンランド工場は、森林材を利用した製品に認証された森林の伐採材が一定基準以上使用されていることを証明する、加工・流通の認証「CoC認証(Chain of Custody)」を取得しています。ミサワホームは、「森林資源及び林地は、現在及び将来の人々の社会的、経済的、生態的、文化的、精神的なニーズを満たすために持続的に経営されるべきである」という理念に賛同し、今後も地球規模での環境保全に貢献していきます。

●ミサワホーム・フィンランド工場について

ミサワホームは、計画植林・計画伐採の先進国であるフィンランドから主に木材を調達。原木の伐採は、フィンランドの3大林産業グループの1つで、PEFC認証を取得しているメツァリートグループの木材総合メーカー「メツァリート オスウスケンタ」が行っています。また、国内生産工場のみならず、ミサワホーム・フィンランド工場でもISO14001(環境管理)を取得しており、海外活動においても積極的に環境負荷低減に取り組んでいます。製材しているホワイトウッドは80~90年ものが多く、フィンランド特有の白夜と平地によりまっすぐに成長するため、木の成長時に生じる片寄りが少ないのが特長です。ミサワホーム・フィンランド工場では、木材を人工乾燥し、ミサワホーム独自の製品管理基準であるWIS規格(Wooden Industrial Standard)の含水率約15%以下で全数を検査。安定した品質の製品を生産しています。

フィンランドの計画植林・計画伐採



PEFC認証を受けた森林は、優生種の保存や環境を大きく変化させない目的で、5~10本/haの原木を伐採せずに残します。これが、森と自然を守るルールです。



「ミサワホーム・フィンランド工場」全景



PEFC-CoC認証書

生物多様性の保全を目的とした 独自の「木材調達ガイドライン」を実践。

WEB

ミサワホームは、住まいを提供する企業として自然の恵みを絶やさないよう、「環境を育む」という考えのもとに、生物多様性保全のための木材調達方針を掲げています。2016年度実績は、Level1・2は目標達成しましたが、Level3は80%となり目標未達となりました。また、2016年5月に「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律(クリーンウッド法)」が成立し、2017年5月の施行に向けて、情報収集や対応準備に取り組んでいます。

●木材の調達方針

I. 私たちは次のような木材を調達しません。

①生態系に悪影響を与える木材

生態系を破壊する伐採、保護価値の高い森林を破壊する伐採が行われている木材の使用を排除します。

②絶滅の恐れがある樹種(絶滅危惧種)を使用した木材

野生動植物保護のために制定されているワシントン条約に基づき絶滅危惧種の使用を排除します。

II. 私たちは次のような木材を積極的に調達します。

①森林供給源が特定された木材

森林供給源まで遡った出所が特定できる木材を調達します。

Level 1

②伐採権が確認された木材

森林供給源が明らかで、伐採権が確認された木材を調達します。

Level 2

③森林認証を受けた木材

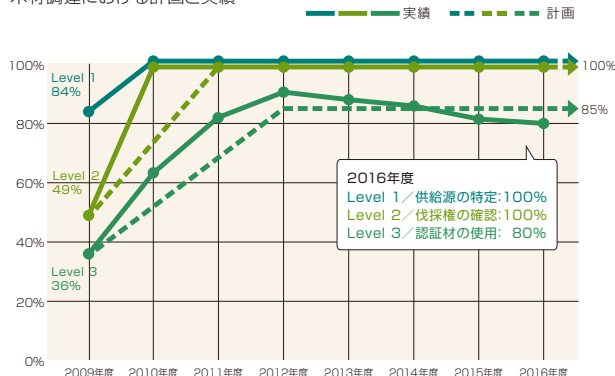
FSC、PEFC、SGEC、LEIまたは同等の森林認証製品を調達します。上記森林認証を目指す過程である仕入先から調達します。

Level 3

III. これらの方針を調達するため、私たちミサワホームは

- ①調達する木材の供給源や伐採時の状況に関する情報を集めるとともに、木材の仕入先を調査します。
- ②調達する木材の加工・流通過程の管理に関する情報を集めます。
- ③毎年のレビュー、報告書、仕入先と合意した活動を通じて、方針遵守レベルを継続的に上げていきます。
- ④活動の年間目標を設定し、公表します。

木材調達における計画と実績



少子・高齢化社会を支える



少子・高齢化は、日本が直面する最大の社会課題のひとつです。ミサワホームは、住まいと暮らしのあり方の探求を重ねるハウスメーカーとして、その克服に向けたさまざまな提案を行っています。少子化に対し、子育て環境の改善につながる住まいのデザインを世に問うほか、学童保育施設の運営も手がけています。また、年齢を重ねても健やかに暮らせるよう、高齢者の健康長寿に役立つ住宅・施設づくりにも取り組んでいます。

【少子化の克服に向けて】

重量鉄骨造の中層商品「URBAN CENTURY」のモデルハウス第2弾を錦糸町に展覧。

アーバンセンチュリー

WEB

「URBAN CENTURY」は、都市部の中層住宅市場に向けた耐火構造の重量鉄骨造商品です。今回のモデルハウスは、店舗と賃貸住戸を併設した多世帯同居型の住まい。防災・減災の提案として、急な雨でも浸水被害を最小限に抑えられるオリジナルの「ワンタッチ防水シート」や、災害備蓄収納としても利用できる大収納空間「蔵」を採用しています。また、当社の戸建住宅に使用しているオリジナル部材である外壁材「PALC」や内装材「M-Wood」、造作家具などのアイテムを採用。キッチンを中心とした無駄のない家事動線や、親子で共有する学び空間「ホームコモンズ」をプランに取り入れるなど、中層建築物でありながら住宅らしさを重視しています。ミサワホームは今回のモデルハウスの展覧により、都市部の建替え市場をメインターゲットに、中層住宅のニーズを取り込み、重量鉄骨造商品「URBAN CENTURY」の販売を拡大していく考えです。



「URBAN CENTURY」錦糸町展覧モデル

ミサワホームグループのセントスタッフ(株)が新規事業「放課後等デイサービス」を開始。

WEB

2012年4月に厚生労働省から「障害者自立支援法」の改正が公布され、障害児支援の強化として放課後等デイサービスの創設が認可されましたが、2015年3月時点での利用者は約9.5万人^{※1}にとどまっており、整備が十分とは言えない状況です。セントスタッフは、介護・保育分野を中心に11,000名の登録スタッフを擁し、取引・派遣先約3,500の介護・福祉・保育施設で質の高いオペレーションを展開しています。今回新しく取り組む「放課後等デイサービス」事業は、自閉症やアスペルガー症候群^{※2}といった発達障害がある就学中の児童生徒を対象とした

学童保育です。発達障害に悩む児童生徒や保護者に対する支援として社会的意義が極めて大きく、事務所の設置が社会貢献につながることから当事業に取り組むことになりました。NPO法人ADDSと提携し、「日本中の発達障害児が早期の適切な支援によって可能性を最大限に広げられる社会の実現」を目指し、未就学の発達障害児を対象とした児童発達支援事業所の運営や保護者支援、支援者研修などを行っています。また、心理学の博士号や修士号、心理士資格などを有し、発達障害児の研究・臨床に10年以上携わってきた専門性の高いスタッフで構成されており、発達障害をはじめとしたさまざまな対人支援領域でエビデンスを示している応用行動分析学(ABA^{※3})に基づく効果的な療育プログラムを保有、実践しています。

※1 平成27年7月厚生労働省「障害児支援について」参考資料より。

※2 知的発達遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達遅れを伴わないもの。

※3 「Applied Behavior Analysis」の略。人間の行動を個人と環境の相互作用の枠組みの中で分析し、実社会の諸問題の解決に応用していく理論と実践の体系。

第1回から10年連続で「キッズデザイン賞」を受賞。

WEB

ミサワホームはこれまで、「住まいは子育てのために」という信念のもとに商品を開発し、子育てにおいて「家にできること」を真摯に考え、住まいづくりに取り組んできました。今回は戸建住宅のほか、グループ初の学童保育施設や、社会問題となっている「都市部の保育士不足」に対する解決策を提案する女性専用シェアハウスなど、これまで以上に幅広い分野での取り組みが評価されました。10年間の通算受賞数は、41点になります。ミサワホームは、今後も子どもの安全・安心と健やかな成長に貢献するための研究・開発に努めていきます。



第10回キッズデザイン賞受賞一覧

- 家族がつながりながら心地よく暮らせる距離感をデザインした木質系戸建住宅「SMART STYLE HJ」
- 最新の体験型学習を軸にした学習プログラムを採用した学童保育施設「コピリアフタースクール+(プラス)代官山」※
- 南北の大開口が特徴的な認可保育園「コビープリスクールなかまちだい」※
- 学童保育を併設し保育拠点としての機能も担う「コビープリスクールみさとたかの」※
- 都市部の保育士不足解消に貢献する女性専用シェアハウス「Belle Philia 下北沢」※
- チャイルドゲート機能を持つキッチン収納「キッチンスライドゲート収納」

※ 他企業との共同受賞です。

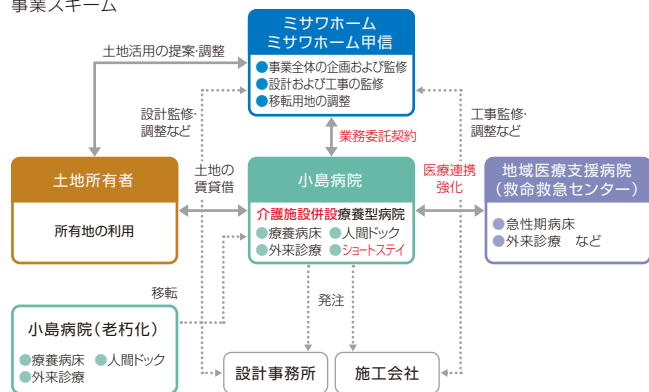
【健康長寿の実現へ】

ミサワホームグループが 「病院移転計画」を総合監修。

WEB

ミサワホームとミサワホーム甲信株式会社は、医療法人平成会小島病院の病院移転計画において、医療連携の強化と医療と介護の連携を含む提案を行い、総合監修を手がけます。今回長野県長野市の土地所有者から約3,400㎡の土地の有効活用の相談を受けたミサワホームは、当該地の近隣に地域医療支援病院*があることや、同市の高齢化率が全国平均よりも高い状態で推移し、今後医療ニーズと介護ニーズを合わせもつ高齢者の増加が想定される地域であることを踏まえて、介護機能を盛り込んだ新しい病院を建設することが地域貢献にもつながると考え、企画提案を行いました。また地元金融機関から、老朽化により新しい病院建設のニーズをもち、同市内で予防医学にも積極的に取り組む療養型病院の小島病院の紹介を受けて、当該地へ誘致しました。従来の機能に加え、新しく短期入所生活介護（ショートステイ）サービスを同一建物内で提供可能な新しい病院を建設します。この企画提案により、地域医療支援病院との間で医療連携の強化が図られるほか、短期入所生活介護サービスの利用者が必要に応じて24時間速やかに病院受診できるなど、医療と介護の連携も実現します。また土地所有者は小島病院に土地を賃貸するため、長年にわたり安定した地代を受け取ることができます。

事業スキーム



* 地域の中核病院として、診療所・クリニックなどでは対応困難な専門的な治療や高度な検査、手術などを行う病院。



小島病院新築イメージ

介護付有料老人ホーム 「Brand New 杉並高井戸」がオープン。

WEB

2016年5月にオープンした「Brand New 杉並高井戸*」では「あたらしい あなたらしい 住まい」をコンセプトに、できるだけ自宅と変わらない生活リズムで暮らせる住まいを目指します。当ホームは入居者に対する介護スタッフを基準の2倍の体制で配置し、介護度の高い方、認知症の方を積極的に受け入れます。これにより「誕生日に思い出の場所で食事をしたい」といった入居者の願いをかなえる「あなた専用の日」を用意するなど、入居者の生活意欲の向上を図ります。また、クラブ活動や、庭園・菜園での活動の充実により、入居者に寄り添うケアを目指します。



「Brand New 杉並高井戸」

* 三菱UFJリースとの共同出資

ミサワホームグループの(株)ニューライフ・フロンティアが 赤ちゃんロボット「スマイビS」を発売。

WEB

「スマイビS」は1歳前後の乳児を想定して開発した赤ちゃんロボットで、他の高齢者向けロボットとは異なり、あえて会話機能をもたせていない点が特長のひとつです。実際の赤ちゃんの笑い声や泣き声を使用しているため、癒し効果が期待できるほか、「スマイビS」の表情や声などからその感情を自分なりに解釈したり、「お世話をしたい、面倒をみなくてはならない」という意識が芽生えたりすることによって、認知症予防にもつながるよう開発。被験者向けに実証した結果、認知症を進行させる要因のひとつである「うつ状態」の改善が見られました*。「スマイビS」にはマイクや加速度センサーが内蔵されており、使用者の声の様子や抱き方に応じて笑ったり泣いたり、首を振ったり、くしゃみをしたりとさまざまな反応をします。また、実際の乳児よりも軽く小さいサイズにすることで、高齢者でも抱きやすい工夫を施しており、簡単な操作性にもこだわっています。



* 中京大学工学部加納政芳教授と東郷製作所が産学連携により実施した開発段階の実証評価より。

お客さま満足度の向上



ミサワホームグループが提供する「住まいるりんぐシステム」は、新築からアフターサービス・メンテナンス、リフォーム、売却・賃貸管理を含めた不動産サポートまで、住まいのライフサイクル全体をサポートするものです。標準仕様で「長期優良住宅」認定の住まいを建てることをはじめとして、ご家族のライフステージが進むにつれて生じるニーズにきめ細かく対応し、お客さま満足度の維持・向上に努めています。

【住まいるりんぐシステム】 WEB

Smile-ring Next

不動産サポート

「売りたい・貸したい」をお手伝いし、
住み継がれる安心をサポートします。

「スムストック」や、買取再生販売制度「ホームエバー」で売却をお手伝い。
借上・賃貸・セカンドライフなどのサポートも充実しています。

【スムストック】(売却サポート)

【買取再生販売制度「ホームエバー」】
(売却サポート)

【マイホーム借上制度】(賃貸サポート)

【不動産流通事業】



Smile-ring System

【賃貸住宅事業】

【医療・介護事業】

【子育て支援事業】

【商業・ロードサイド事業】

【再開発・分譲マンション事業】



つねにオーナーさまを第一に考え、資産価値を最大限に発揮する活用法をご提案。
豊富なノウハウと実績でトータルにサポートします。

あなたの資産に大きな価値をデザイン。
成功までしっかりサポートします。

Smile-ring Asset

資産活用サポート

Smile-ring Home

ミサワホーム

価値が続く、安心が続く。
万一のときも、見守っています。

全性能にすぐれ、標準仕様で「長期優良住宅」に対応。業界トップクラスの
保証制度やアフターサービスなどで、建てたあとも永く安心できます。

【長期優良住宅】

【住宅性能表示制度】

【住宅履歴情報システム「MECIA」】

【保証制度】

【アフターサービス・メンテナンス】

【各種オーナーサポート】



【メンテナンスリフォーム】

【デザインリフォーム】

【まるごとホームイング】

適切な時期のメンテナンスや暮らしの変化に合わせたリフォーム、
住まいを一新する増改築など、「ミサワホームイング」がお手伝いします。

大好きなわが家をもっと好きになる
リフォームをお届けします。

Smile-ring Reform

ミサワホームイング

【住まいの価値を高める】

ミサワホームが「防犯優良賃貸」の 第一号認定を取得。

WEB

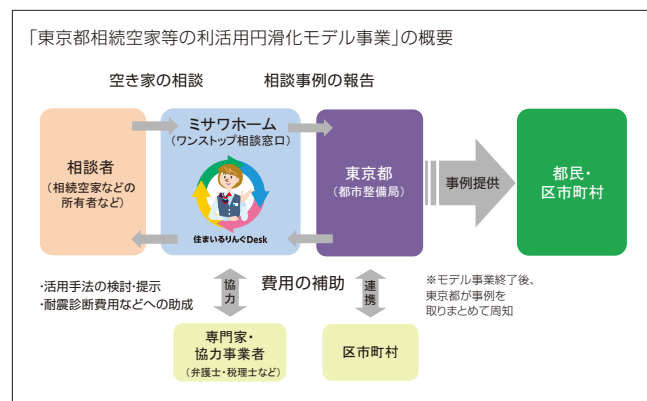
「防犯優良賃貸」認定は、公益財団法人全国防犯協会連合会と一般財団法人ベターリビングが設けた「防犯」に関する基準に適合する賃貸集合住宅を、防犯性の高い賃貸集合住宅として認定・登録するもので、住宅全体の防犯性能の向上、安全・安心な暮らしの実現に寄与することを目的として創設されました。同制度では、物件ごとに審査・認定する「個別認定」と、規格化された賃貸集合住宅で設計・施工・管理の方法などが防犯優良賃貸としての要件を満たしていることをあらかじめ審査し認定する「シリーズ認定」を用意。ミサワホームは、設計・施工はもちろん、管理業務までグループとして一貫して対応できる点が評価され、「シリーズ認定」を取得しました。これは同制度における認定の第一号となります。ミサワホームは、今後認定基準を満たした賃貸住宅商品を「防犯優良賃貸」仕様としてラインアップし、より安全・安心な住まいの普及に貢献するとともに、賃貸住宅オーナーさまに対して、「防犯優良賃貸」認定が周辺物件との差別化や地域の防犯への貢献につながり、長期安定経営の一助となることを訴求していきます。

ミサワホームが「東京都相続空家等の 利活用円滑化モデル事業者」に選定。

WEB

ミサワホームは、東京都が公募した「平成28年度東京都相続空家等の利活用円滑化モデル事業^{※1}」の事業者のひとつに選定されました。東京都は相続などで発生した空き家^{※2}の利活用・適正管理を図るため、所有者などに対するワンストップの相談業務を行い、その相談事例を取りまとめるモデル事業者の公募を行いました。選定されたモデル事業者は、空き家利活用などの相談窓口を東京都内に設置し、相談者に対して利活用や適正管理の具体的な手法、経済的な試算などを含めたさまざまな情報を提供。その相談事例を収集・分析し、広く東京都民に提供します。今回の事業者選定においては、相談者からの空き家相談をワンストップで受け付け、専門家や協力事業者との連携を図りながら、さまざまな提案ができる仕組みとして「住みいるりんぐDesk」の実績が評価されたものです。

※1 URL: http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/juutaku_seisaku/akiya_model.html
 ※2 東京都内の空き家は約82万戸、そのうち相続などで所有し長期間使用していない空き家は約15万戸。

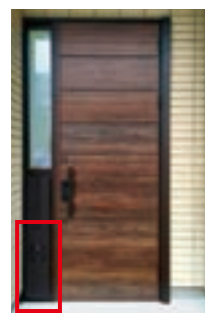


住宅の室内側から宅配物を回収できる 業界初の「玄関一体型宅配ボックス」を開発。

WEB

自宅にいなくても荷物を受け取れる宅配ボックスは、帰宅が遅く宅配物を受け取るのが困難な方や、宅配便を利用する機会が多い方などを中心に設置ニーズが高まっています。また、インターネット通販市場の拡大によって宅配便取り扱い個数は過去最高を更新し^{※1}、そのうち再配達率が2割にのぼる^{※2}などドライバーの負担増が社会問題化するなか、その解決策としても注目されています。「玄関一体型宅配ボックス」は、室内側から宅配ボックス内の宅配物を回収する仕組みを採用。また玄関の袖部分を活用した省スペース設計にすることで、住宅の外部に設置することが難しい狭小地にも対応可能です。ミサワホームオーナーさまの快適な暮らしをサポートするとともに、より良い設置場所や使い方を検討しています。

※1 国土交通省「平成27年度宅配便等取扱実績関係資料」より。
 ※2 国土交通省「宅配の再配達率の削減に向けた受取方法の多様化の促進等に関する検討会報告書」より。



屋外側（赤枠部分）



室内側

ミサワホームオーナーさま向け 「ミサワでんき」の対象者とサービスを拡充。

WEB

2016年4月より提供しているオーナーさま向け電力小売りサービス「ミサワでんき」は、新電力大手で、電力の安定供給に加えて精度の高い需給管理のノウハウをもつ株式会社Loopと提携し、価格競争力を確保しています。このたびミサワホームは、「ミサワでんき」の対象者とサービス内容を大幅に拡充。太陽光発電の余剰電力買取契約や30アンペア以下の電力契約を締結しているオーナーさまを「ミサワでんき」の対象者に追加しました。さらに、これまでは電力料金の5%をミサワホーム独自のミサワポイントで還元していましたが、この還元率を2017年1月検針分から5.5%へ引き上げたほか、クレジットカードによる電力料金の支払いにも対応することで、クレジットカードのポイントも付与されます*。

* ポイント付与の有無や還元率はクレジットカード発行会社などにより異なります。

「ミサワポイント」とは

2016年4月に開始したミサワホームオーナーさま向けのポイント制度で、ミサワホームが運営する通販サイト「らいさぽWeb」での商品購入や、建築計画のある方のご紹介、所定のキャンペーンやイベントへの応募・参加などに対してポイントが付与されます。貯まったポイントは当社が実施する自宅のメンテナンスやリフォーム費用に充当できるほか、「らいさぽWeb」でのショッピングにも利用可能です。

労働環境の整備



ミサワホームグループでは、社員一人ひとりが安心して、モチベーション高く仕事に従事でき、その能力を発揮して活躍できるように、労働環境の整備を進めています。「ダイバーシティ」と「ワークライフバランス」を推進し、女性も働きやすい条件を整えるとともに、男性社員による育児もポジティブな機会となるような雰囲気づくりに努めています。また、人財育成や労働安全衛生にも注力しています。

【ダイバーシティ】WEB

個性の多様性をいかした強い組織づくりを目指し「ダイバーシティ推進活動」を展開。

ミサワホームグループでは、2014年よりダイバーシティ推進活動をスタートし、「人財育成」「意識・風土」「制度・運用」の三方向から活発な活動を進めています。

●ダイバーシティ推進活動の基本方針

- 企業は、ミサワホームグループ社員が自身の能力を十分に発揮でき、安心して働き続けられる仕組みをつくる。
- 社員は、一人ひとりが自ら考え成長し、多様な人財が生み出す発想力と生産性を通じて企業に貢献する。



多様な人財の総合力を大切にした「ミサワホームの雇用」。

WEB

ミサワホームはグループの総合力で、お客さまに住まいと暮らしを包括した心豊かな価値をお届けすることを目指しています。新卒採用においては、募集窓口を1つに集約し、選考前にグループ共通の考え方を伝えることで、グループの一員としての意識を持ってもらえるように努めています。なお、選考活動についてはグループ各社でそれぞれ行っています。今後も公正な選考プロセスによる採用活動の継続と、従業員満足度向上のための諸施策を講じることによって、離職率の低減を図っていきます。

ミサワホームの雇用状況(2017年3月31日現在)

			ミサワホーム	ミサワホームグループ (国内のみ)
従業員	合計		2,582名	8,917名
	男		2,098名	6,972名
	女		484名	1,945名
	30歳未満	男	202名	729名
		女	98名	483名
	30・40歳代	男	1,287名	4,137名
		女	321名	1,135名
	50歳以上	男	609名	2,106名
		女	65名	327名
	正社員	男	1,981名	6,467名
		女	460名	1,791名
	非正規社員	男	117名	505名
		女	24名	154名
新卒採用数 (2017年4月入社)			男	46名
			女	28名
中途採用数	30歳未満	男	1名	20名
		女	2名	8名
	30・40歳代	男	4名	45名
		女	6名	24名
	50歳以上	男	1名	13名
		女	0名	2名
年間離職数	30歳未満	男	36名	40名
		女	23名	28名
	30・40歳代	男	43名	102名
		女	8名	22名
	50歳以上	男	10名	33名
		女	4名	3名
平均勤続年数			男	18.4年
			女	13.1年
女性社員比率			18.7%	21.8%
女性管理職比率			1.6%	3.8%
障害者雇用率			1.78%	—
外国籍従業員雇用者数			3人	—

個性の多様性をいかした強い組織作りを目指して 「ダイバーシティ推進」「女性の活躍推進」を強化・加速。

ミサワホームでは、社会の変化に対応し持続的成長を図るために、多様な人材の育成と社員の能力を発揮させることが経営革新につながると考え、ダイバーシティ推進に取り組んでいます。また、女性の活躍推進では、ミサワホームグループの課題について女性を切り口にした改革を実行。少数派である女性の働き方を改善することで、会社全体の効率アップにつながるよう、積極的に取り組んでいます。より多様性のある企業となるために、女性社員比率を増やし、やりがいをもって働き続けられるよう環境を整備するとともに、女性社員のキャリア形成を支援していきます。

ミサワホームグループの女性社員育成方針「3つのき」を掲げ、グループ全体で女性社員の育成を行います。



期待

期待を伝える

機会

機会を与える

鍛える

仕事で鍛える

■ミサワホーム九州で初めての「女性現場管理者」が誕生

ミサワホーム九州株式会社の松村朋恵さんは、現場をよく知った上で設計者になりたいという思いから、現場管理者となることを選択。ミサワホーム九州で初めての「女性現場管理者」となりました。現場の仕事は毎日家が出来上がっていく過程が見えるとともに、最後にお客さまに「ありがとう」と感謝されることに喜びを感じるといいます。現場ではさまざまなトラブルに遭遇しますが、まずは、現場の業者さんに相談した上で上司へ報告・相談し、解決を図っています。松村さんの当面の目標は、現場管理者部門のCS（お客様満足）ポイントで全国1位となること。さらに、いつしか現場での経験を元に、戸建住宅のすばらしいディテールをいかした保育園を設計したいという夢を描いているそうです。



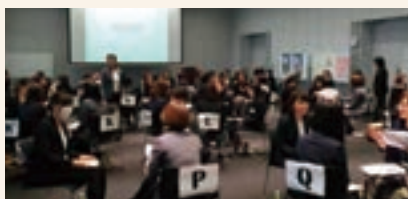
ミサワホーム九州 松村朋恵さん

ダイバーシティ推進活動の活動内容

人財育成



女性社員キャリアアップ研修(女性管理職候補者育成)
女性管理職比率向上を目的に「女性管理職候補者育成研修」を毎年実施しており、多くの管理職を輩出しています。



マイキャリア研修(女性営業職対象)
自分とはどんな働き方がしたいのか、ミサワホームグループでのキャリアプランを描き、理想とするワークライフバランスの実現に向けて考えるキャリア研修を毎年実施しています。



住まいのりんぐ研修(女性営業職対象)
住まいづくりにおいて女性の感性をいかしてお客さまにご提案するため、また、グループ内の女性社員ネットワーク構築のための研修を毎年実施しています。

意識・風土



ダイバーシティ推進会議
グループ各社のダイバーシティ推進責任者・担当者を集め、グループのダイバーシティ推進活動を促進するために、各社の活動状況報告や事例共有を行っています。



社内報・社内ポータル特設サイト
ダイバーシティに関する活動内容を情報発信しています。サイトではグループのだけでなく意見投稿を行うことができ、社員のコミュニケーションツールとして活用しています。



ダイバーシティ研修(管理職対象)
個々の社員の能力を最大限引き出し育成するためには管理職のマネジメント力が不可欠です。ダイバーシティの理解を深め、多様な個性をいかした強い組織をつくるための研修を実施しています。

制度・運用



産育休専用窓口設置
スムーズな職場復帰を目指し、産休・育休中社員ののための専用窓口を設置し、産休前・育休後の面談フローや休業中のフォロー体制を整備しています。



仕事と家庭の両立支援ハンドブック
制度を「見える化」したことで、どのタイミングで何をすればよいのか、制度利用者と上司で共有できます。上司向けに面談時のポイントを掲載し、制度利用者以外の社員の理解も深めています。



復職前勉強会(管理職対象)
育休から復職する社員を受け入れる部門の管理職を対象に、勉強会を実施しています。仕事の任せ方や、どのようなサポート体制が望ましいのかなどを学びます。

【ワークライフバランス】

社員のモチベーションを上げるために「時短へのさまざまな取り組み」を導入。

WEB

ミサワホームでは、ワークライフバランスを確立するために、働きやすい労働環境を整備。社員が持っている能力を最大限に発揮できるよう、さまざまな制度や施策を導入しています。これらの取り組みが評価され、2010年度、2014年度に続き2016年度も、厚生労働省東京労働局より次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん認定」を取得しました。



休暇制度と残業抑制施策

育児休業	最大3年間取得可能、一部有給化
介護休業	対象家族1人に対し、のべ93日の範囲内で3回まで
勤務時間の短縮などの措置	育児・介護のため所定就業時間を1日につき3時間の範囲（10:30～15:00以外）内で短縮
子の看護および介護のための休暇	小学校就学の始期に達するまでの子の看護および要介護状態にある対象家族の介護、1名の場合5日間、2名以上の場合10日間
サポート休暇	有給休暇未消化分のうち失効時に年当たり最大5日、合計100日間積み立て、家族の介護や看護に使用可
ノー残業デー	毎日水曜日は定時退社
残業時間の抑制	原則22時以降の深夜残業の禁止、本社および一部事業所におけるロックアウト

社員のモチベーション向上を目的に「従業員意識調査」を実施。

ミサワホームでは、従業員が仕事に対し常に意欲的な気持ちで取り組むことができるよう、2003年度より適宜「従業員意識調査」を実施しています。これは従業員が持つ仕事や会社に対する意見・意識を直接的に確認することにより、今後の人事施策の参考として活用するためや、社員のモチベーション阻害要因を早期に発見し改善に努めるために実施しているものです。2016年、首都圏および東海圏販売会社の直販化を機に調査を実施したところ、総合満足度が2013年実施時より低下する結果となりました。直販化そのものについては肯定的な意見が8割を超えていますが、直販化の際の混乱とシステム変更への対応が原因と考えられます。今後は業務効率の改善に向けたプロジェクトの推進や、営業本部と本社部門との人事ローテーション、各種人事制度の改定を実施することで、従業員満足度の向上を図ります。

ワークライフバランス関連実績(2016年度)

ワークライフバランス関連項目	ミサワホーム	
育児休業取得者数	男	4名
	女	28名
介護休業取得者数		0名
時短措置取得者数		104名
従業員一人当たりの所定外労働時間数		26.4時間/月
有給休暇取得率		27.2%

営業のママ社員による「マミーズプロジェクト」で住宅営業の新たなスタイルを構築。

分譲展示場を地域の方が集まれる場所として活用し、主にママとお子さま向けのイベントを企画・開催している「マミーズプロジェクト」。メンバー全員が子育て中のママ社員です。「ママになったから営業をやめるのはもったいない!時短勤務でも会社へ貢献できる部署を」という狙いで2016年に発足し、主に販売中の分譲展示場を会場に、週一で「ママさんヨガ」や「ベビーマッサージ」などのイベントを開催しています。プロジェクトのメンバーは、「時短勤務でも会社へ貢献できることに喜びを感じます。ライフイベントが経験の中断ではなく、住宅営業のアドバンテージになっていると実感します」と話します。「ママだからできない、ではなく、ママだからできる営業」を合言葉に活動を続けていきます。



イベントの様子

■ 育児休業の経験を仕事にもいかす佐々木優晃さん

ミサワホームイング株式会社の佐々木優晃さんは、奥さまが実家に帰省できる環境になく、初めての出産・子育てということから、3ヶ月間の育児休業を取得しました。その後、保育園が決まり復職しましたが、子育ての時期だからこそ感じられる日々の成長を目のあたりにし、価値観が大きく変わったといい、奥さまの大変さを改めて理解できたことや子育ての経験が、今後お客さまとのコミュニケーションにいかされるだろうと話しています。



ミサワホームイング 佐々木さんご家族

【人財育成】

全階層社員を対象とした「人財育成制度」と「キャリア育成制度」を導入。

ミサワホームグループでは、教育研修の基本的事項を定めています。グループ社員の向上心と自己啓発意欲を喚起、助長し、現在および将来の業務上必要とされる知識・技能・基本姿勢を習得させ、グループの発展と社会的使命の達成に寄与する人財を育成することを目的としています。この考えに基づき、新入社員から経営者にいたる全階層に、それぞれ期待される知識・技能・基本姿勢を習得させる「階層別研修」を導入し、スキル向上の支援を行っています。また、社員の適性に応じた活用、公正な評価と処遇を推進するため、若年層を中心に「ジョブローテーション制度」を導入。さらに年に1回、上司を通さず直接人事部門へキャリア志向申告をする「キャリアデザインシート」も活用することで、モチベーションの維持向上を目指しています。

若手人財育成のため

シェアハウス「月島荘」への入居を斡旋。

ミサワホームでは、若手人財育成の一環として、複数企業でシェアすることを前提とした企業寮「月島荘」(東京都中央区)への入居を斡旋。現在4名が寮で生活しています。「月島荘」では、ミサワホームの社員としての側面ももちあわせた生活となるため、入居に必要な費用の一部を会社で負担。約650名の多様なビジネスパーソンが集まる寮で、人脈や価値観を広げ、自分自身の成長を高める意欲を持ち、高めた知識、意識、人脈をミサワホームに寄与する若手社員を応援しています。

ミサワホームグループの工場で

ベトナムからの「技能実習生」を受け入れ。

テクノエフアンドシー株式会社では、平成18年度よりベトナム人技能実習生を受け入れています。平成29年3月現在、沼田・梓川・名古屋・岡山の4工場にて計55名(ミャンマー人2名含む)の技能実習生が、日々技能の取得に励んでいます。

社員の適正な処遇と能力開発をはかる

バランスのとれた「人事評価制度」を導入。

ミサワホームでは「目標管理制度(MESSE)」において「目標管理」「業績評価」「コンピテンシー評価」を採用し、等級に応じた期待役割(資格要件)に沿って成果を評価。賞与査定・昇給査定・昇格選考に適切に反映することで、バランスのとれた評価を実現しています。また、管理職に期待されるマネジメント行動が実際に行われているかを部下が診断し、その結果からの気づきと改善により管理職の成長を促すことを目的とした「マネジメント行動診断」を2010年度より導入。継続して実施し、活用しています。

【労働安全衛生】

専門機関に業務委託することで

高品質な「メンタルヘルスケア」を実施。

ミサワホームでは、ワークライフバランスを実現するためのさまざまな施策によるメンタルヘルスケアを実施しています。改正労働安全衛生法で実施が義務付けられた「ストレスチェック制度」の導入や、所属部署別に所定外労働時間を管理することで、特定の部署に対する過度の負荷を早期に発見するほか、健康保険組合と連携し、メンタルヘルスをはじめとした健康・医療・育児に関する相談窓口を開設。外部の専門機関に業務委託することによって、より高品質で、守秘レベルの高いサービスを提供しています。また、介護についても専門の相談窓口を開設し、本人および配偶者の親の介護、老後の過ごし方といった相談を受けるなどの支援を行うことにより、社員の介護負荷の軽減を図っています。

「施工現場の安全性」を確保するため

さまざまな活動推進を実施。

ミサワホームでは、住まいづくりの技術習得に向けて、茨城県常総市の「技能訓練センター」で階層別教育を行っています。同センターでの研修は「座学」と「実習」を効果的に盛り込んだカリキュラムで、技術・技能をより深く理解できるようになっています。あわせて、日々の建設工事現場での安全管理レベルの向上に向けて、安全パトロール、安全大会などさまざまな活動を行っています。さらに「安全手帳」「マナーハンドブック」「一人KYカード」などのツールを利用した基礎教育を通じて、全作業員に向けた安全意識の啓発、現場の安全な作業や基本マナーの習得を推進しています。今年度の安全衛生スローガン「忘れるな! 一人ひとりが責任者 全員参加でゼロ災害」は、現場に関わる全員が責任者としての自覚を持つこと、および日常業務における安全管理活動のレベル向上を標榜しています。



KY活動を啓蒙した冊子 H29安全衛生スローガン

「テレマティクス(車両動態管理システム)」をリース車

すべてに装着し、交通ルールの遵守とエコ運転を推進。

ミサワホームでは、全リース車両にテレマティクスを装着しています。テレマティクス装着により「急加速」「急減速」「速度超過」の危険3挙動が行われた場合には、上長へ危険挙動運転メールが配信されます。上長が速やかなヒアリングと指導を実施してきた結果、2016年5月に比べ1台あたりの危険3挙動回数が71.8%削減し、1台あたりの平均燃費も13.2%改善しました。引き続き交通ルールの遵守、事故削減、エコドライブの推奨など、運転意識の向上を推進していきます。

社会貢献活動



ミサワホームは、教育、科学、文化、そして森林保全を中心分野として、継続性・一貫性を大切にした社会貢献活動に取り組んでいます。「住まい」や「まち」をつくる仕事に取り組む企業として、その経験・ノウハウなどを積極的にいかしています。1968年から南極昭和基地における観測活動を支えてきた実績や、「微気候」を活用して住まいづくりをしてきた歴史は、活動の重要なバックボーンとなっています。

【教育・科学・文化活動】

常葉大学において「キャリア開発講座Ⅱ」が開催されミサワホーム社員が講演。

静岡県の常葉大学において、2016年4月に「キャリア開発講座Ⅱ」が開催され、ミサワホーム社員である品川氏が講演を行いました。「建築・住宅業界の現状と展望」と題して、国の住生活の変遷、空き家対策、消費税増税、少子高齢化がマーケットに与える影響、中古流通やリフォームにおける今後の住宅マーケットの方向性などを解説しました。



常葉大学の学生の皆さんとの質疑応答

子ども子育て総合研究所(株)が「夏休み子ども体験イベント」を開催。

ミサワホームのグループ会社で学童保育施設「コピーアフター^{プラス}スクール+代官山」を運営する子ども子育て総合研究所株式会社は、2016年7、8月に『この夏、「宇宙」が僕らの教室になる』と題した、「宇宙」をテーマに掲げたサマースクールを実施しました。宇宙をまるごと学びつくす目的で、JAXA職員のトークイベントや宇宙食試食体験、天体観測、筑波宇宙センターへのフィールドトリップ、ロケットづくりなど、さまざまなイベントを実施。子どもたちが主体的に課題を発見し、学び、共有し、発表するカリキュラムで、それぞれの興味関心に応じた答え(学び)を導きました。



筑波宇宙センターへのフィールドトリップ

テクノエフアンドシー(株)名古屋工場において女性社員による「工場見学案内」を開始。

テクノエフアンドシー株式会社名古屋工場では、毎年工場見学を実施していますが、女性活躍推進の取り組みとして女性社員による工場見学案内を開始しました。2016年度は小学校の環境学習など、15件の案内を実施。好奇心旺盛な児童を連れて、安全に気をつけながら、環境に配慮したもののづくりについて説明しました。これからも地域の方々と共に歩む工場を目指して活動していきます。

自然をコントロールして心地よく暮らす「環境学習」を小学校で開催。

2016年11月に和歌山大学教育学部附属小学校の6年生および5・6年生複式学級の児童を対象に、自然をコントロールして心地よく暮らす「環境学習」を開催。「冬の住まい方授業～暖かく過ごすには?～」をテーマに、家が持つ役割や、1年を通して自然をうまく取り入れて快適な生活を目指す「微気候デザイン」を紹介しました。パネルで3方向を囲んだ壁の外側にカイロを貼り付けた「暖かい壁の家」と、保冷材を貼り付けた「冷たい壁の家」を準備。それぞれの家に手を入れたり、線香の煙がどのように流れるか実験を行い、壁の温度で寒暖の感じ方が違うことや、空気の流れが変わることを確認しました。また、グループ毎に「どうしたら家の中で暖かく過ごせるか」を発表し、クラス全体で共有しました。



「環境学習」授業風景

南極地域観測活動への長年の功績が評価され 3回目の「南極地域観測功労者表彰」を受賞。 WEB

ミサワホームは、1968年の「第10居住棟」以来、日本南極地域観測隊の活動や生活を支える建物を受注し、その実績は2015年に受注した「基本観測棟」を含め累計36棟、延床面積約5,900㎡になります。建物に採用されている木質接着複合パネルは、徹底した品質管理体制のもと、外装、断熱材、内装があらかじめ饂飩され、南極昭和基地での夏場の限られた建設期間で、建築経験のない隊員でも短工期で施工でき、厳しい南極の気候に耐え続ける性能が特長です。建物の受注に加え、南極の観測活動に貢献すべく、専門技術を有する社員が大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所（以下、極地研究所）へ出向し、設営系隊員として協力しています。昭和基地のシンボリック建物となっている「管理棟」や、太陽光発電・風力発電制御室、蓄電池室などを設けた南極最大級の大型建築「自然エネルギー棟」などは、当社グループから参加した隊員が中心となり、専門分野の異なる隊員同士が協力して建設しました。このような功績が認められ、2016年4月に極地研究所より「南極地域観測功労者表彰」を受けました。ミサワホームは1975年の第17次南極地域観測隊から、2018年3月に帰国する第58次南極地域観測隊に至るまで、延べ18名のグループ社員を設営系隊員として継続して派遣してきており、この表彰は2010年、2012年に続いて3回目となります。また、建物受注や隊員派遣以外の分野では、南極や日本南極地域観測隊の活動をより多くの方々にお知らせし、身近に感じてもらうことを目的としたインターネットコンテンツ「南極の歩き方」をミサワホームのWebサイト内に開設。観測活動の内容をはじめ、南極の自然現象や未踏の地を切り開いた南極探検家など、南極に関する幅広い情報を紹介しています。

ミサワホームグループから日本南極地域観測隊に参加した社員

越冬隊				夏隊	
第38次	工藤久男	第54次	中山宣彦	第17次	西島弘雄
第39次	小河宏之	第55次	坂下大輔	第33次	南雲正輝
第47-50次	井熊英治	第56次	浅野智一	第51-52次	坂下大輔
第51次	秋元茂	第57次	福田真人	第52-53次	井熊英治
第52次	渡邊慶太郎	第58次	岡本裕司*		
第53次	堀川秀昭				

* 現在、昭和基地にて活動中



南極昭和基地

「南極クラス」の継続的な実施をはじめ 南極観測活動の普及・啓発に協力。

ミサワホームは、全国の学校生活共同組合や教育関連団体と連携し、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所（以下、極地研究所）の協力を得て、南極地域観測隊に参加した社員らが講師となって、小学校や中学校を中心に授業を実施する教育支援プログラム「南極クラス」を2011年から開催しています。生徒に遥か遠くの南極の世界を身近に感じてもらうとともに、将来の夢や希望を持つこと、お互いに支えあいミッションを達成していくチームワークの大切さなどを伝えています。また、そのほかにも「国立極地研究所南極・北極科学館」や「名古屋市科学館」において、南極昭和基地の居住棟のカットモデルを出展協力するなど、南極における観測活動の普及・啓発に協力しています。



南極クラス風景

岡山県吉備高原小学校の子どもたちから 南極クラスへの「感謝状」を受受。 WEB

ミサワホームが2011年から継続して実施している「南極クラス」において、いままでに開催した学校から数多くの感謝の作文や、子どもたちからの手紙をいただきました。そのすべてがとても貴重な宝物であり、取り組みの励みとなっています。2016年11月22日には、ミサワホームに岡山県吉備高原小学校の森寺校長が来訪され、「夢・希望・感動ありがとう」と書かれた子どもたちからの手書きの感謝状を頂戴しました。南極クラスに感動した子どもたちが自発的に感謝状をつくり、「ぜひ東京本社にも届けてほしい」という願いからとのことでした。また、「南極の自然や本物の氷、動植物の話、さまざまな光景を動画で見せてもらい、子どもたち全員が喜んでくれていた。子どもたちのキラキラと輝く目に、先生方も学び多い経験だった。」と森寺校長からの感謝の言葉もいただくことができました。「南極クラス」は、2016年度までに延べ963校、110,000人以上の生徒が受講しています。2017年度も、全国の小中学生に夢や希望、そして感動をお届けすべく、継続して活動を行っていきます。



子どもたちの手書きの感謝状

第68回全国カレンダー展にて 「経済産業大臣賞」を受賞。

WEB

ミサワホーム制作の2017年版カレンダー「偉人の生涯と筆跡カレンダー(クロード・モネ)」が、第68回全国カレンダー展(主催:一般社団法人日本印刷産業連合会、フジサンケイビジネスアイ)において部門賞の金賞※1を受賞。さらにその中から選出される最高位賞の経済産業大臣賞※2と、審査員特別賞を同時受賞しました。全国カレンダー展での受賞は、通算19回目となります。ミサワホームでは、今後もカレンダー制作を通して過去の偉人たちの功績を紹介し、文化の発展に寄与するとともに、お客さまご家族のコミュニケーション向上のお手伝いをしていきます。



偉人の生涯と筆跡カレンダー(クロード・モネ)

※1 部門賞は、用途別に3部門設定され、部門ごとに「金賞」(審査総数の3%相当)、「銀賞」(審査総数の7%相当)が選出されます。
※2 経済産業大臣賞は、各部門の「金賞」受賞作品から選出され、企画、デザイン、印刷技術とともに総合的にすぐれた最高位の作品に贈られるものです。

ミサワバウハウスコレクション 「バウハウスの教室展」を開催。

WEB

造形学校「バウハウス」は、1919年にドイツで設立されました。デザインや建築、造形教育において、その思想が今なお世界に多大な影響を与えているこの学校は、建築のもとにあらゆる芸術を統合しようとの想いから、家具や照明器具、陶器、金属器などの日用品、テキスタイルに至るまで、幅広い分野で新たな形態を目指して活動しました。1933年に閉校するまで、14年間という短い活動期間でしたが、ここでのさまざまな試みは80年以上経った現在でも生活の所々に受け継がれています。29回目となる今回の企画展は、バウハウスの教室をのぞき見て、体験するような展覧会です。バウハウスでは教師は皆それまでの教授法を捨てて、各々がゼロから自分の授業を組み立てました。単にやり方をマスターさせるのではなく、試行錯誤させ、さまざまな感覚を開き、気づかせ、考えさせるような授業の数々は今も価値を失うことはありません。今回の展覧会では、パウル・クレーら名物教師の授業での学生の習作など、約70点を紹介しました。



「イッテンの授業・男性の裸身」
作者:フランツ・ジジガー:1919年

整理収納アドバイザーが選ぶ 「シンプルスタイル大賞2016」にて「銀賞」を受賞。

特定非営利活動法人・一般社団法人ハウスキーピング協会が主催する「シンプルスタイル大賞2016」のプロダクト部門において、ミサワホームの「キッチンスライドゲート収納」が銀賞を受賞しました。「整理」の考え方がいかされた、スマートな暮らしをサポートしているモノやコトを表彰するアワードで、通算3回目の開催において住宅会社では初の受賞となります。「キッチンスライドゲート収納」は、お子さまがキッチン内に入ることによって発生する事故を防ぐチャイルドゲートであると同時に、インテリアを損なうことなく永続的に使用できるキッチン収納家具です。



キッチンスライドゲート収納

障害者の生活自立への取り組みが認められ 社会福祉法人親友会から「感謝状」を授与。

ミサワホームでは、「M-Wood2」の原材料となる廃プラスチックの一部は、社会福祉法人親友会の就労継続支援事業所「友の丘」(山梨県北杜市)の障害者の方々に分別作業をしていただいたものを調達しています。継続して10年以上となる分別作業を通じて、障害者の方々の雇用機会や社会参加を促したことに對して、2016年10月24日に「友の丘」より感謝状を授与されました。ミサワホームでは100%リサイクル素材として環境保全に貢献し、新たな雇用の機会も創出できる「M-Wood2」のさらなる普及に取り組んでいきます。



親友会から授与された感謝状

【森林保全活動】

ミサワホームのCSR・環境活動として 国内外で「森林保全活動」を実施。

WEB

ミサワホームは、森林資源の恩恵を受ける企業として「生物多様性保全」や「社会貢献活動」を主要テーマに掲げ、持続可能な木材調達や木材の有効活用のほか、森林保全活動にも取り組んでいます。活動場所は、国内3ヶ所とフィンランドの計4ヶ所。宮城県利府町と長野県松本市では森林整備活動を、北海道釧路町とフィンランドでは累計植樹本数4万本を超える植樹活動を行っています。また、寄付金型自動販売機の売上げの一部を、ボルネオ島で生物多様性保全活動と環境保護活動を行うNPO法人へ寄付しています。今後も地球全体を視野に、社会へ貢献していきます。



「MISAWAオーナーの森 宮城」看板

●「ミサワオーナーの森 釧路町」(北海道釧路郡釧路町)

「ミサワオーナーの森 釧路町」は、当社の取引先が所有する山林内に2012年に開設したもので、ミサワホーム北海道が中心となって、ミサワホームのオーナーさまとともに植樹活動を実施しています。5回目となる今回は、2016年6月11日に総勢64名が参加し、八重桜の幼樹25本とカラマツの苗木150本を植樹しました。オーナーさまに植えていただく八重桜には、新築記念としてお名前とお引き渡し日を刻印したプレートを設置しています。植樹したカラマツは成木となるおよそ50年後に、ミサワホームの木質系住宅の構造用部材として使用する予定です。



植樹活動の様子

●「ミサワホームの森 松本」(長野県松本市奈川)

長野県が持続可能な森林整備を実現するために制度化した「森林の里親促進事業」を活用し、2014年7月に開設。5回目となる今回は、当社グループの生産子会社であるテクノエフアンドシーからの参加も含め総勢56名が、2016年10月22日に間伐作業を実施しました。回を重ねるたびに参加者が増え、2017年7月には「森林の里親契約」を更新する予定です。今回の活動は環境保全活動であるとともに、地域貢献活動でもあります。作業後には奈川名物のとうじそばをご馳走になりながら、地元の方々と交流を深めました。



間伐作業の様子

WEB

●「寄付金型自動販売機」を設置し、NPO法人への寄付活動を推進

ミサワホームグループは、6拠点に計8台設置している寄付金型自動販売機の売上げの一部を、毎年NPO法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン(BCTJ)に寄付しています。BCTJは、生物多様性の宝庫であるボルネオの生態系を守るために活動しています。代表例は、分断された森をつなぐことで野生動物が広い地域を自由に移動できるようにする「緑の回廊プロジェクト」。オランウータンの川の対岸への移動を助ける「吊り橋プロジェクト」や、怪我や親を亡くした幼いボルネオゾウなどを一時保護する「ボルネオへの恩返しプロジェクト」など、ミサワホームはこれからもBCTJの活動を支援していきます。



BCTJが建てた施設内で保護されているボルネオゾウ

CSR推進体制

【ミサワホームグループにおけるCSRの基本方針】 WEB

【コーポレートスローガン】

私たちミサワホームグループは「住まいを通じて生涯のおつきあい」という精神のもと、良質の「住まい」を提供し、豊かな社会づくりに貢献します。

【経営理念】

1. 安全・快適で環境を重視した家づくり、まちづくりを行います。
2. 法令を遵守し、倫理を重んじて誠実に行動します。
3. 地球全体を視野に入れ、環境保全活動などを行い、社会に貢献します。
4. 企業価値の向上に努め、長期安定的な成長により、ステークホルダーとの共存共栄を実現します。
5. グループ社員が相互に信頼し、協力し合って能力を発揮する職場をつくりまします。
6. 適正な財務報告・情報開示と適切なリスク管理を行います。

【行動指針】

① お客さま(消費者)に対して

- ・私たちは、卓越したデザイン・技術により、良質で心ごもった商品・サービスを開発・提供します。
- ・私たちは、誠実で適切な営業活動を行います。
- ・私たちは、わかりやすく正確で適切な表示、情報提供を行い、十分な説明責任を果たします。
- ・私たちは、アフターサービス体制を整備し、迅速で的確に対応します。
- ・私たちは、お客さまの個人情報を適切に利用し、厳重に管理します。

② 従業員に対して

- ・私たちは、個人を尊重し、その成長を支援します。
- ・私たちは、倫理的な行動を促す企業風土を育てます。
- ・私たちは、国籍、人種、性別などによる差別を行いません。
- ・私たちは、安全と健康に配慮した労働環境を保ち、さらに向上させるよう努めます。
- ・私たちは、人権を尊重し、いかなる形であれ強制労働・児童労働を行いません。
- ・私たちは、情報の重要性を認識し、情報セキュリティの確保に努めます。

③ 取引先に対して

- ・私たちは、取引先の決定にあたっては公正な基準と適正な手続により選定します。
- ・私たちは、取引先と契約に基づく対等な関係を保ち、公正かつ自由な取引を行います。
- ・私たちは、取引先と社会的常識の範囲内での節度ある関係を保ちます。

④ 株主(投資家)に対して

- ・私たちは、長期的安定的な成長を通じ企業価値の向上に努めます。
- ・私たちは、財務報告を含む経営情報を適時かつ適正に開示します。

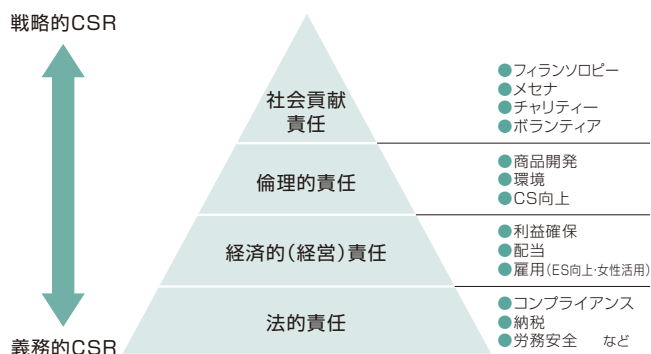
⑤ 社会・環境に対して

- ・私たちは、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努力します。
- ・私たちは、法令と社会的常識に基づいて行動します。
- ・私たちは、官公庁、行政機関などと健全な関係を保ちます。
- ・私たちは、反社会的勢力・団体からの不当な圧力に屈しません。
- ・私たちは、地域社会の安全な生活に配慮し、地域社会と友好な関係を保ちます。
- ・私たちは、事業活動を行うあらゆる地域において、社会貢献活動を積極的に推進します。

【コーポレートガバナンス】

ミサワホームは「住まいを通じて生涯のおつきあい」のコーポレートスローガンのもと、お客さま、株主はもとより従業員など事業活動に関わるすべての関係者の利益を重視し、下図の概念に基づき幅広いCSR活動を推進しています。その中でもコンプライアンスを果たすためのコーポレートガバナンスの確立はCSR経営を進めていく上で極めて重要な経営課題と位置付け、企業経営の透明性と信頼性の確保に努めています。また、経済的（経営）責任を果たすために企業価値の最大化と収益確保に向けて、迅速かつ適正な経営に取り組んでいます。さらに倫理的責任としては、環境に配慮しつつ社会のニーズに応える優良な住まいづくりを進め、お客さま満足度を高めることが当社のいちばんの使命と考えています。

●当社の考えるCSR概念



11名の執行役員が迅速にその業務を執行します。年齢構成は50歳代9名、60歳代11名、女性取締役はまだ誕生していません。

役員紹介（平成29年3月31日現在）

代表取締役 社長執行役員 経営全般	竹中 宣雄	取締役 山科 忠
代表取締役 副社長執行役員 経営全般補佐	磯貝 匡志	取締役 後藤 裕司
取締役 専務執行役員 営業全般兼営業本部長	下村 秀樹	監査役 (社外監査役) 香川 隆裕
取締役 専務執行役員 生産・調達全般	吉松 英之	監査役 (社外監査役) 長谷 博友
取締役 常務執行役員 管理全般	田中 博臣	監査役 深津 浩彦
取締役 常務執行役員 関西中部営業本部長兼岐阜名古屋北支店長兼和歌山支社長	横田 純夫	監査役 (社外監査役) 長崎 伸郎
取締役 常務執行役員 商品開発・技術・設計建設全般	作尾 徹也	

■ ガバナンス体制

WEB

●コーポレートガバナンスガイドライン

ミサワホームは、東京証券取引所が2015年に「コーポレートガバナンス・コード」を制定したことを契機として、同コードに準拠する「コーポレートガバナンスガイドライン」を策定しました。本ガイドラインは、ミサワホームグループが持続的な成長と中長期的な企業価値の創出を実現していくことを目的とするものです。その内容は、コーポレートガバナンス・コードが示す5つの柱（株主の権利・平等性の確保、株主以外のステークホルダーとの適切な協働、適切な情報開示と透明性の確保、取締役会等の責務、株主との対話）に沿って構成し、当社グループのガバナンスの取り組みについて説明しています。当社は、会社法、その他関連法令および定款をはじめとする各種会社規則とともに、本ガイドラインの求める事項を遵守します。株主以外のステークホルダーとの適切な協働は、当社の行動指針が示すところとも一致します。ミサワホームは、持続的な成長と中長期的な企業価値の創出が、従業員、顧客、取引先、債権者、地域社会をはじめとする、さまざまなステークホルダーによるリソースの提供や貢献の結果であることを十分に認識し、これらのステークホルダーとの積極的な協働に努めています。この「コーポレートガバナンスガイドライン」は、印刷物として全取締役に配布しています。

●経営体制

ミサワホームは、9名の取締役ににより取締役会を構成し、社長を議長とする取締役会を月1回以上開催して重要事項の意思決定と報告を行っています。監督と意思決定、業務執行を分離するため、執行役員制度を採用。取締役会の意思決定に基づき、取締役および

●監査・監督

ミサワホームは取締役会設置会社ですが、執行役員制度の採用により、取締役会の意思決定、業務執行および監督機能の集中を避け、取締役会の監督機能および業務執行者への牽制機能を充実させています。法定機関のほか、内部監査部門も設置し、業務執行者の自浄作用を強化。あわせて法定の監査・監督機関が連携することで、監査・監督機能が有効に機能しています。監査役（4名のうち3名は社外監査役）は、会計監査人（新日本有限責任監査法人）と相互に連携を図り、監査体制、監査計画および監査実施状況について報告を受ける体制を整え、定期的に情報交換を実施。内部監査を担当する監査室は、グループ全体を対象に法令および内部規定に則して業務が適正に行われているかを監査（金融商品取引法に基づく内部統制の評価を含む）。監査結果は社長以下関係役員に報告し、経営の信頼性確保に努めています。また、会社法に基づく監査を担当する監査役と定期的な会合の場をもち、問題意識を共有。互いの監査結果を報告するなど、監査品質の向上に努めています。

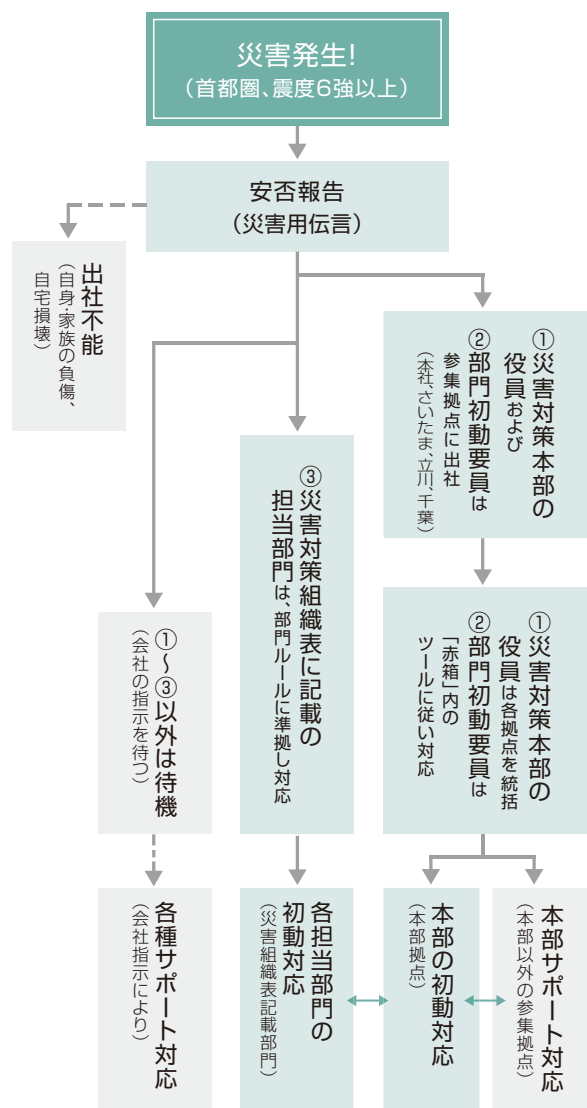
ミサワホームでは「購買基本方針」に基づき、公正な基準と適正な手続きにより取引先を選定しています。新規にお取引を開始する場合は、適正な価格と品質の部品・原材料を安定的に供給いただけるよう、取引先選定の基準を「購買規定」で定めています。2016年度も、この基準に基づく算定をすべての新規取引先に対し実施。継続的にお取引を行っている場合でも、1年に1回、生産・供給体制に加え「品質」「価格」「納期」「経営」を総合的に評価し、基準を満たした取引先と契約させていただくことで安定供給を実現しています。加えてすべての取引先に対して、ミサワホームグループのCSRの考え方を共有していただくため、「コーポレートスローガン」「経営理念」「行動指針」を記載した書面を交付。CSRへの取り組みを、取引先と協力して推進していきます。

【リスクマネジメント】

■ 大規模災害への備え

大地震や大型台風などの大規模災害の発生は、建物被害はなくても、水道・電気・ガスなどのライフラインが寸断されたり、内外装の軽微な損傷などが発生し、オーナーさまの生活に不便や不安が生じる可能性があります。ミサワホームでは災害発生時において、被災者の住生活と心身の安全・安心を一刻も早く確保することが住宅会社における社会的使命だと考え、「災害対策マニュアル」を策定。災害の規模に応じて速やかに本社災害対策本部や現地対策本部を設置するなど、緊急対策について十分な準備体制を整えています。本社のある首都圏が震度6強以上で被災した場合には、災害対策本部長である社長をはじめ、関係役員および各部門の初動要員が新宿の本社または埼玉県、千葉県、東京都下の事務所のうち出社可能な拠点に参集し、必要な対応を図ることとしています。また、休日・夜間の災害発生を想定し、社員の安否確認の迅速化と社業の早期復旧のため、セコム株式会社による安否確認システムを利用した行動基準を定めています。

大規模災害発生時の初動フロー



■ お客様センターの2拠点化

WEB

ミサワホームのオーナーさまからの問い合わせに対応するコールセンターの拠点として、2014年に「お客様センター(札幌)」(北海道札幌市)を開設しました。2007年の「お客様センター(新宿)」開設以降、全国の新築およびリフォームの販売会社の営業時間外や定休日などでも、365日24時間体制でオーナーさまからの電話受付が可能なシステムを構築。タイムリーでフレキシブルなサービスの提供により、オーナーさまの安全・安心を支えています。近年多発する自然災害や今後予想される首都直下地震などに備え、BCM(事業継続マネジメント)推進の一環として、2拠点で連携を取り合いながら運営していきます。さらに、問い合わせが集中した際の応答率向上や確実に迅速な対応の徹底などにより、アフターサービスの業務品質およびCSの向上を図ります。

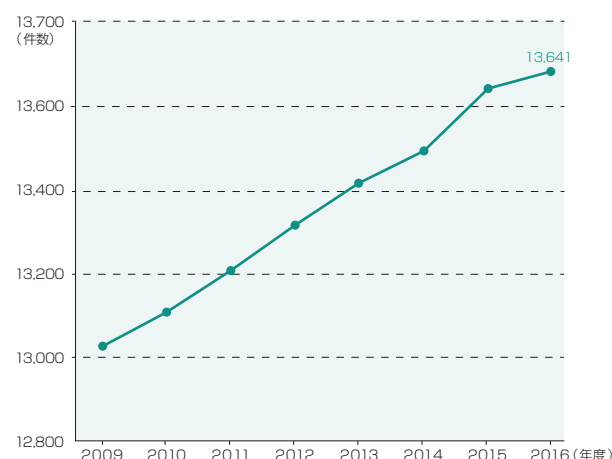
■ 反社会的勢力による被害の排除

ミサワホームでは、行動指針に「反社会的勢力・団体からの不当な圧力に屈しない」ことを記載し、社員への周知徹底を図っています。また、社内体制を整備し、総務人事部に不当要求防止責任者を設置。同責任者を中心に、警察署・暴力追放運動推進センター・顧問弁護士などとの緊密な意思疎通と連携をもとに、反社会的勢力の情報の収集、同勢力の排除を進めるとともに、その被害防止を図っています。

■ 知的財産保護について

ミサワホームグループは、他社製品と差別化できる技術とノウハウを多く蓄積。当社グループ独自の技術とノウハウは、コンプライアンス室法務・知財課において、知的財産権を取得しその保護に努めており、特許と実用新案の出願・登録件数は業界トップクラスです。

当社グループの特許・実用新案出願累積件数



【コンプライアンス】

■ コンプライアンス教育・研修

「経営理念・行動指針」を周知徹底させるため、「コンプライアンスガイドライン」と「コンプライアンスカード」を作成し、パート・派遣・契約社員を含むミサワホームグループ全社員に配布。さらにガイドラインは社内ポータルサイトにも掲載し、閲覧可能としています。また、コンプライアンスの重要性と一人ひとりの役割を認識させるため、役職者に対して階層別のコンプライアンス研修を実施。研修はコンプライアンスの必要性を理解させるものだけでなく、設計や建設といった専門分野の研修でも、独禁法、不正競争防止法、製造物責任法、労働安全衛生法など、各分野で要求される関連法規制についてのコンプライアンス教育ガイドラインを定め、実施したことで、腐敗事例やマーケティング・コミュニケーションに関する罰金、処罰、警告になった規制違反はありませんでした。

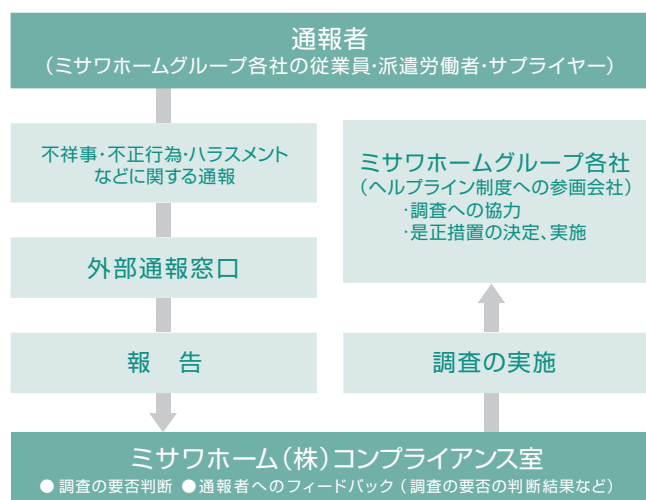


コンプライアンスカード

研修	受講率	総受講時間
コンプライアンス研修	5.7%	702h
管理職研修	8.0%	4,988h

■ ヘルプライン

ミサワホーム関係者が、グループ内における不祥事や不正行為などを見かけたり、起こしてしまった際に相談・通報を受け付ける制度です。不祥事の拡大防止や不正行為の是正などを実施し、グループの社会的信頼を維持することを目的としています。実名・匿名いずれでも通報できますが、実名の場合でも関係者に名前が漏れないように配慮しています。



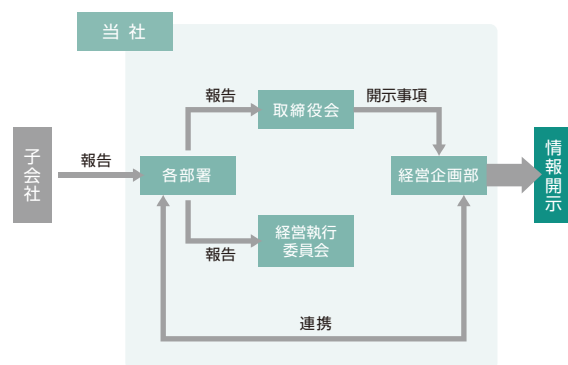
	件数
対応した苦情	40件
解決した苦情	38件

■ 適時開示に係る当社の基本姿勢

WEB

ミサワホームは、コーポレートガバナンスガイドラインにおいて、企業情報の提供に主体的に取り組むことを規定しています。株主・投資家との信頼関係を構築・維持するために、重要な会社情報の適時適切な開示が極めて重要な責務であるとの認識に立ち、従来より鋭意適時開示に取り組んでいます。取締役会および経営執行委員会などで決定した事項や、子会社および各部署で把握した事項のうち、金融商品取引法および金融商品取引所の定める適時開示規則により開示が要請される重要情報ならびに投資判断に影響を与えらると思われる情報などについて、適時開示活動に努めています。また、社長をはじめとした主要執行役員ら経営陣が率先して説明責任を果たしています。開示活動の実際にあたっては、経営企画部が主管部署となり、子会社および関連部署と連携して速やかな開示に努めています。当社グループの内部統制活動の監視・検証としては、監査役の会社法上の監査のほか、弁護士など各分野における専門家の意見を参考にコンプライアンス体制の構築に努める中で、経営会議への報告を行うことにより、健全な業務執行の維持・向上に取り組んでいます。

適時開示に係る当社の社内体制などの状況



■ 個人情報保護

WEB

ミサワホームグループでは、お客さまからの信頼とご満足を第一に考えた企業活動を基本としており、お客さまやその他の個人の方からお預かりする個人情報を大切に保護することを重要な責務と考えています。その責務を遂行するため、個人情報の保護に関する法律に基づきプライバシーポリシーを定め、これに従って個人情報の取り扱いを行うことを全社に徹底しています。万一、大規模な個人情報に関する事故が発生した場合には、その内容と経緯、対応方法と再発防止策などをホームページ上で開示します。昨年はグループ会社において住所・氏名などのお客さま情報の盗難、紛失事故などが10件発生し、対象となるお客さまには直接、事実関係のご報告とお詫びを申し上げました。

データ集

【2016年度環境活動実績】

判定基準 : 前年度より良化 : 前年度と同等 : 前年度より悪化

方針	環境行動目標	管理指標	2015年度実績	2020年度目標 (2015年度比)	2016年度実績	判定	自己評価
CO ₂ 排出量の削減	総CO ₂ 排出量削減 (スコープI・II・III)	売上高当たり CO ₂ 排出量	296.6t- CO ₂ /億円	▲20%	280.1t- CO ₂ /億円 (▲5.5%)		ZEH棟数の増加などにより、 居住段階のCO ₂ 排出量を削減。
	居住段階における CO ₂ 排出量削減	棟当たり CO ₂ 排出量	6.03t- CO ₂ /棟・年 (一般住宅)	▲40% (一般住宅比)	4.80t- CO ₂ /棟・年 (▲20.3%)		ZEH住宅の供給率向上により、 CO ₂ 排出量を削減。
	新築戸建住宅の ZEH供給率	ZEH供給率	7.5%	60%※	15%		ZEHの説明会や補助金制度などの 推進効果により、供給率が増加。
	新築集合住宅の 省エネ化	棟当たり CO ₂ 排出量	1,912kg- CO ₂ /棟・年	▲10%	1,875kg- CO ₂ /棟・年 (▲1.9%)		PV、省エネ設備を導入した 集合住宅の増加により、 CO ₂ 排出量を削減。
	既存住宅の 省エネリフォームによる CO ₂ 排出量削減	年間CO ₂ 削減量	1,371t- CO ₂ /年	1.3倍	940t- CO ₂ /年 (0.68倍)		FIT売電単価下落などの影響で、 太陽光発電システムの設置数が減少し、 目標未達。
	生産・輸送・ 建設段階における CO ₂ 排出量削減	棟当たり CO ₂ 排出量	5,022kg- CO ₂ /棟	▲3%	5,872kg- CO ₂ /棟 (16.9%)		工場再編に伴う運搬距離の増加により、 目標未達。
	事務所活動における CO ₂ 排出量削減	人当たり CO ₂ 排出量	721kg- CO ₂ /人	▲5%	665kg- CO ₂ /人 (▲7.8%)		組織見直しに伴う人員増加により、 CO ₂ 排出量を削減。
廃棄物削減と資源の有効活用	工場生産段階で発生する 廃棄物量削減	棟当たり発生量	650kg/棟	▲3%	459kg/棟 (▲29.4%)		工場機装などの廃止により、 廃棄物量を削減。
	新築現場で発生する 廃棄物量削減 (木質・鉄骨・木造の平均)	棟当たり発生量	2,878kg/棟	▲10%	2,907kg/棟 (1.0%)		廃棄物発生量が多い 集合住宅が増加。
	長期優良住宅の普及率を高め、 建物長寿命化により廃棄物削減・ 資源の有効活用を図る	商品比率	36% (3,820棟)	60%	48% (4,893棟)		各種補助金との連動により 比率が増加。 アパートは目標未達。
	新築戸建住宅の 長期優良化を推進	商品比率	50.4% (3,803棟)	80%	67.4% (4,882棟)		
	新築集合住宅の 長期優良化を推進	商品比率	0.6% (17棟)	5%	0.4% (11棟)		
	既存住宅の流通量を 増やすことにより、廃棄物削減・ 資源の有効活用を図る	既存住宅 流通事業 売上高	37億円	50億円 (2019年度)	36億円		新たな取り組みに着手。
自然共生社会の構築に向けた 生物多様性への配慮	森林認証を受けた 木材調達の推進	木材調達率	81% (構造材)	非構造材に 対象拡大 (目標値未定)	80% (構造材)		国産材を使用した LVL材の使用量が増加。
	クリーンウッド法への 適切な対応	対応拡大	— (2017.5施行)	事業者登録に おける 対象木材拡大	国交省・経産省の 運用検討会WGにて 業界意見集約	—	2017年秋頃に開始となる 事業者登録に向け、 社内調整対応を実施。
	環境共生住宅の推進	認定棟数	271棟	500棟	120棟		環境共生住宅を標準とした分譲商品の 継続や、分譲地全体での認定標準化に 取り組んだが、目標未達。
安全快適・健康に配慮した 住環境の整備	生産段階で使用する PRT対象化学物質の 使用量削減	m ² 当たり使用量	15.7kg/m ²	▲10%	15.8kg/m ²		TEXフリーへの 新たな代替品の切替なし。
	室内空気環境における VOC放散量の削減	VOC基準適合率	95%	100%	95%		全仕入先における 新たなVOC適合品の増加なし。
	Mスマート(ウェルネス)シティの 開発推進	開発物件数	2件 (累計6件)	毎年追加	2件 (累計8件)		「エムスマートシティ花咲台」 「エムスマートヒルズ真美ヶ丘」。

※2017年度より目標値を修正。

【マテリアル&エネルギーフロー】

2016年度事業活動に伴う環境負荷データ



住宅受注

研究・開発

工場生産

輸送

施工現場

事務所CO₂排出量

電力

2,731t-CO₂

都市ガス

148t-CO₂

水

3t-CO₂

事務所副産物リサイクル量

紙くず

61t

生産CO₂排出量

電力

7,895t-CO₂

LPG

99t-CO₂

ガソリン

9t-CO₂

軽油

97t-CO₂

灯油

437t-CO₂

LNG

2,023t-CO₂

水

32t-CO₂

生産副産物リサイクル量

木くず

1,365t

金属くず

393t

廃プラスチック類

423t

ガラス・陶磁器

445t

廃石膏ボード

562t

汚泥

862t

その他

136t

輸送CO₂排出量

電力

308t-CO₂

LPG

127t-CO₂

軽油

15,361t-CO₂

灯油

1t-CO₂

水

2t-CO₂

施工CO₂排出量

電力

1,969t-CO₂

ガソリン

5,569t-CO₂

軽油

2,273t-CO₂

施工副産物リサイクル量

木くず

2,767t

金属くず

281t

廃プラスチック類

1,337t

ガラス・陶磁器

5,412t

紙くず

2,706t

廃石膏ボード

7,182t

その他

2,843t

合計

2,882t-CO₂

合計

61t

合計

10,592t-CO₂

合計

4,186t

合計

15,799t-CO₂

合計

9,811t-CO₂

合計

22,528t

【スコープ1、2、3】

2016年度スコープ1、2、3におけるCO₂排出量

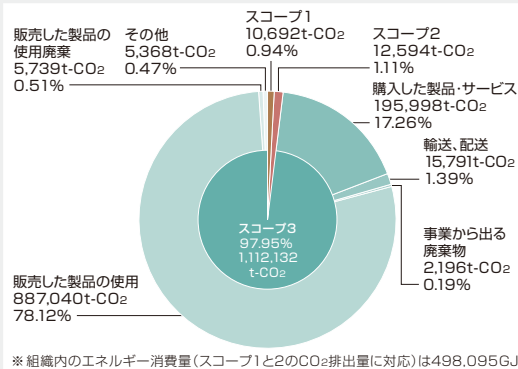
2016年度も環境省、経済産業省が推奨する「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン」に基づくスコープ1、2、3排出量を開示します。当社はスコープ3排出量のうち、特に居住時のCO₂排出削減に貢献する、環境に配慮した住宅の販売を推進しています。なお、資材調達・処理再生段階および居住段階は、戸建住宅に起因するものを算定しています。

- スコープ1

ミサワホームグループが使用した燃料に伴うCO₂排出量
- スコープ2

ミサワホームグループが購入した電力などに伴うCO₂排出量
- スコープ3

サプライチェーン全体におけるスコープ1、2以外のCO₂排出量



各データの算出の前提

- 集計対象範囲：ミサワホームおよびテクノエフアンドシーと協力工場。施工および解体は販売建設会社などを含む。スコープ3のCO₂排出量は、ミサワホームグループ外データ(原材料など)を含む。
- 集計対象期間：原則として2016年度(2016年4月～2017年3月)。データ集計の制限から、一部データは2016年度実績を推計。

開発・設計 (販売会社 を除く)	資源：OA紙類の購入量	工場生産	資源：新築住宅の生産に投入した資材量	居住段階	CO ₂ ：2016年度中に建築した住宅の居住時のCO ₂ 排出量推計値(居住年数を30年と仮定)
	エネルギー・CO ₂ ：本社事務所のエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量		エネルギー・CO ₂ ：当社10工場のエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量		
資材調達	廃棄物：本社の廃棄物	施工段階	廃棄物：当社10工場が排出した廃棄物	解体・廃棄	CO ₂ ：2016年に供給した住宅が30年後に解体、廃棄される場合のCO ₂ 排出量
	CO ₂ ：新築住宅の生産に投入した資材の生産(日本建築学会LCA指針)に伴うCO ₂ 排出量推計値		エネルギー・CO ₂ ：販売建設会社などの施工に伴うエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量推計値		
輸送段階	エネルギー・CO ₂ ：エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく特定荷主分のエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量		廃棄物：新築施工現場から排出された廃棄物	処理・再生	CO ₂ ：処理廃棄物を使用したリサイクル材製造によるCO ₂ 排出量



マテリアル&エネルギーフロー算出根拠

区分		算定基準・算定方法	排出係数	データ集計範囲
研究・開発	事務所エネルギー	各エネルギーの使用量	—	ミサワホーム本社、本館 (電力のみ支社、展示場を含む)
	事務所資源	OA用紙の購入量	—	
	事務所CO ₂ 排出量	事務所エネルギー使用に伴うCO ₂ 排出量	※1	
	事務所副産物リサイクル量	ミサワホーム本社の廃棄物排出量	—	
工場生産	生産エネルギー	工場におけるエネルギー使用量	—	木質工場7 木質部品工場2 セラミック工場1 計10工場(テクノエフアンドシーなど)
	主な生産資源	新築住宅の生産に投入した資材量	—	
	生産CO ₂ 排出量	工場におけるエネルギー使用量に対するCO ₂ 排出量	※1	
	生産副産物リサイクル量	工場で排出したリサイクル対象の廃棄物量	—	
輸送	輸送エネルギー：軽油	エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく特定荷主分のエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量	※1	車両(特定荷主分)
	輸送エネルギー全般			輸送基地(特定荷物分)
	輸送CO ₂ 排出量			車両・輸送基地
施工現場	施工エネルギー	1棟あたりCO ₂ 排出量×納品棟数÷環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度について」に記載の各種エネルギーのCO ₂ 換算係数	※2	地域の販売建設子会社など
	主な施工資源	新築住宅の生産に投入した資材量	—	
	施工CO ₂ 排出量	施工エネルギー使用量に伴うCO ₂ 排出量	※1	
	施工副産物リサイクル量	自社調査による平均副産物リサイクル量×施工棟数	—	
居住	居住CO ₂ 排出量	CASBEE・戸建を利用した自社による計算×新築戸建住宅棟数	—	対象年度の納品住戸
解体・廃棄	解体廃棄物排出量	解体した物件からの廃棄物量	※3	販売建設会社など
処理・再生	M-Wood2製造	廃棄物を使用したリサイクル部材製造量	—	梓川工場など

※1 CO₂排出量:各種エネルギーからのCO₂への換算は環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度について(2011年4月)」および「平成22年度の電気事業者ごとの実排出係数・調整後排出係数等の公表について」による。水使用量のCO₂への換算は東京都環境局「地球温暖化対策報告書作成」(ノドブック)による。 ※2 一棟当たりCO₂排出量は自社調査時の基礎データによる。 ※3 「住宅・土地統計調査」木造建築物解体工事の現場(社会法人全国解体工事団体連合会)データによる。

【環境会計】

ミサワホームの環境保全コストおよび効果

項 目	環境保全				効 果			
	内 容	コスト(百万円)		内 容	経済効果(百万円)		CO ₂ 削減効果(t-CO ₂)	
		2015年度	2016年度		2015年度	2016年度	2015年度	2016年度
事務所活動	省資源推進費	2	2	省エネルギー(電気・水道)効果	▲ 1	▲ 4	▲ 71	▲ 137
	省エネルギー推進活動	6	6	—	—	—	—	—
	廃棄物処理費	4	4	廃棄物排出量削減効果	▲ 1	0	▲ 9	▲ 21
省エネ・創エネ	高断熱・高気密住宅などの開発費	340	291	居住段階の光熱費削減効果(推定)	1,209	1,067	18,892	16,670
	高度工業化推進費(工期短縮)			現場生産エネルギー削減効果(推定)	9	20	193	340
	物流改善のための推進費			輸送エネルギー削減効果	▲ 4	32	▲ 106	731
省資源	省部材設計のための開発費			資源使用量の削減効果	▲ 274	38	▲ 832	114
新素材・リサイクル	M-Wood、M-Wood2の開発費	340	291	M-Woodによる廃棄物排出量削減効果	—	—	6,357	4,474
長期耐久性	長期耐久技術開発費			木材による炭素固定	—	—	17	72
健康な居住環境	VOC対策のための開発費			—	—	—	—	—
自然環境	環境に配慮したまちなみづくり支援費	36	0	—	—	—	—	—
廃棄物	SJC、広域認定など	194	192	廃棄物処理費用などの削減効果(推定)	0	0	0	0
環境マネジメントシステム	EMS運用費(環境測定費含む)	36	29	—	—	—	—	—
	社員への環境教育費	2	1	—	—	—	—	—
	環境保護団体への寄付・支援	3	1	—	—	—	—	—
	環境情報提供(環境報告書作成、環境イベント出展)	10	8	—	—	—	—	—
合 計		633	534		939	1,152	24,440	22,242

※ 小数点以下の四捨五入のため、合計額が合わないことがあります(以下同じ)。

ミサワホーム工場の環境保全コストおよび効果

項 目	環境保全					効 果				
	内 容	コスト(百万円)				内 容	経済効果(百万円)		CO ₂ 削減効果(t-CO ₂)	
		木 質		セラミック			2015年度	2016年度	2015年度	2016年度
		2015年度	2016年度	2015年度	2016年度					
公害防止	排ガス浄化および排出抑制のための維持管理費	69	58	24	26	—	—	—	—	—
	排水浄化設備の維持管理費	29	17	14	14					
	排水・排ガスなどの測定費	2	2	2	1					
	その他公害防止費(防音壁、防油堤設置など)	0	0	0	0					
省エネルギー	エネルギー消費設備などの改善費	0	0	0	0	工場生産エネルギー削減効果	123	64	653	▲ 135
	再生可能エネルギー設備の維持管理費	2	0	0	0					
	工場建物の断熱化工事費	29	7	7	2					
省資源・リサイクル	木材有効利用(M-Wood等)のための費用	34	30	—	—	廃棄物処理費用などの削減効果	1	0	0	0
	排水リサイクルのための費用	0	0	2	2					
	リサイクルのための費用(金属、廃スラグなど)	40	38	17	17					
廃棄物	廃棄物処理関連費	8	6	2	0	—	—	—	—	—
	廃棄物の減量・減容化のための費用	4	1	0	0					
自然環境	工場内緑化の維持管理費	5	3	2	1	—	—	—	—	—
環境マネジメントシステム	EMS構築・運用費	14	12	12	5	—	—	—	—	—
	社員への環境教育費	6	5	6	2					
合 計		241	181	88	70	合 計	125	64	653	▲ 135

(参考)環境省ガイドラインによる集計

単位:百万円

環境省ガイドライン集計項目			環境保全コスト(費用)		ミサワホーム		ミサワホーム工場			
							木質工場		セラミック工場	
			投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額		
1	生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)	①公害防止コスト	0	0	8	78	1	41		
		②地球環境保全コスト	0	6	9	7	3	2		
		③資源循環コスト	12	197	0	75	0	19		
2	生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)		0	0	0	0	0	0		
3	管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)		0	30	0	17	0	7		
4	研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)		0	291	0	0	0	0		
5	社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)		0	10	0	3	0	1		
6	環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)		0	0	0	0	0	0		
小 計			12	534	18	181	5	70		
合 計			投資額		34		費用額	785		

集計対象

会計対象期間 2016年4月～2017年3月 会計対象範囲 ミサワホーム(本社・本館、関東資源循環センター) ミサワホーム工場10工場(木質工場*9工場、セラミック工場1工場) 集計方法 環境省発行の「環境会計ガイドライン」の基準に沿って算出、当社独自の項目で集計。 環境投資 環境保全に関わる新規投資は、ミサワホームが12百万円、木質工場*が18百万円、セラミック工場が6百万円。 経済効果 実質的效果および推定的効果を計上。 実質的效果…環境保全活動の結果得られた節約益、有価売却益を計上。 推定的効果…環境保全活動が寄与したとみなされる付加価値など、仮定的な計算に基づく効果を計上。 CO₂削減効果 環境目的・目標の実績をもとに、環境活動評価プログラム(環境省)および(一社)プレハブ建築協会エコアクションのCO ₂ 排出量の算出方法により計上。
--

※ 木質部品工場(2工場)を含む

【環境マネジメントシステム】

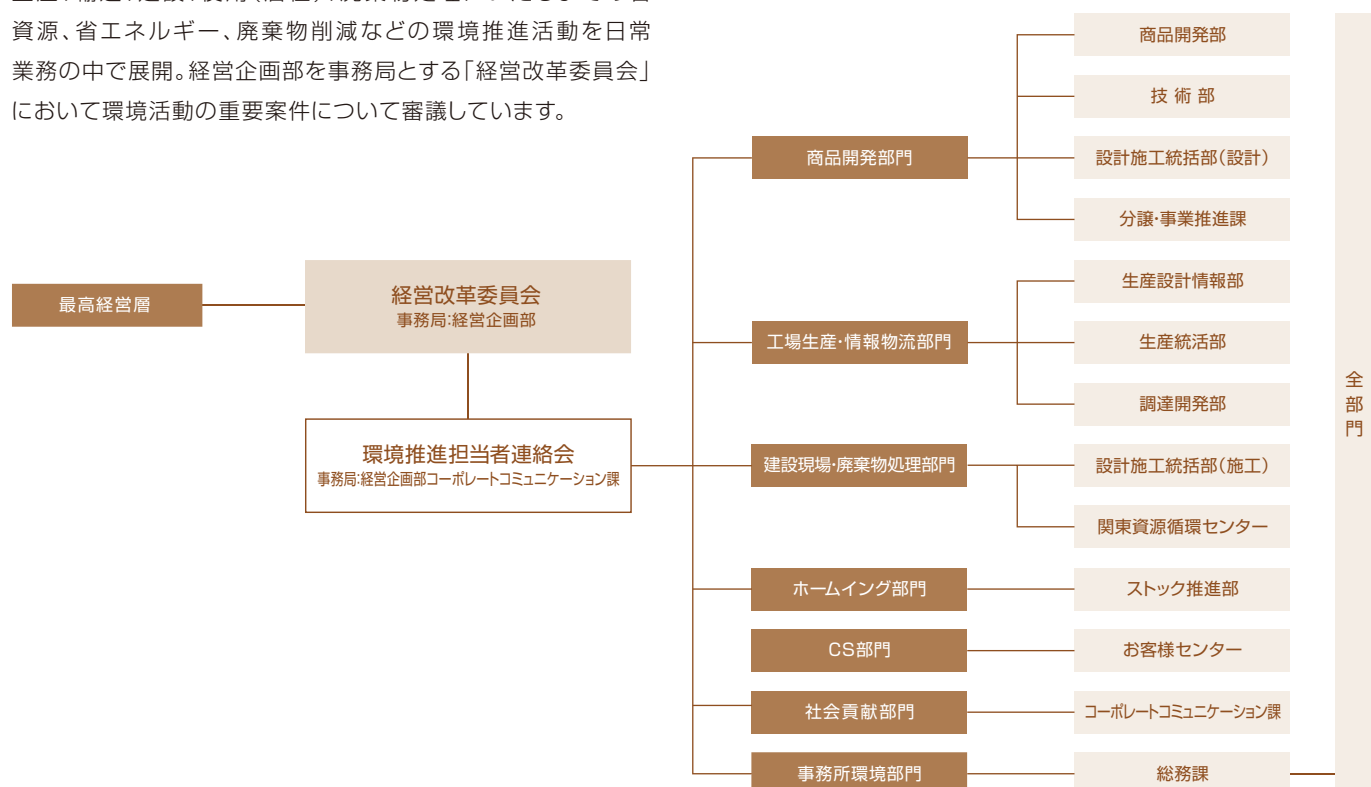
【環境方針】

ミサワホーム株式会社は、ミサワホームグループの環境理念を踏まえ、事業活動を以下の方針に基づいて行います。

- 1 当社の活動、製品、サービスにかかわる環境影響を的確に把握し、この環境方針達成のため、中期的な環境目的と年度環境目標を設定し、定期的な見直しを行うことで環境管理システムの質の継続的改善を図ります。
- 2 住宅のライフサイクルを通じて、環境に配慮し、安心で快適な住まいと良好な住環境の形成を推進します。
- 3 事業所内活動において、環境負荷の低減を図るため、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減に努めます。
- 4 環境関連の法律・規則・協定ならびに自主的に定めた規制や基準を遵守し、環境保全を図ります。
- 5 環境保全、社会貢献などの協働活動の機会を通じて、当社にかかわる方々との環境パートナーシップを強め、広く社会と双方向のコミュニケーションを図ります。
- 6 環境教育を通じて一人ひとりの環境意識の向上を図り、持続可能な社会の実現を目指して社会・地球における環境保全活動を実施していきます。

●環境活動の推進体制

生産、輸送、建設、使用（居住）、廃棄物処理にいたるまでの省資源、省エネルギー、廃棄物削減などの環境推進活動を日常業務の中で展開。経営企画部を事務局とする「経営改革委員会」において環境活動の重要案件について審議しています。



(2017年4月現在)

●ISO14001 認証取得

1997年、ミサワホーム松本工場が業界初の環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001認証を取得（1997年6月13日）以来、生産工場、関連会社にいたるまで認証取得を行い、現在ミサワホーム生産工場9工場および関連企業1社が取得しています。また、内部・外部監査などを通して事業活動や苦情処理の継続的改善に努めています。

ISO14001 認証取得工場・会社一覧

工場（取得年月日）			
木質工場	福岡工場……………	2000年7月1日	木質工場
	沼田工場……………	2000年12月1日	磯原工場……………
	岩手工場……………	2001年1月1日	札幌工場……………
	梓川工場 [※] ……………	2001年2月1日	岡山工場……………
	山梨工場……………	2001年3月24日	名古屋工場……………
			2001年3月31日
			セラミック工場
			名古屋工場……………
			2001年3月31日
			関連会社
			ミサワホーム・フィンランド工場……………
			1999年4月12日

※木質部品工場

(2017年4月現在)

【CSR指標2016年度実績】

ISO26000 中核主題	区分	CSR指標	2015年度実績	2016年度実績
組織統治	①財務	適時開示件数	8件	10件
		決算説明会開催回数	4回	4回
人権	③人権の尊重と育成	強制労働・児童労働の有無	無 ※	無 ※
		ヘルプライン通報件数(社員)	31件 ※	40件 ※
	⑨グローバル対応	海外事業所における強制労働・児童労働の有無	無 ※	無 ※
労働慣行	⑤労働慣行・育成	新卒採用者数	57名、177名 ※	74名、172名 ※
		中途採用数(ミサワホームグループは直系ディーラー)	18名、159名 ※	14名、112名 ※
		定年後再雇用者数	32名	31名
		平均勤続年数 男性	15.5年	18.4年
		平均勤続年数 女性	10.8年	13.1年
		年間離職率	2.2%	3.6%
		有給休暇取得率	35.7%	27.2%
		育児休業取得 女性	26名	28名
		育児休業取得 男性	2名	4名
		介護休業取得者数	4名	0名
		時短措置取得者数	81名	104名
		従業員一人当たりの所定外労働時間数	28.3時間/月	26.4時間/月
		障害者雇用率	1.28%	1.78%
		外国籍従業員雇用者数	3人	3人
		★女性管理職比率	1.6%、2.8% ※	1.6%、3.8% ※
		女性社員比率	18.6%、22.5% ※	18.7%、21.8% ※
		★労災事故発生件数(休業4日以上)	54件	47件
		有資格者数 1級建築士	340名、720名 ※	380名、715名 ※
		有資格者数 宅地建物取引士	850名、2,056名 ※	929名、2,062名 ※
環境	⑧環境	環境活動の実績と自己評価	CSR 2016 P41-42参照 ※	本誌 P48参照 ※
公正な事業慣行	②コンプライアンス	コンプライアンス研修開催件数	21回 ※	11回 ※
		コンプライアンス研修参加者数	820名 ※	512名 ※
	⑥CSR調達	★個人情報漏洩事故発生件数	15件 ※	10件 ※
		ヘルプライン通報件数(取引先)	0件 ※	0件 ※
消費者課題	④商品・サービス	CSR 調達ガイドラインの有無	有(木材調達ガイドライン)	
		取引先との協業の有無	調達方針会議 年2回開催 ※	
		特許出願件数	62件	20件
		特許取得件数	111件	94件
		研究開発費用	1,891百万円 ※	1,365百万円 ※
		設計性能評価取得率	63.5% ※	65.2% ※
		建設性能評価取得率	59.6% ※	55.6% ※
		★長期優良住宅認定取得率	36% ※	48% ※
		Gマーク取得累積件数	133件	140件
		紹介件数(ミサワホームオーナーさま、入居者からの紹介件数)	4,140件 ※	3,832件 ※
		ニュースリリース件数	37件	48件
		HPページビュー件数(年間)	4,792万件 ※	3,974万件 ※
		★お客さま満足度(総合) (オーナーさまお伺い書で5段階評価のうち、「満足」と「まあ満足」が全体に占める比率)	92.7% ※	93.4% ※
		★お客さま満足度(建物) (オーナーさまお伺い書で5段階評価のうち、「満足」と「まあ満足」が全体に占める比率)	95.6% ※	96.1% ※
コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	⑦コミュニティ	★環境共生住宅棟数	271棟 ※	120棟 ※
		コールセンター苦情受付率 (コールセンターでの全体受付の中で近隣苦情の占める比率)	0.69% ※	0.70% ※
		「南極クラス」開催件数・受講生徒(児童)数	193校・22,556名 ※	283校・29,375名 ※
		「ECO になる家の会」会員数	5,258組	5,256組
	⑩地域経済への貢献	業界関連団体への人材派遣数(出向含む)	12名	13名
		政党、関連政治団体への政治献金額	400万円	530万円
		寄付・募金額	760万円	623万円

★CSR重点指標(P11参照) ※ミサワホームグループの実績を含む場合。



独立した第三者保証報告書

2017年6月8日

ミサワホーム株式会社
代表取締役 竹中 宣雄 殿

EY新日本サステナビリティ株式会社
東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
目比谷国際ビル

代表取締役 塚原 正彦

業務責任者 沢味 健司

当社は、ミサワホーム株式会社(以下、「会社」という。)からの依頼に基づき、会社が作成した「2017年度ミサワホームCSRレポート」(以下、「レポート」という。)の「マテリアル&エネルギーフロー」に記載されている2016年4月1日から2017年3月31日までを対象とする会社及び主要子会社の重要なサステナビリティ情報(以下、「指標」という。)について限定的保証業務を実施した。保証の対象とし、手続を実施した指標については、レポートの該当箇所にマーク(Q)を付した。

1. 会社の責任

会社は、日本の環境法令等に準拠した基準(レポートの54頁マテリアル&エネルギーフロー算出根拠)に従いレポートに記載されている指標を算定する責任を負っている。なお、温室効果ガスの排出量の算定には、排出係数を用いており、当該排出係数の基となる科学的知識が確立されておらず、また、温室効果ガス排出量の算定の過程で使用される測定装置固有の機能上の特質及びパラメータの推定的特質から固有の不確実性の影響下にある。

2. 当社の独立性と品質管理

当社は、誠実性、公正性、職業的専門家としての能力及び正当な注意、守秘義務、及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく、「職業会計士に対する倫理規程(Code of Ethics for Professional Accountants)」(国際会計士倫理基準審議会^{*1} 2013年3月)に定める独立性を遵守した。また当社は、親会社である新日本有限責任監査法人のグループ(当社を含む)として、「国際品質管理基準第1号(International Standard on Quality Control 1)」(国際監査・保証基準審議会^{*2} 2009年4月)に準拠しており、倫理規則、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

3. 当社の責任

当社の責任は、実施した手続及び入手した証拠に基づいて、レポートに記載されている指標に対する限定的保証の結論を表明することにある。当社は、「国際保証業務基準3000(改訂)過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務(Assurance Engagements Other than Audits or Reviews of Historical Information)」(国際監査・保証基準審議会^{*2} 2013年12月)、「サステナビリティ情報審査実務指針」(一般社団法人サステナビリティ情報審査協会 2014年12月)及び温室効果ガス報告に関しては、「国際保証業務基準3410 温室効果ガス報告に対する保証業務(Assurance Engagements on Greenhouse Gas Statements)」(国際監査・保証基準審議会^{*2} 2012年6月)に準拠し、限定的保証業務を実施した。

当社の実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、質問、文書の閲覧、分析的手続、レポートに記載されている指標の基礎となる記録との一致、及び以下を含んでいる。

- ・ 日本の環境法令等に準拠した基準に関する質問及び適切性の評価
- ・ レポートに記載されている指標に関する内部統制の整備状況に関する本社及び工場(1か所)における質問、資料の閲覧
- ・ レポートに記載されている指標に対する本社及び工場(1か所)における分析的手続の実施
- ・ レポートに記載されている一部指標に対する本社及び工場(1か所)における試査による根拠資料との照合、再計算

限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務で実施する手続と比べて、その種類、時期、範囲において限定されている。その結果、当社が行った限定的保証業務は、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。

4. 結論

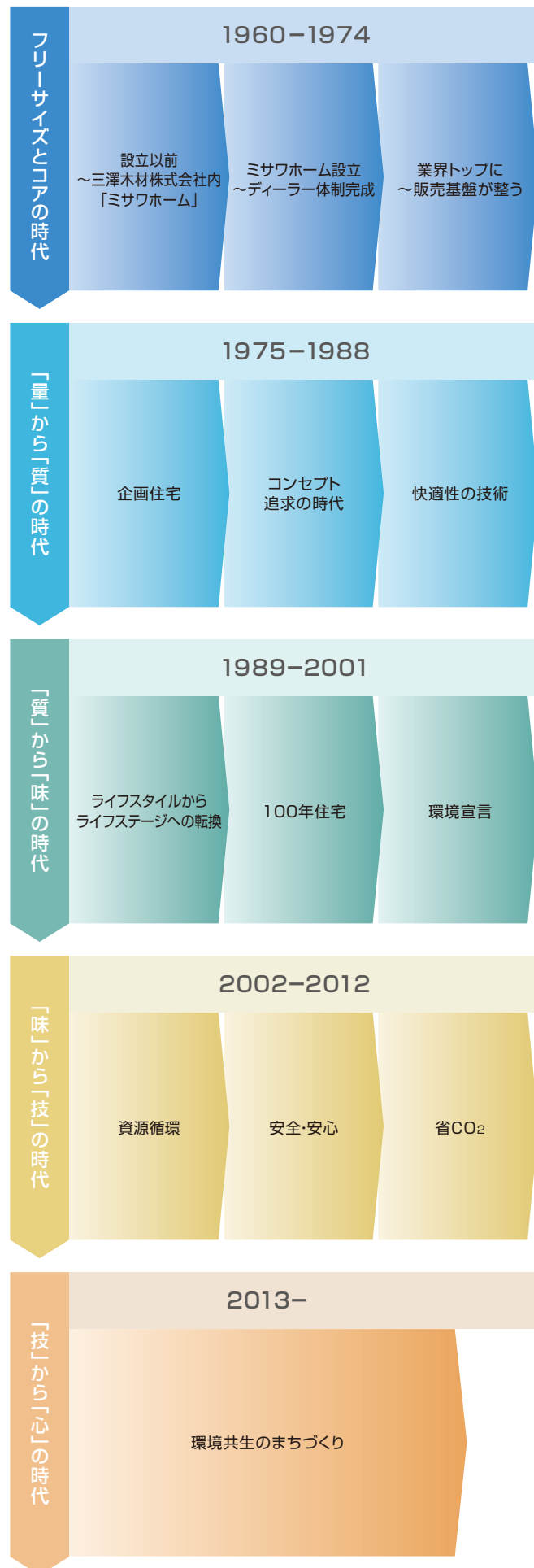
当社が実施した手続及び入手した証拠に基づいて、レポートに記載されている指標が日本の環境法令等に準拠した基準に従って算定、開示されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

以上

*1 International Ethics Standards Board for Accountants

*2 International Auditing and Assurance Standards Board

HEARTH History WEB



1960

- すぐれた断熱性・気密性を実現する画期的な「木質パネル接着工法」による工業化住宅を開発

1962

- 「木質パネル接着工法」が建築基準法38条(当時)認定を取得
- 三澤木材株式会社内プレハブ住宅部「ミサワホーム」として営業を開始



1975

- 「QUALITY21計画」を発表

①長生きする家②ひとまわり大きな家③三世代住宅④子ども中心の住まい⑤防犯・防災住宅⑥静かな家⑦長持ちする家⑧5サイクル住宅⑨設備交換住宅⑩省エネルギー住宅⑪メンテナンス住宅⑫財産形成住宅

- 「量」から「質」の時代への変化を予測した開発を進める
- 通産大臣(当時)から「品質管理優良工場」の認定を取得

1976

- 「ミサワホームO型」を企画住宅と名づけ発表
- 空前のヒットとなり、企画住宅時代の幕開けとなる
- 「ハウス55開発提案競技」に入選



1989

- アメリカの社会運動家ラルフ・ネーダー氏が来日し、新たな住宅・環境問題に対する「7つの提言」を提唱
- 「NEAT」が日本経済新聞社、優秀製品最優秀賞を受賞



1990

- 「GOMAS」の「高級引き違いサッシ」が、通産省(当時)のグッドデザイン部門別大賞を受賞
- 地球環境を視野に入れた「環境宣言」を発表



2002

- 夏も冬も旨とする住まい「微気候デザイン」を開発
- 「M-Wood2」が再生有機系建材認定基準第一号に認定



2004

- 実大振動実験における13回の想定大地震にも構造体の損傷ゼロを確認した制震装置「MGEO」発売



2013

- 平成25年度第2回住宅・建築物省CO₂先導事業に「エムスマートシティ熊谷」が採択
- 国内の4拠点で太陽光発電設備を稼働



2014

- 森林里親促進事業「ミサワホームの森 松本」開設
- 「環境モデル都市」つくば市に建築した分譲住宅が最高ランクのLCCM住宅認定を取得



1965

- プレハブ部材専門工場が松本に完成
- 大型パネルによる「ホームコア」試作住宅第一号建設



1967

- ミサワホーム株式会社設立
- 「木質パネル工法」が評価され、第9次南極観測の「第9居住棟」および「ヘリコプター格納庫」にミサワホームが採用



1969

- 研究開発体制を強化、充実させるため、開発室を改組して「ミサワホーム総合研究所」を設置
- 大型パネルを使用した「ホームコア」完成



1974

- 「ミサワホームF」と「ミサワホームC」がそれぞれ工業化住宅認定を取得
- 省エネルギーの到達目標を明示した、「エコ・エネルギー計画」を発表



1980

- 太陽熱を利用する独自の温水システムを搭載した省エネルギー型ソーラーハウス「ミサワホームSⅢ型」を発売



1985

- 「センチュリーA8」が建設省(当時)の推奨するセンチュリー・ハウジング・システム第一号として評価



1988

- 木質系3階建の実大構造実験を実施
- ホームエレベータの開発など、快適さを追求した開発が続く



1988

- さらに進んだ土地開発を実践した「オナースヒル神戸学園都市」が設計競技に入選



1993

- 超微粒子木材を用いて木資源を余すことなく活用する「M-Wood」を開発
- ミサワホームグループが設計・施工・運営まで行う介護専用型高齢者住宅「マザース南柏」が完成



1996

- 「GENIUS蔵のある家」が住宅業界初のグッドデザインランプリを受賞
- 住まいのテクノロジーを紹介する「MIFパーク」が完成
- ミサワバウハウスコレクションが開設



1997

- 環境保全への取り組みをまとめた新・環境宣言「HEARTH」を宣言

1998

- 100%リサイクルの素材「M-Wood2」を開発



1999

- 業界初の「地球環境大賞」を受賞
- ミサワホームが「ISO 14001」の認証を取得



2009

- 子育て子どもたちの成長を応援する保育園事業者との初コラボレーション
- 「SMART STYLE ZERO」が業界初の「ゼロCO₂」認証取得



2010

- ライフサイクルCO₂マイナス住宅「ECO Flagship Model」が完成
- 生物多様性に配慮した木材調達方針「木材調達ガイドライン」の策定



2011

- リフォームでもスマートハウス化「ECO SMART REFORM」を提案
- 耐震木造住宅「MJ Wood」の販売力を強化するために、専門の販売会社「ミサワMJホーム」を設立



2012

- 大規模木造建築物を実現する独自構法「FWS(フューチャー・ウッド・システム)」を開発
- 地域特性に配慮した「スマートタウン」を本格展開



2015

- 防災・減災ソリューション「MISAWA-LCP」を提案
- 家のIoTを実現した被災度判定計「GAINET」を発売



2016

- ミサワホーム初の5階建対応商品「URBANCENTURY」発売
- ZEHロードマップを策定





発行部署 ミサワホーム株式会社
経営企画部 コーポレートコミュニケーション課

〒163-0833 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号

お問い合わせ先 TEL:03-6316-2701 FAX:03-5381-7838 E-Mail:hokokusho_eco@home.misawa.co.jp
www.misawa.co.jp/corporate/csr/

2017.6 発行



みんなでシェアして、低炭素社会へ。
ミサワホームグループ



未来の
ために、
いま選ぼう。